



HONDA

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

メンテナンス

万一の場合には

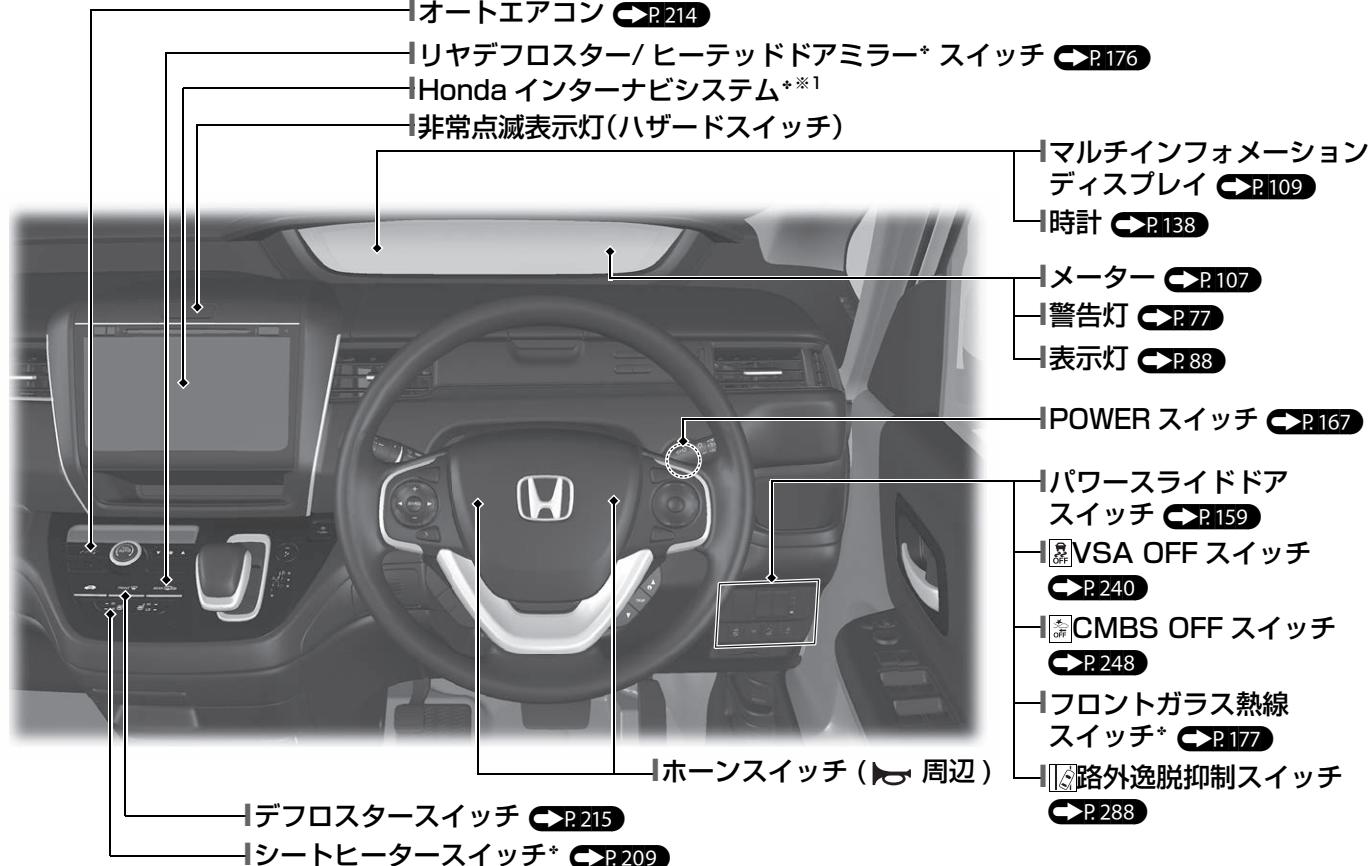
資料

索引

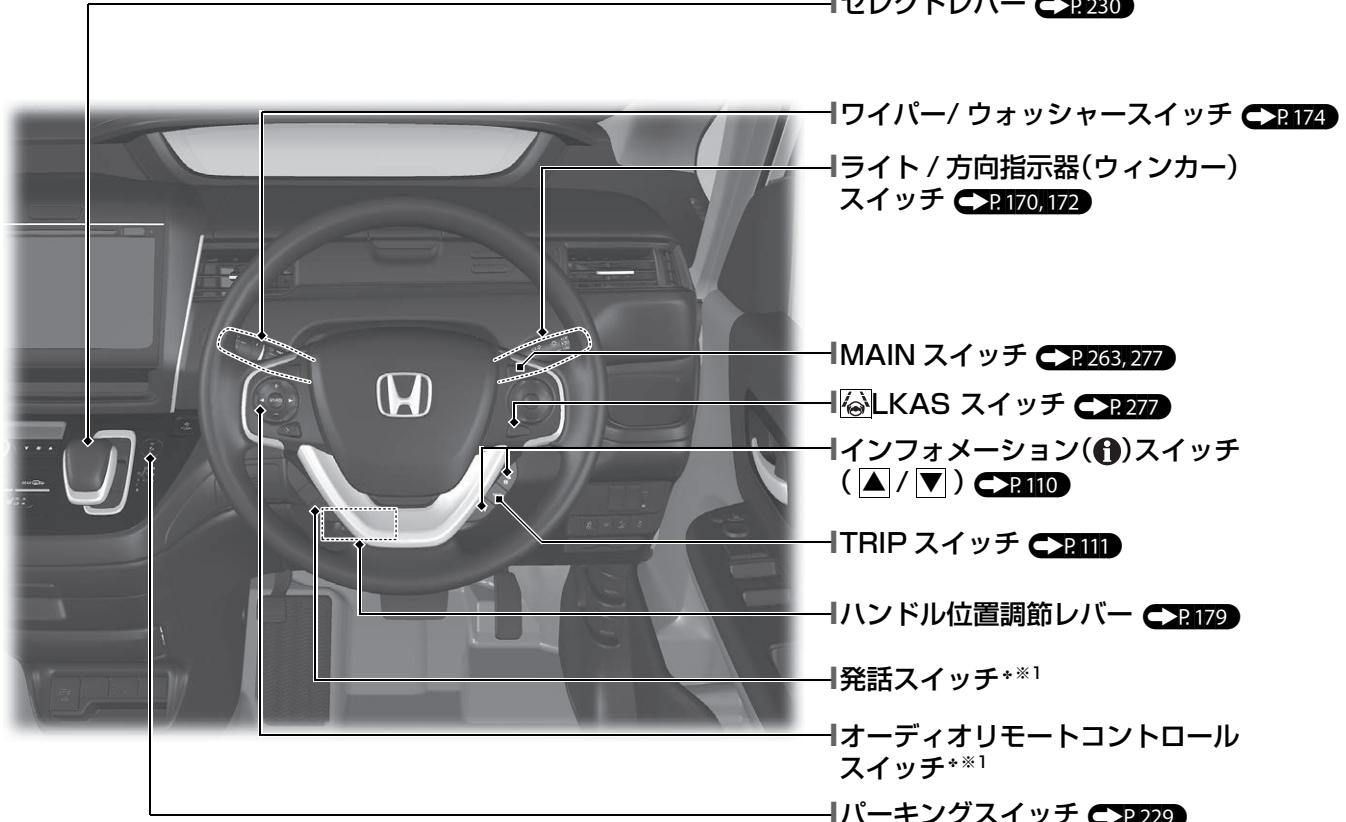
Freed Hybrid Freed+ Hybrid

オーナーズマニュアル

ビジュアル目次



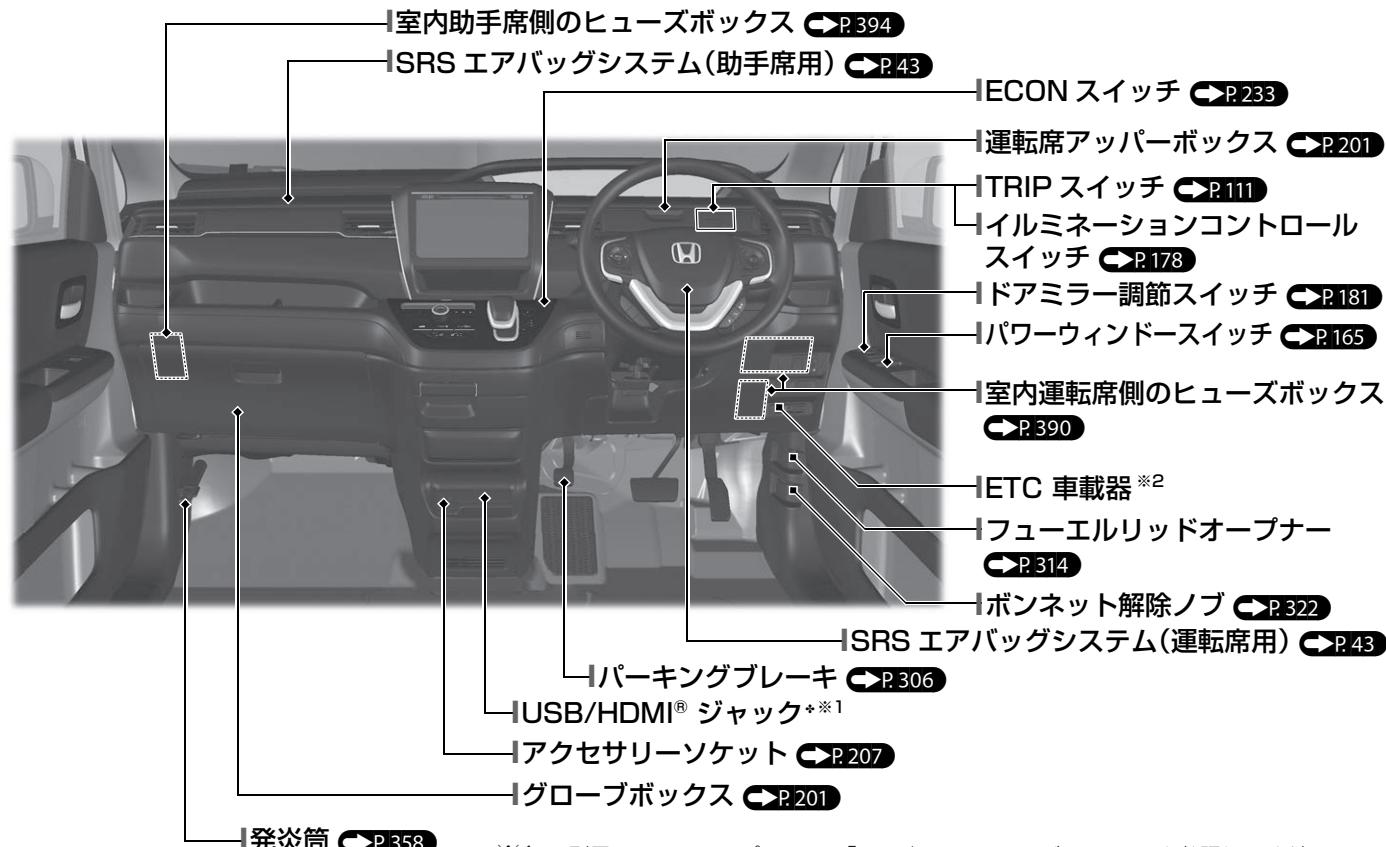
※1：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。



*1：別冊のメーカーオプションの「Hondaインターナビシステム」を参照してください。

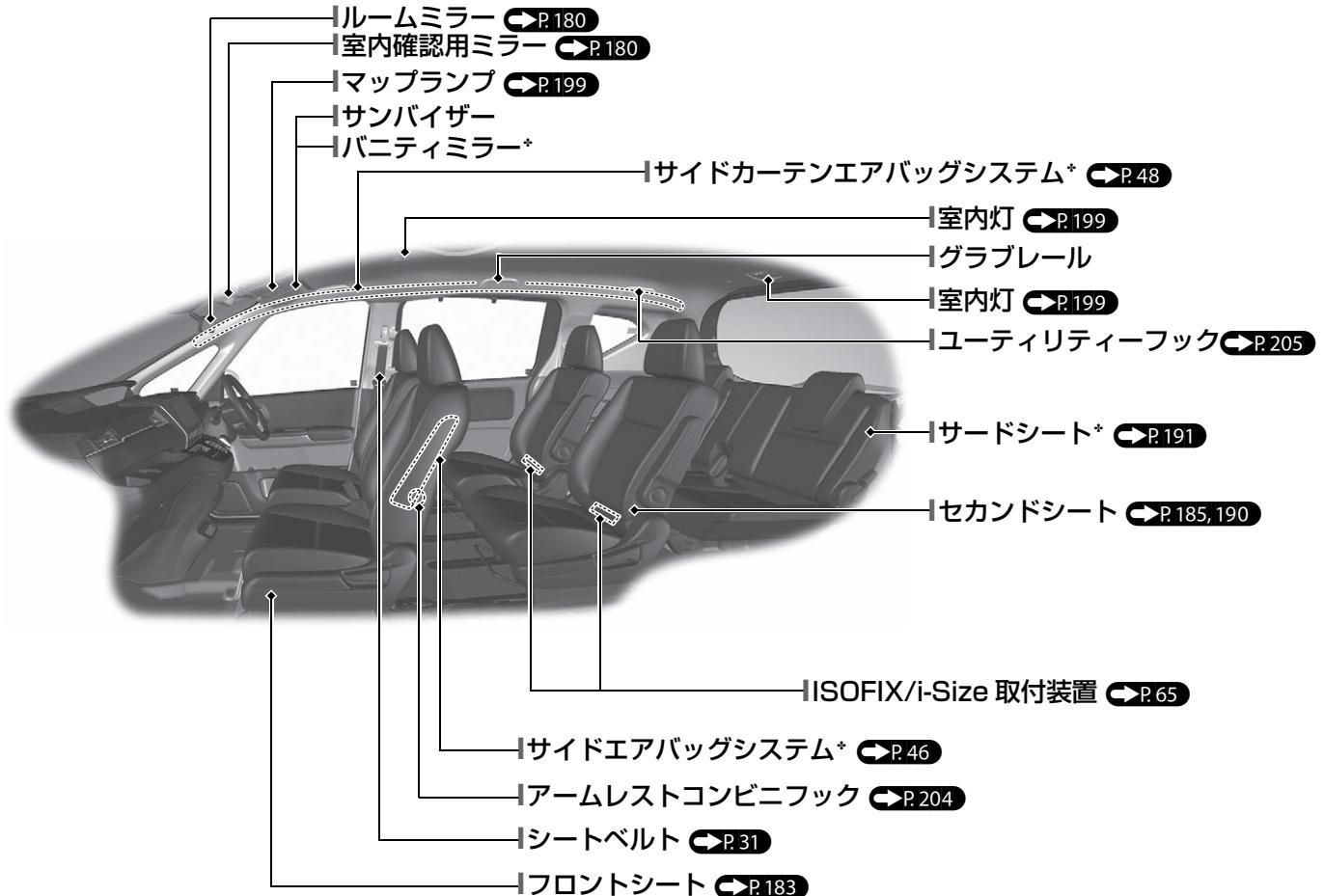
この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



*1：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

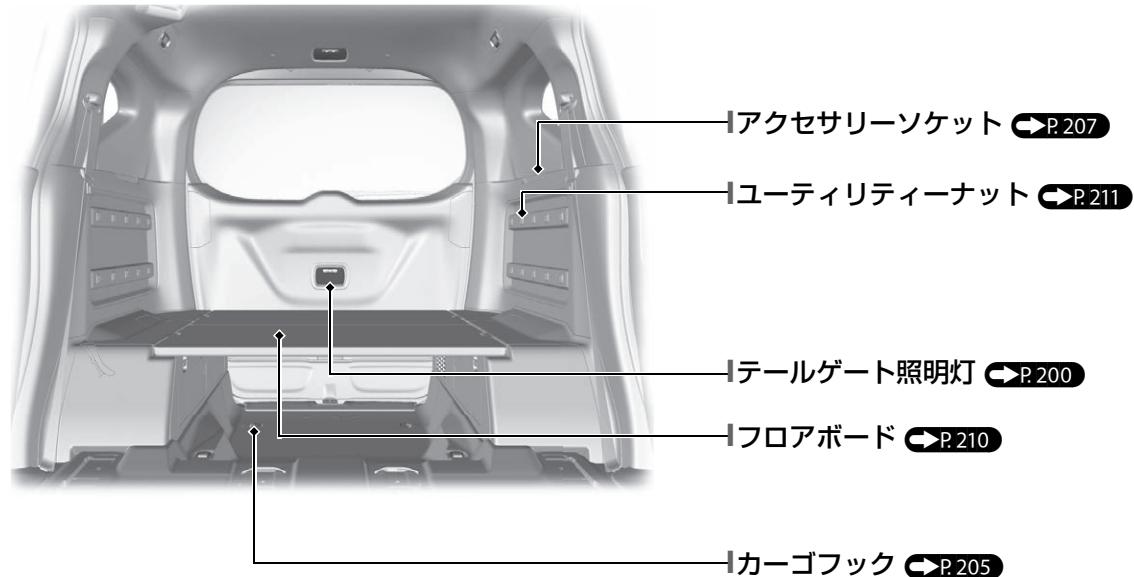
*2：ETC 車載器については、別冊の取扱説明書を参照してください。

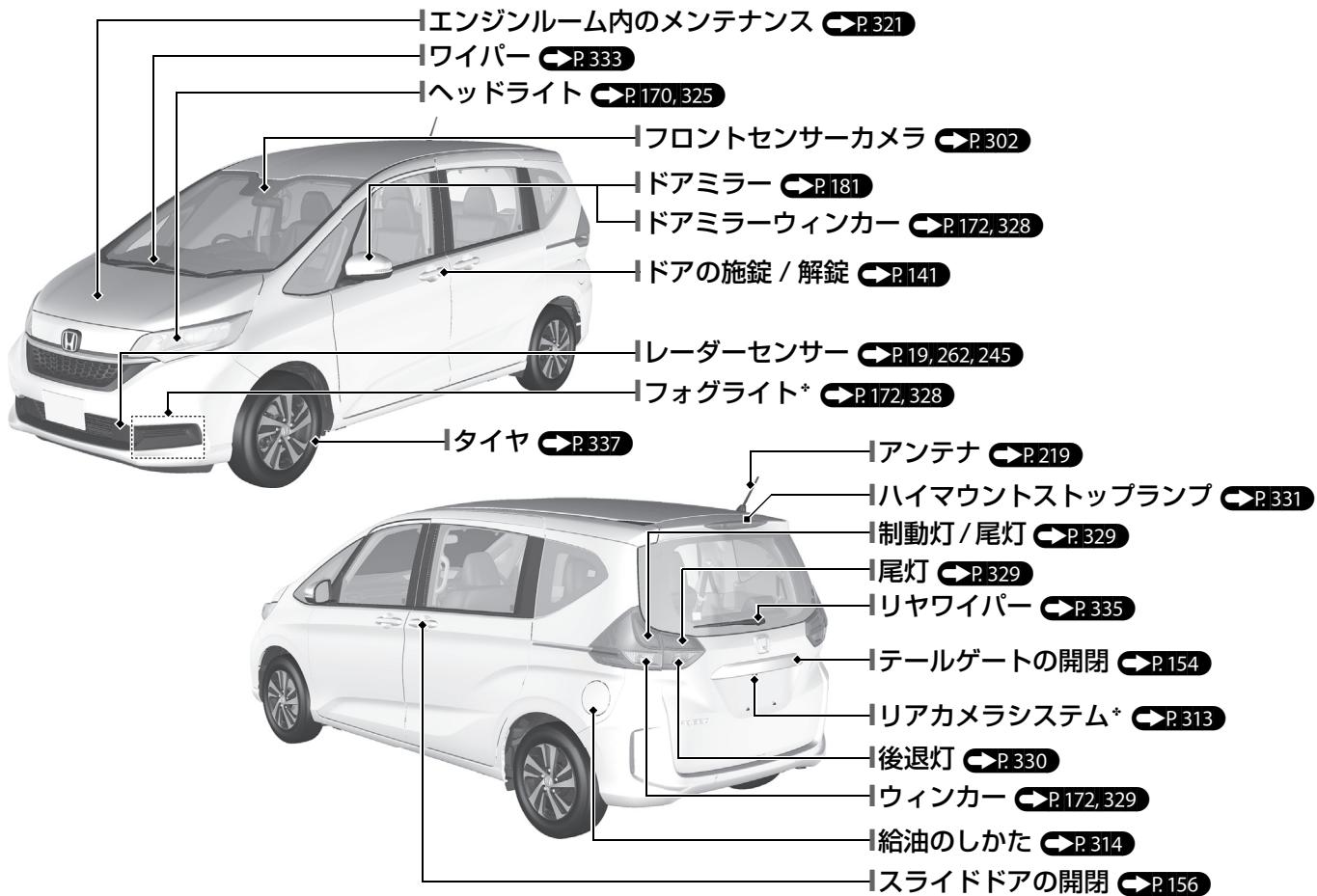


この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

FREED+



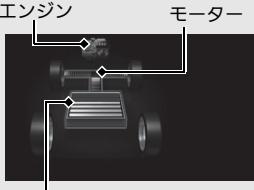
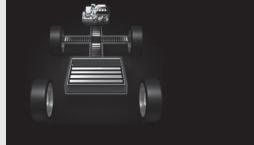
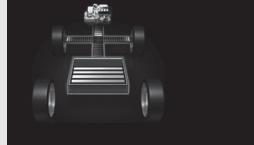
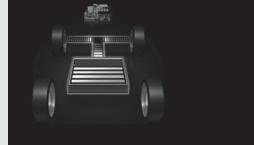


この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

スポーツ ハイブリッド i-DCD (インテリジェント デュアルクラッチ ドライブ)

スポーツ ハイブリッド i-DCD は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。

⇒ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示 ➔ P.118

走行モード	EV 走行	ハイブリッド走行	エンジン走行(直接駆動)	回生
走行状態	発進加速・低速および中速クルーズ時 <ul style="list-style-type: none"> モーターの動力のみで走行 モーターだけでの走行になると、メーター内の EV 表示灯が点灯します。 ⇒ EV 表示灯 ➔ P.90 	しっかりととした加速時 <ul style="list-style-type: none"> エンジンとモーターの動力で走行 	ゆるやかな加速・高速クルーズ時 <ul style="list-style-type: none"> エンジンの動力のみで走行 車の状態に応じて、モーターを発電機として作動させ、高電圧バッテリーに充電します。 	減速中かつアクセルペダルも操作していないとき <ul style="list-style-type: none"> モーターが回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。
パワーフロー モニター	 エンジン モーター 高電圧バッテリー (ブルー)	 (ブルー)	 (ブルー/グリーン)	 (グリーン)
モーター	作動	作動	発電	回生
エンジン	停止	作動	作動	停止 / 出力なし
高電圧 バッテリー	放電	放電	充電 / 放電	充電

省燃費運転の方法

燃費をよくするため、次の点に気をつけて走行してください。

- 不必要な急加速、急減速を避ける
- メーターに表示される燃費表示を参考に走行する → P.107

バッテリーのタイプ

2種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための12Vバッテリーと、モーターの駆動と12Vバッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、発電した電気を高電圧バッテリーに充電します。

この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをします。

エンジンの自動停止・始動

車の状態に応じて、エンジンが自動的に停止、始動します。停車中は、エンジンが停止状態から始動することがあります。
ただし、以下の状態では自動的に停止しないことがあります。

- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間に駆動力が足りず補助が必要なとき
- オートエアコンの温度を過度に高く設定しているとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき

これらの状態以外でも、エンジンが自動的に停止しない場合があります。

次のようなときは、エンジンが自動的に始動することがあります。

- シフトポジションがPのまま、運転席のシートベルトをはずし、運転席ドアを開けたとき

ハイブリッド車について

高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。

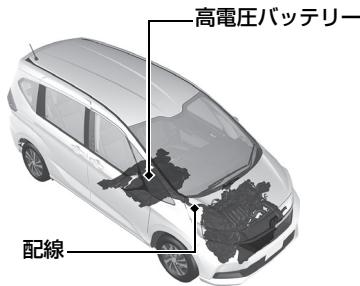
従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

ハイブリッド車特有の音について

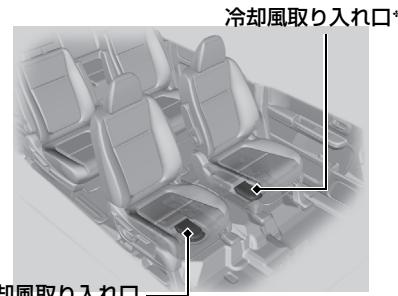
車の始動時や走行中に、次のような箇所から、音が聞こえることがあります、異常ではありません。

音が聞こえるとき	状況
エンジンの始動 / 停止、低速走行時	トランスマッisionの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジルーム内から聞こえます。
減速時・停車時	エネルギーを回生するために、モーター回生作動音がエンジルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだとき、アクセルペダルを踏んでいるときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがあります。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジルーム内から聞こえます。

ご使用時の注意



冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や12Vバッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムの分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ずHonda販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

- ▶車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線(オレンジ色)には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

- ▶高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

- ▶少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda販売店で修理を受ける。

- ▶車体が損傷を受けたときは、必ずHonda販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的にOFFになり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

ホンダバッテリー回収窓口 0120-910574(フリーダイヤル)

エコアシストシステム

ECO ドライブディスプレイ

P.113

運転操作の状態に応じて車両のアイコンが前後に動きます。

- 急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。
- 円の中心に車両アイコンが維持できるように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。運転操作の状態に応じて、背景の色が変化します。



ゆるやかな
減速

↔



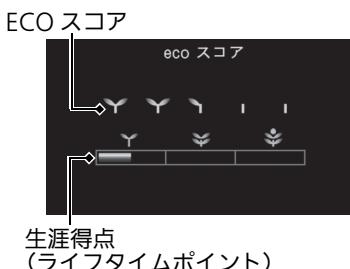
ゆるやかな
加速

↔



ECO スコア

- パワーモードを OFF モードにしたときに表示します。



2nd ステージへ
ランクアップ

↔

1st ステージへ
ランクダウン

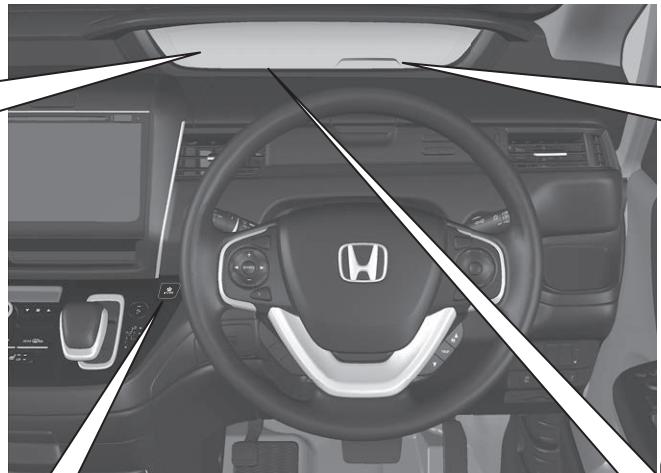


3rd ステージへ
ランクアップ

↔

2nd ステージへ
ランクダウン





ECON スイッチ



●スイッチを押すと、ECON モードが ON になります。

P.233

アンビエントメーター

- 運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色がグリーンに変化します。



アンビエントメーター

ECON 表示灯

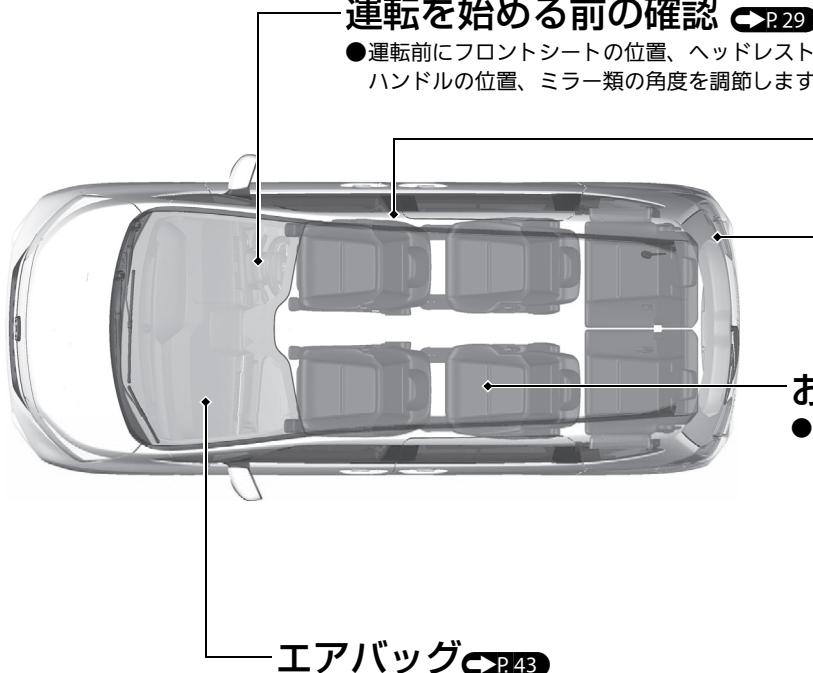
► P.91

- ECON モードが ON のときに点灯します。
- ECON スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを数秒間表示します。



安全なドライブ

P.28



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中の場合は腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

シートベルト P.31

排気ガスについて

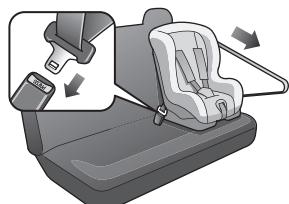
P.74

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全

P.52

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるとときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシート*に取り付けてください。



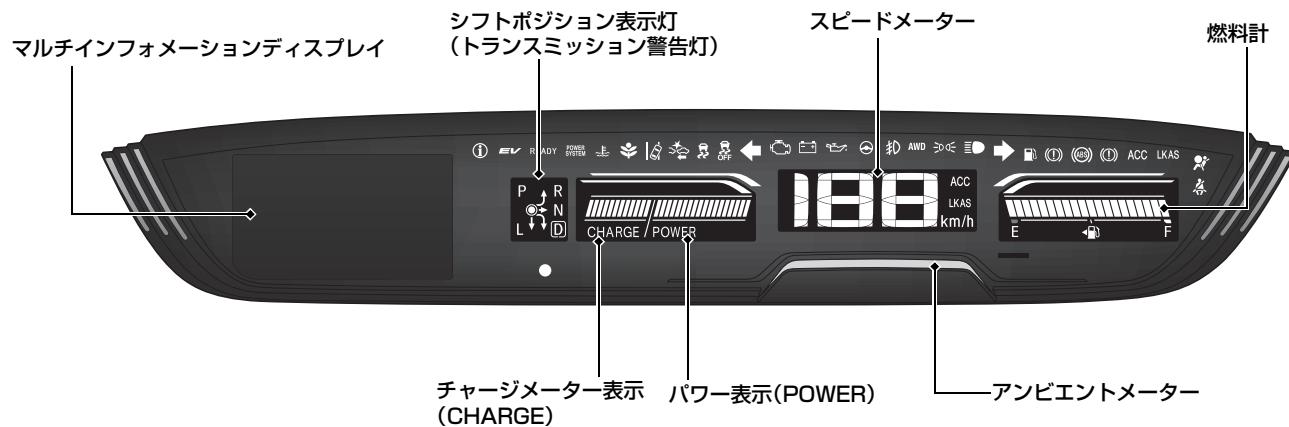
エアバッグ

P.43

- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた ➔ P.75

警告灯 ➔ P.77 / 表示灯 ➔ P.88 / メーター ➔ P.107 /
マルチインフォメーションディスプレイ ➔ P.109



この「※」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

各部の操作

P.137

時刻を合わせる

P.138



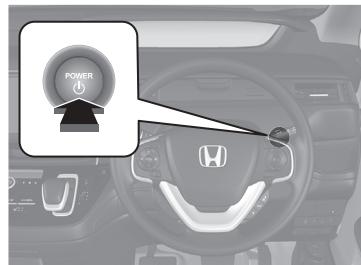
Honda インターナビシステム装備車

Honda インターナビシステム装備車の時計は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

POWER スイッチ

P.167

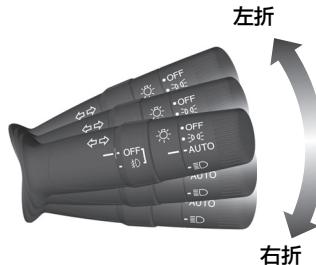
スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



ウィンカー

P.172

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



ライト

P.170

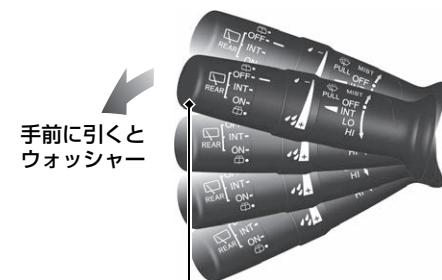
ライトスイッチ



ワイパー

P.174

ワイパー/ウォッシャースイッチ

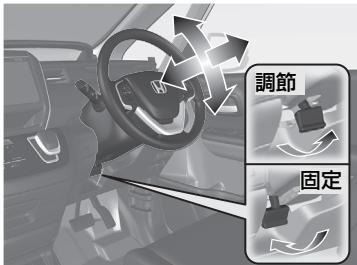


- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量の多いとき)

ハンドル位置の調節

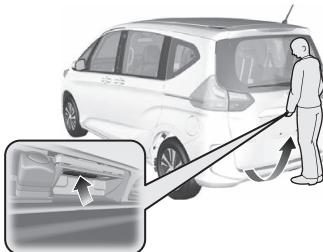
➡P.179

- ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



テールゲート ➡P.154

- 施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオーブンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。



ドアミラー ➡P.181

- パワー モードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。

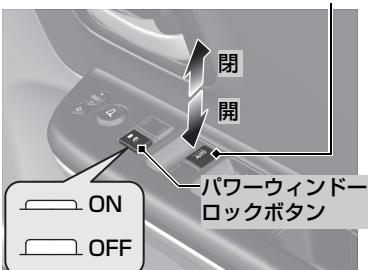
格納スイッチ 左右切り替えスイッチ



パワーウィンドー ➡P.165

- パワー モードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。
- パワーウィンドー ロックボタンが OFF のとき、全てのウィンドーが操作できます。
- パワーウィンドー ロックボタンが ON のとき、運転席以外のウィンドーが非作動になります。

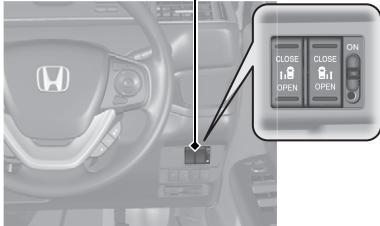
運転席用スイッチ



パワースライドドア ➡P.157

- メインスイッチが ON のとき、開閉したい側の [OPEN] または [CLOSE] を押すと自動的に開閉します。

パワースライドドアスイッチ



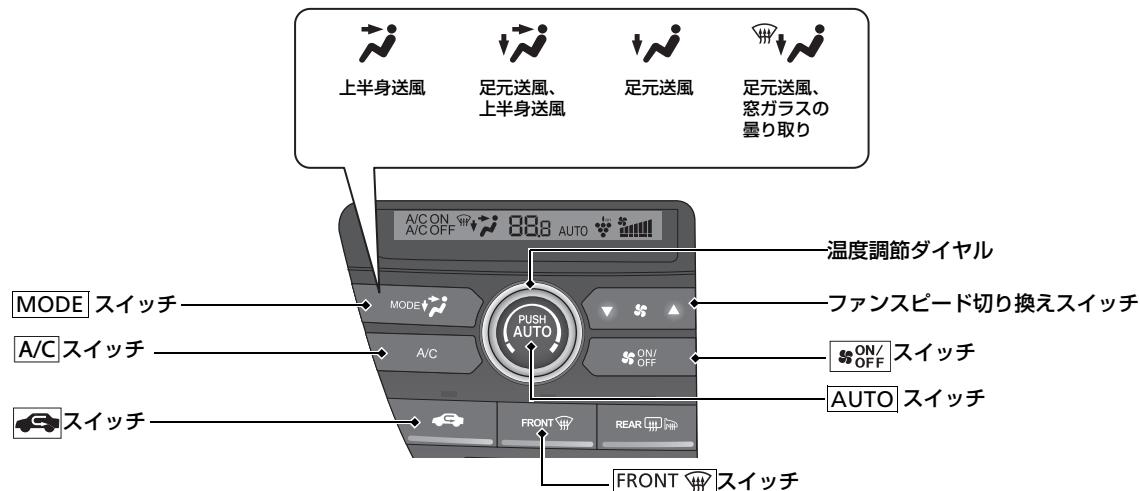
運転席ドアハンドルでの解錠 ➡P.151

- 運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



エアコン ➔ P.213

- **AUTO** を押すと、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇り取りには、**FRONT ■■**を押します。



運転

►P.220

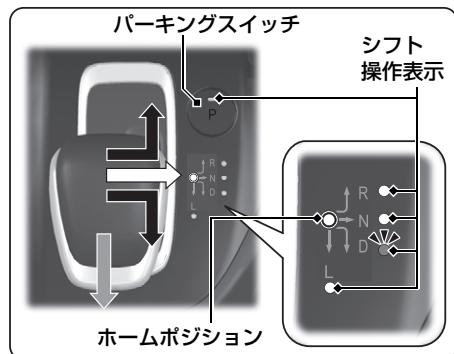
デュアルクラッチトランスミッション車

►P.228

- ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。 ▶パワーシステムの起動 ►P.223

セレクトレバー

セレクトレバーの操作



シフトポジション表示灯
選択されたシフトポジションは、シフト操作表示とシフトポジション表示灯に、連動して表示されます。



① Pにするときは、パーキングスイッチを押します



② R、Dにするときは、矢印の方向にセレクトレバーを作します



③ Nにするときは、セレクトレバーを右にスライドさせ、少しの間保持します



④ LはDのときのみ選択できます
そのためLにするときはDにしてから、矢印の方向にセレクトレバーを操作します

操作後、セレクトレバーから手を離すと①(ホームポジション)位置へ自動的に戻ります。



① P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき



② R リバース
車を後退



③ N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態



④ D ドライブ
通常走行



⑤ L ロー[▲]
強いエンジンブレーキが必要なとき

VSA の ON と OFF ➔ P.240

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止 (OFF) 状態にするには、 を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用 (ON) するには、 を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

CMBS の ON と OFF

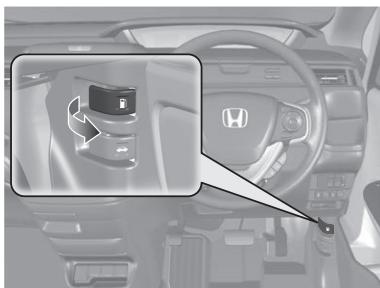
➔ P.248

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝突の衝撃を軽減する装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS を停止 (OFF) 状態にするには、 を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用 (ON) するには  を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

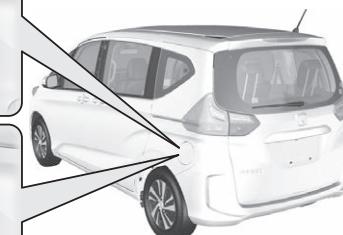
ガソリンを入れる ➔ P.314

指定燃料	: 無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
タンク容量	: 2WD 車 36 リットル AWD 車 53 リットル

- ① フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



- ② ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。

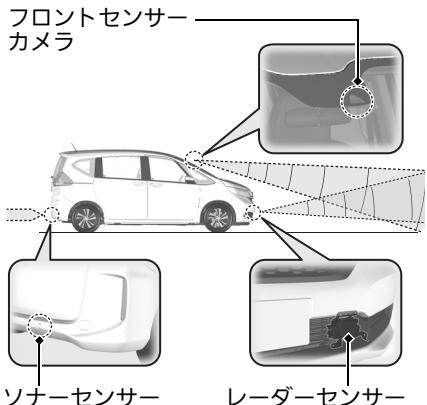


- ③ キャップをホルダーにかける。



ホンダセンシング ➤P.242

フロントロアグリル内に設置されたレーダー センサーと、フロントウィンドー内上部に設 置されたフロントセンサーマーと、リヤバ ンパーに設置されたソナーセンサーの、特性 の異なる3種類のセンサーで構成された運転 支援システムです。



衝突軽減ブレーキ(CMBS)

➤P.245

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突す るおそれがあるときや、対向車に正面から衝 突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突 するおそれがあるときに、運転者のブレーキ 操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減 するシステムです。

誤発進抑制機能 ➤P.252

停車時や約10km/h以下で走行していると き、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの 障害物があるにもかかわらず、アクセルペダル を踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を 抑制し、急な発進を防止するとともに、音と 表示で知らせる運転支援機能です。

後方誤発進抑制機能

➤P.254

停車時や約10km/h以下で後退していると き、自車のほぼ真後ろの近距離に車両などの 障害物があるにもかかわらず、アクセルペダル を踏み込んだ場合、パワーシステム出力を 抑制し、急な後退を防止するとともに、音と 表示で知らせる運転支援機能です。

歩行者事故低減ステアリ ング ➤P.256

歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング 操作を支援することにより運転者の衝突回避 操作を促します。

ACC(アダプティブ クルーズコントロール)

➤P.261

先行車との車間距離を測定して、高速道路走 行時に設定した車間距離を保つように適切な 加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキ を操作せずに追従または定速走行出来るよう 支援するシステムです。

LKAS(車線維持支援シス テム) ➤P.274

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

路外逸脱抑制機能 ➤P.285

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線 逸脱を回避するように運転を支援し警告で知 らせる機能です。

先行車発進お知らせ機能

►P.292

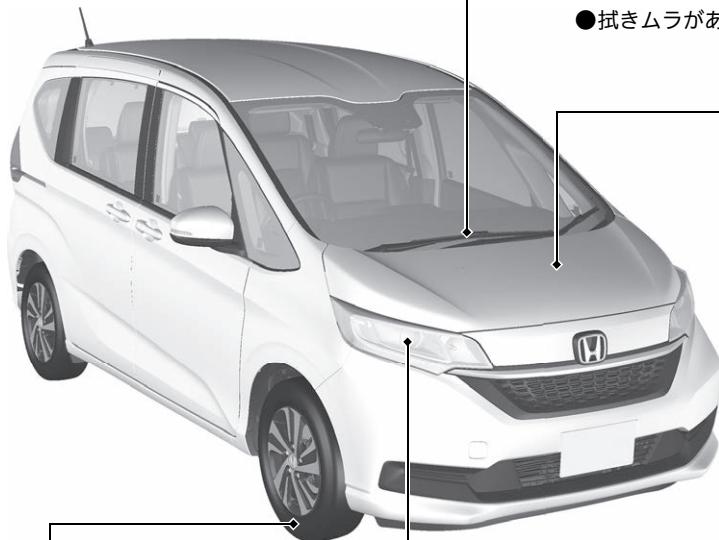
信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 ►P.296

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

メンテナンス

P.317



タイヤ

P.337

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ワイパークリーナー

P.333

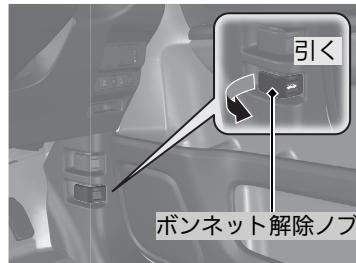
- 拭きムラがある場合は、ワイパークリーナーラバーを交換します。

エンジンルーム

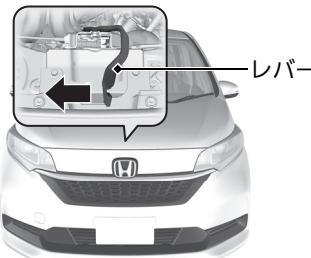
P.321

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- 12Vバッテリーを点検します。

- 1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



- 2 レバーを左に押してボンネットを開ける。



ライト

P.325

- ヘッドライト、番号灯電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

万一の場合には

→P.355

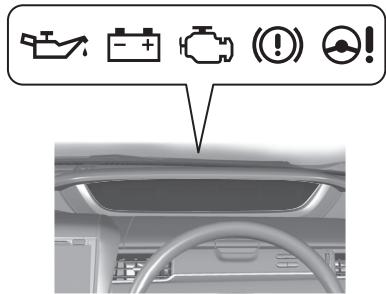
パンクした →P.359

- 安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した →P.383

- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



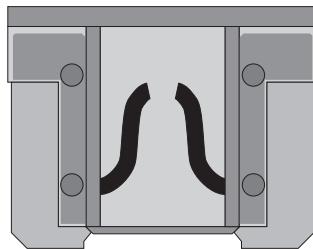
パワーシステムが起動しない →P.375

- 12V バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



ヒューズが切れた →P.387

- 室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り替えます。



オーバーヒートした

→P.381

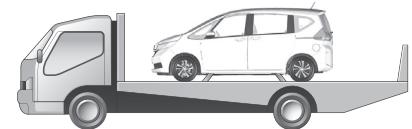
- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければポンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

→P.397

- 必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは



ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した



- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。

これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

⇒ ABS(アンチロックブレーキシステム) ➔ P.308

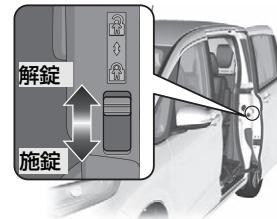


後席ドアが車内から開けられない



- チャイルドブルーフが施錠の位置になっていますか？

後席ドアを外から開け、チャイルドブルーフのツマミを解錠の位置にしてください。



ドアを解錠したはずなのに施錠されている



- キーレスエントリーシステム、Hondaスマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



運転席ドアを開けるとブザーが鳴る



- パワーモードをアクセサリーモードにしていますか？
- ライトを消し忘れていませんか？



走行するとブザーが鳴る



- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？



車を後退させるとき、後方を確認するため運転席ドアを開けるとシフトポジションが P になって車が停止した



- 運転席シートベルトを着用していますか？
運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
⇒ ドア Open 自動パーキング選択制御 [P.231](#)



走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする



- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。



レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？



- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

△ 危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

△ 警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

△ 注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することができます。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

■ 安全なドライブ P.28

安全なドライブのために 29 シートベルト 31 エアバッグ 43 お子さまの安全 52
排気ガスの危険性 74

■ 計器の見かた P.75

警告灯と表示灯 76 メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 107

■ 各部の操作 P.137

時刻の設定 138 ドア 141 テールゲート 154 スライドドア 155
セキュリティシステム 163 ウィンドー 165 ハンドルまわりのスイッチ 167 ミラー類 180
シート 183 室内装備品 199 エアコン 213

■ オーディオ P.218

オーディオ装置* 219

■ 運転 P.220

運転の前に 221 運転 223 ホンダセンシング 242 ブレーキ 306
駐停車 311 リアカメラシステム* 313 給油 314

■ メンテナンス P.317

メンテナンスの前に 318 エンジンルーム内 321 電球 325 ワイパー 333
タイヤ 337 Honda スマートキー 344 エアコンのお手入れ 345
清掃 347 アクセサリーと改造 353

■ 万一の場合には P.355

工具、発炎筒 356 パンク 359 ジャッキアップ 372 オーバーヒート 381
パワーシステムが起動しない 375 ジャンプスタート 379
警告灯が点灯 / 点滅した 383 ヒューズ 387
けん引 397 テールゲートが開かない 400

■ 資料 P.401

仕様 : FREED 402 仕様 : FREED+ 403

■ 安全なドライブ P.28**■ 計器の見かた P.75****■ 各部の操作 P.137****■ オーディオ P.218****■ 運転 P.220****■ メンテナンス P.317****■ 万一の場合には P.355****■ 資料 P.401****■ 索引 P.404**

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。

運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために

 安全のための確認事項 29

シートベルト

 シートベルトについて 31

 シートベルトの着用 34

 シートベルトの点検 40

 シートベルトのアンカーポイント 41

エアバッグ

 エアバッグの種類 43

 SRS エアバッグ 43

 サイドエアバッグ* 46

 サイドカーテンエアバッグ* 48

 エアバッグシステム警告灯 50

 エアバッグのお手入れ 51

お子さまの安全

 お子さまの安全を守るために 52

 乳幼児の安全 53

 大きなお子さまの安全 72

排気ガスの危険性

 一酸化炭素について 74

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか?
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
- ▣ 車内の施錠 / 解錠 P.150
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか?
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
- ▣ フロントシート P.183
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか?
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
- ▣ フロントシート P.183
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか?
 - ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
- ▣ シートベルトの着用 P.34
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか?
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
- ▣ エアバッグ P.43
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか?
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
- ▣ お子さまの安全 P.52
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを[P]にしているか?
 - ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
- ▣ シフト操作 P.229

▷安全のための確認事項

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

▣ ドア / テールゲート開閉警告 P.94

- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
 - ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- ・運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- ・同乗者にも必ずシートベルトを着用
- ・シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- ・1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ・ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

»シートベルトについて

⚠ 警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

■シートベルトリマインダー

- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- シフトポジションを[R]にしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。

シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面*からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



■シートベルトプリテンショナー

△注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

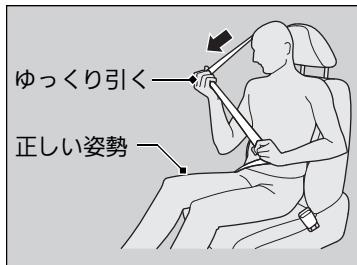
SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

サイドカーテンエアバッグ装備車

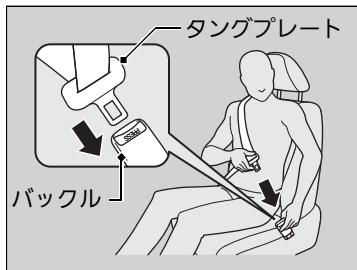
側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

シートベルトの着用



- 正しい姿勢でシートにすわる。
- シートベルトをゆっくり引き出す。



- タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

■シートベルトの着用

⚠️ 警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠️ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

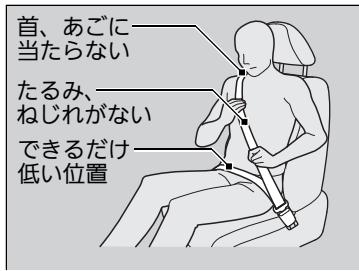
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の [PRESS] を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

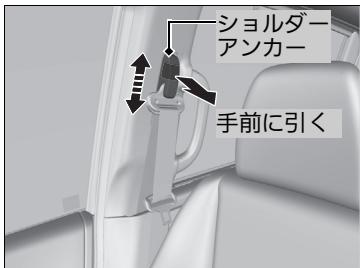
シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
 - ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
 - ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
 - ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

■ショルダーアンカーの高さ調節

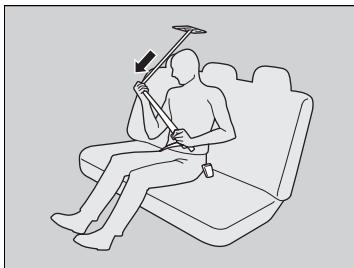
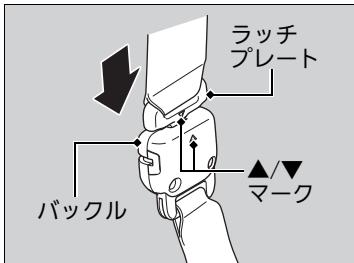
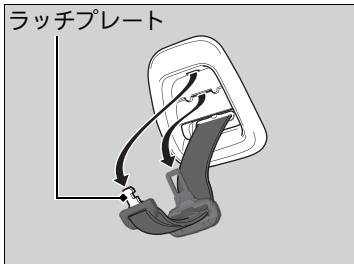
△注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかるていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

分離収納式シートベルト*



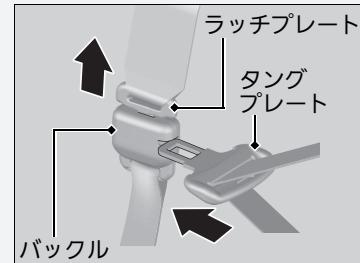
- 天井の固定部からシートベルトのラッチプレートを外す。

- ラッチプレートを引き出し、▲マークがついているバックルに差し込む。
► ラッチプレートの▼マークとバックルの▲マークを合わせて差し込みます。

- 正しい姿勢でシートにすわる。
- タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

分離収納式シートベルト*

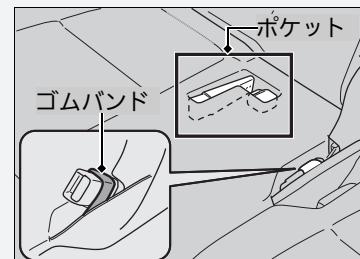
シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを▲マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。



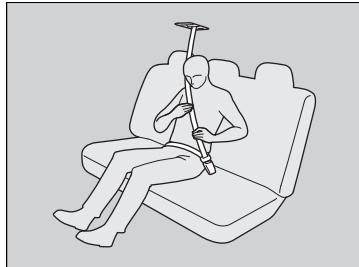
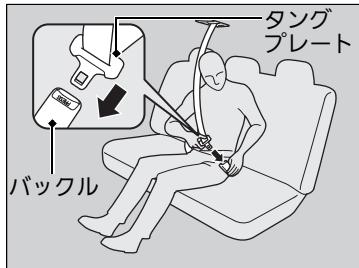
FREED セカンドベンチシート装備車

シートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。

また、中央席ラッチプレートのバックルと右側席タングプレートのバックルを使わないときは、ポケットに収納してください。



*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



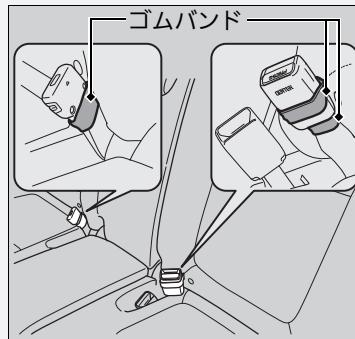
- 5.** タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

- 6.** ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■分離収納式シートベルト*

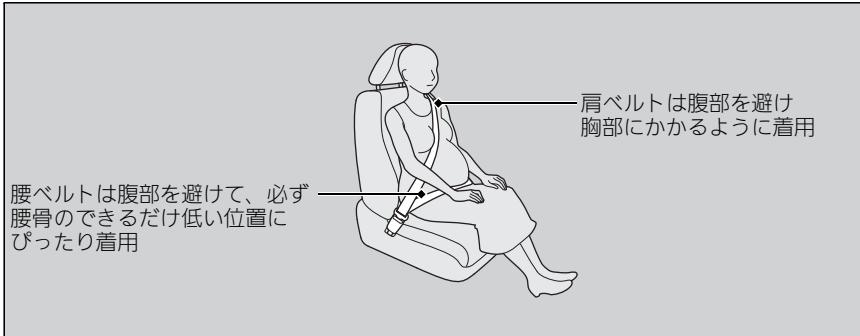
FREED+

シートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。シート操作などのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。



■妊娠中ののかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中ののかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



»妊娠中ののかたのシートベルト着用のしかた

△注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中ののかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートとなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

■シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

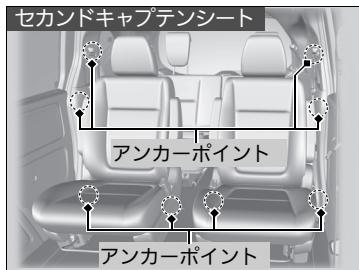
ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント



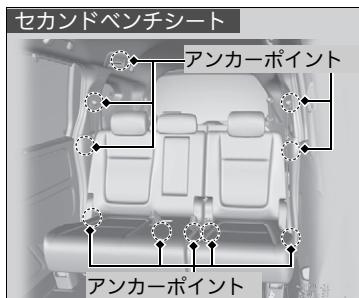
シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。

フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



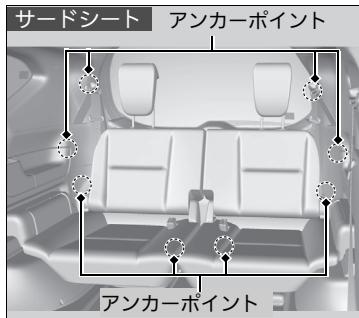
セカンドキャプテンシート装備車

セカンドキャプテンシートには三点式シートベルトが使われています。



セカンドベンチシート装備車

セカンドベンチシートには三点式シートベルトが使われています。



サードシート装備車

サードシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。

エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ^{*}**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ^{*}**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

»エアバッグの種類



エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。

エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。



エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

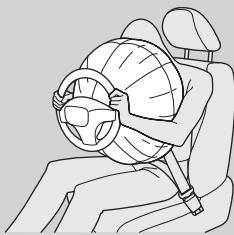
エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

SRSエアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしほみます。

SRSエアバッグは、次のような場合に作動します。

- ・ 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - ・ 車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

▶SRSエアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。

安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- ・縁石や地面の突起物に衝突したとき
- ・深い溝や穴に落ちたとき
- ・高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- ・電柱、立ち木などへの衝突
- ・トラックなどへの潜り込み
- ・部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- ・横方向からの衝突
- ・後部からの衝突
- ・横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

▶SRSエアバッグの作動

△注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ*

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

■サイドエアバッグ*

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- ・縁石や地面の突起物に衝突したとき
- ・深い溝や穴に落ちたとき
- ・高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- ・乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- ・正面衝突
- ・後部からの衝突
- ・横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

»サイドエアバッグ*

△注意

ドアに寄りかからない。

サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

セカンドシート同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。

安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

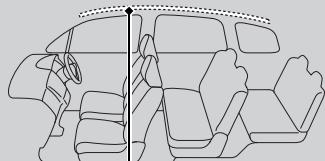
*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

サイドカーテンエアバッグ*

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所

3列仕様

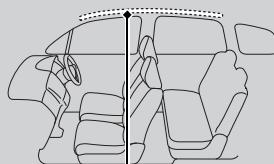


サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側とともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

2列仕様



サイドカーテンエアバッグ収納部

■サイドカーテンエアバッグ*

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- ・フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- ・グラブレールにものをかけない
- ・ユーティリティーフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

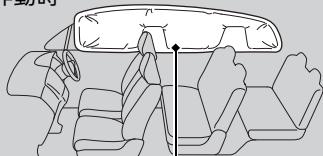
サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

■作動のしくみ

3列仕様

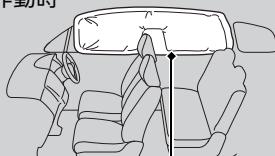
作動時



サイドカーテンエアバッグ

2列仕様

作動時



サイドカーテンエアバッグ

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

» サイドカーテンエアバッグ*

△注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードをONモードにしたとき
パワーモードをONモードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

■エアバッグシステム警告灯

⚠ 警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda販売店で点検を受けてください。

パワーモードをONモードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

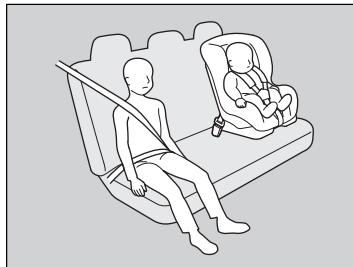
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

▶ エアバッグのお手入れ

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはセカンドシートまたはサードシート^{*}に乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

お子さまの安全を守るために

⚠️ 警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠️ 警告

⚠️ AIRBAG



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

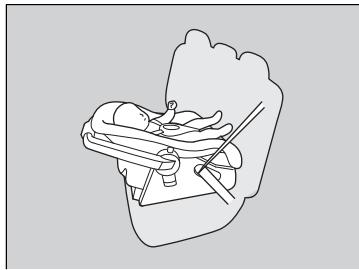
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

セカンドシートまたはサードシート*に設置することができます。

- ▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートができるだけ前に出してください。
- ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

» 乳児のチャイルドシート

⚠️ 警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

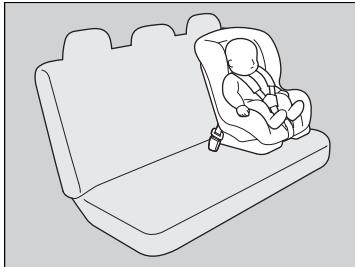
後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席のSRSエアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 前向きのチャイルドシートの設置場所

セカンドシートまたはサードシート^{*}への設置を推奨します。

■ 幼児のチャイルドシート

⚠ 警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたはISOFIX/i-Sizeチャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、セカンドシート外側2座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- ・チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
 - ・チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
 - ・チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
- UN R44/R129に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

UN基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたはISOFIX/i-Sizeチャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

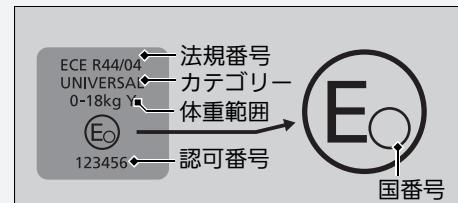
□チャイルドシートの選びかた

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。

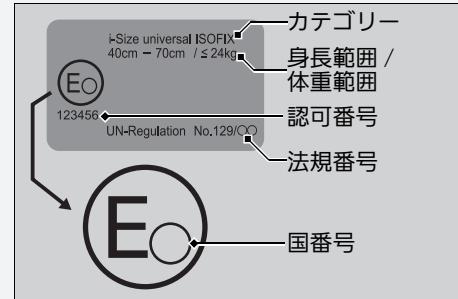
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きた傷害を減らすために開発されたものです。

Honda純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

UN R44認可表示(例)



UN R129認可表示(例)



シート位置別チャイルドシート情報

FREED セカンドキャプテンシート装備車



	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサルチャイルドシートに適している
	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサルチャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調整すること。

※2：チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最も起こした位置に調整すること。

※3：UN R129 の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、シートバックを最も起こした位置に調整すること。
また、前座席のシートスライドを最前端ロック位置から 11 段目ロック位置に調整すること。

FREED セカンドキャプテンシート装備車

シート位置番号	シートの位置				
	① 助手席 ^{※1}	② 2列目席 (左側) ^{※2}	③ 2列目席 (右側) ^{※2}	④ 後席 (左側)	⑤ 後席 (右側)
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向き 搭載のみ	有	有	有 ^{※2}	有 ^{※2}
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有／無）	無	有	有	無	無
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	無	無	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	無	R3	R3	無	無
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	無	F3	F3	無	無
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	B3	B3	B3	B3 ^{※3}	B3 ^{※3}

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調整すること。

※2：チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最も起こした位置に調整すること。

※3：UN R129 の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、前座席のシートスライドを最前端ロック位置から 11 段目ロック位置に調整すること。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、(三列目シートを除くほかの)i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

»シート位置別チャイルドシート情報

⚠ 警告

シートベルトは必ず正しく着用する

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

FREED セカンドベンチシート装備車



U	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサルチャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサルチャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調整すること。

※2：チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最も起こした位置に調整すること。

※3：中央席に UN R129 の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、右側のシートのシートベルトが取り付けることができません。

※4：UN R129 の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、前座席のシートスライドを最前端ロック位置から 2 段目ロック位置より前に調整すること。

FREED セカンドベンチシート装備車

シート位置番号	シートの位置					
	① 助手席	② 2列目席 (左側) ^{※1}	③ 2列目席 (中央) ^{※1}	④ 2列目席 (右側) ^{※1}	⑤ 後席 (左側)	⑥ 後席 (右側)
ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	有 前向き 搭載のみ	有 ^{※2}	有 ^{※2}	有 ^{※2}	有 ^{※2}	有 ^{※2}
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	無	有	無	有	無	無
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	有	有	有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)	無	無	無	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具(R1/R2X/R2/R3)	無	R3	無	R3	無	無
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)	無	F3	無	F3	無	無
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)	B3	B3 ^{※2}	B3 ^{※2、※3}	B3 ^{※2}	B3 ^{※4}	B3 ^{※4}

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調整すること。

※2：チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最も起こした位置に調整すること。

※3：中央席にUN R129の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、右側のシートのシートベルトが取り付けることができません。

※4：UN R129の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、前座席のシートスライドを最前端ロック位置から2段目ロック位置より前に調整すること。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、(三列目シートを除くほかの)i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

»シート位置別チャイルドシート情報

**シートベルトは必ず正しく着用する**

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

FREED+



	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサルチャイルドシートに適している
	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサルチャイルドシートに適している
	i-Size および ISO FIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調整すること。

FREED+

シート位置番号	シートの位置			
	① 助手席※1	② 後席 (左側)	③ 後席 (中央)	④ 後席 (右側)
ベルト固定の汎用（ユニバーサル） チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向き 搭載のみ	有	有	有
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有／無）	無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	無	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	無	R3	無	R3
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	無	F3	無	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	B3	B3	B3	B3

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調整すること。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

»シート位置別チャイルドシート情報

⚠️ 警告			
シートベルトは必ず正しく着用する			
シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。			
チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。			
固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左右	寝台式
ISO/L2	乳児	後ろ	寝台式
ISO/R1	乳児	—	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■推奨チャイルドシート**UN R44 適合チャイルドシート**

質量グループ ¹	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0~9ヶ月)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
0+ 13kg 未満 (0~2歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
I 9~18kg (9ヶ月~4歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(前向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(前向き)
II、III 15~36kg (4~12歳)	Honda ジュニアシート	汎用シートベルト固定

UN R129 適合チャイルドシート

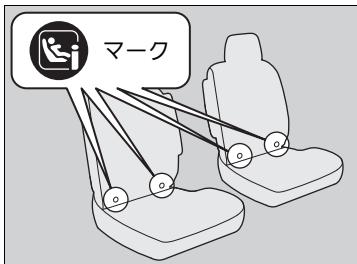
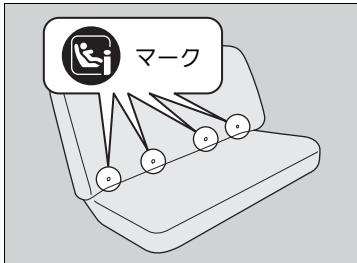
適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size ISOFIX (後向き)
身長 71cm 以上かつ月齢 15ヶ月以上～身長 100cm 以下		i-Size ISOFIX (前向き)

■推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、セカンドシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定します。



- マークの下のシートクッションと背もたれのすき間から下部取付金具を確認する。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

△ 注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

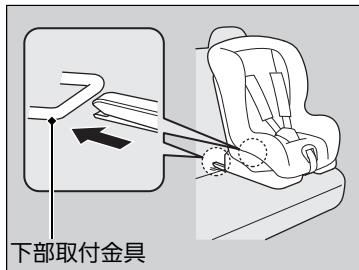
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

セカンドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



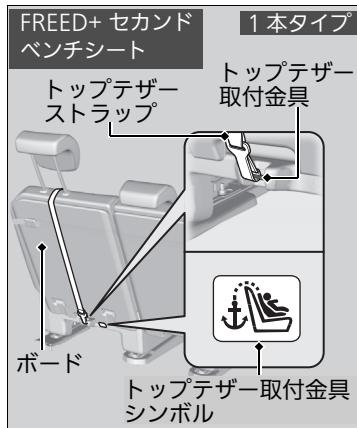
2. セカンドシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。
▣ **背もたれ角度の調節 P.185, 190**
3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。
► 取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

» ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。



▶ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

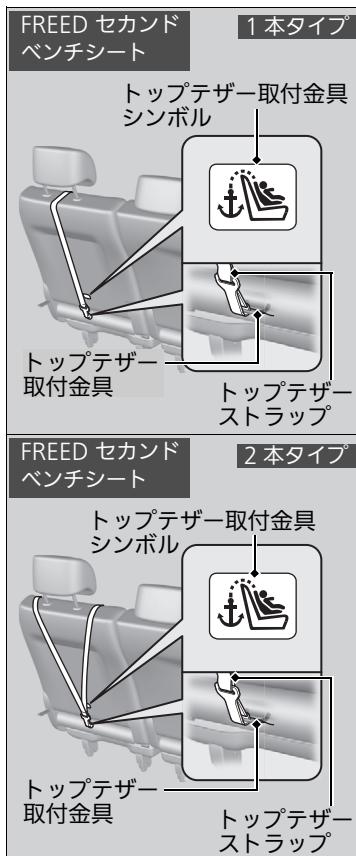
△注意

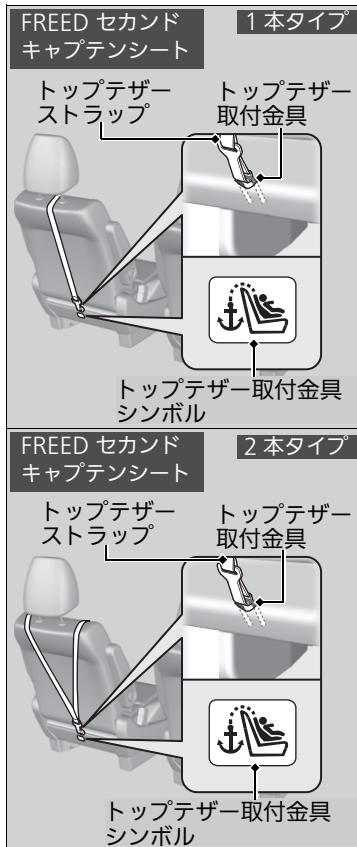
トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

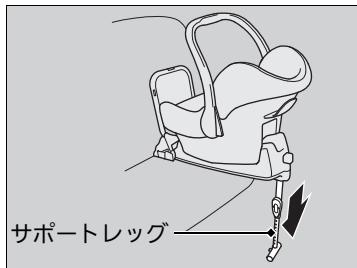


トップテザーストラップ付きチャイルドシート

4. ヘッドレストを調節して最上段で固定する。トップテザーストラップが1本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。
- ▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
- FREED+
- ▶ トップテザーストラップを取り付ける前に、背もたれのボードが格納されていることを確認してください。
- ⇒ エクステンションボード P.189
5. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。





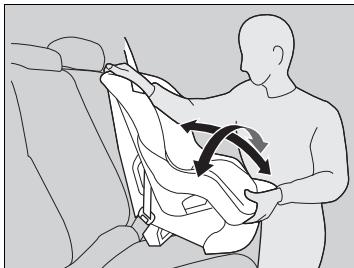
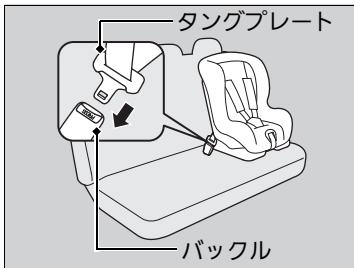


サポートレッグ付きチャイルドシート

4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

- ▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。シートの前後位置によっては、サポートレッグの設置フロア面が水平ではなく安定しない場合があります。その場合は、シート前後位置を調整してください。
- ▶ スライドレールやカバーにサポートレッグが接地しないことを確認してください。
- ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

■シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する。

■シートベルトでの取り付け

△注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、セカンドシートまたはサードシート*に乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■大きなお子さまの安全

⚠️警告

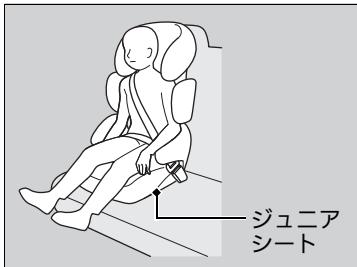
お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRSエアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

■ ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをセカンドシートまたはサードシート^{*}に設置して使用してください。安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

» ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはあります。

以下の場合は、排気ガスのもれがないかHonda販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- ・排気音に異常を感じたとき
- ・車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

»一酸化炭素について



一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯

警告灯	77
表示灯	88

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

メーター	107
マルチインフォメーションディスプレイ ...	109

 ① <small>※1</small> ブレーキ警告灯(レッド)	P.77
 ① <small>※1</small> ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	P.78
 ② <small>※1</small> 油圧警告灯	P.79
 ③ <small>※1</small> PGM-FI 警告灯	P.79
 ④ <small>※1</small> 12Vバッテリー充電警告灯	P.79
 ⑤ <small>※1</small> トランスミッション警告灯	P.80
 ⑥ <small>※1</small> シートベルト非着用警告灯	P.81
 ⑦ <small>※1</small> ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	P.81
 ⑧ <small>※1</small> エアバッグシステム警告灯	P.81
 ⑨ <small>※1</small> VSA(ビーコルスタビリティアシスト)警告灯	P.82
 ⑩ <small>※1</small> VSA OFF 警告灯	P.82
 ⑪ <small>※1</small> EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	P.82
POWER SYSTEM <small>※1</small> パワーシステム警告灯	P.83
 ⑫ <small>※1</small> アリアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム)警告灯*	P.84
 燃料残量警告灯	P.84
 ⑬ <small>※1</small> ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯(オレンジ)	P.85
 ⑭ <small>※1</small> LKAS(車線維持支援システム)警告灯(オレンジ)	P.85
 ⑮ <small>※1</small> CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯	P.85
 ⑯ <small>※1</small> 路外逸脱抑制機能警告灯	P.87
 方向指示器 / 非常点滅表示灯	P.88
 ハイビーム表示灯	P.88
 ライト点灯表示灯	P.88
 フォグライト点灯表示灯*	P.88
 ⑰ インフォメーション表示灯	P.90
 ⑱ <small>※1</small> EV 表示灯	P.90
READY READY 表示灯	P.90
 ECON 表示灯	P.91
 ⑲ <small>※1</small> シフトポジション表示灯	P.91
 ⑳ <small>※1</small> ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯(グリーン)	P.91
 ㉑ <small>※1</small> LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン)	P.91
 ㉒ <small>※1</small> 高水温警告灯(レッド)	P.83
 ㉓ <small>※1</small> 低水温表示灯(ブルー)	P.88
 ㉔ <small>※1</small> イモビライザーシステム表示灯	P.89
 ㉕ <small>※1</small> セキュリティアラームシステム作動表示灯	P.89

※1：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードをONモードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。

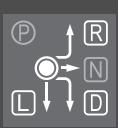
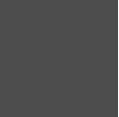
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
(!)	ブレーキ警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> ・パーキングブレーキをかけると点灯 ・ブレーキフルード量が低下したときに点灯 ・ブレーキシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ・走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ・ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <p>➡ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.384</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。 	<p>計器の見かた</p>

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> 回生ブレーキシステム、電動サーボブレーキシステム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯 ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、高速走行や急停止を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	  

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	油圧警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯=ただちに安全な場所に停車し、対処してください。 ⇒ 油圧警告灯が点灯した P.383 	 エンジン油圧異常 
	PGM-FI 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.384 	 エンジンシステム点検 
	12V バッテリー充電警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 12V バッテリーが充電されていないと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ⇒ 12V バッテリー充電警告灯が点灯した P.383 	 12V充電システム点検 

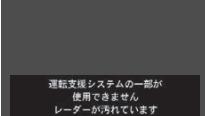
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスマッショントラブル警告灯 (全点灯)	トランスマッショントラブル警告灯が点灯する状況	<ul style="list-style-type: none"> トランスマッショントラブル警告灯が点灯する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 	
		トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況	<ul style="list-style-type: none"> トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 	
		トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況	<ul style="list-style-type: none"> トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 	
		トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況	<ul style="list-style-type: none"> トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 トランスマッショントラブル警告灯が点滅する状況 	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	シートベルト非着用警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 パワーモードをONモードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➡ シートベルトリマインダー P.32 	 
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ABS が異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➡ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.308 	
	エアバッグシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 下記のとき点灯 <ul style="list-style-type: none"> エアバッグシステムの異常 プリテンショナーシステムの異常 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	VSA(ビーカルス タビリティアシスト)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • VSA が作動しているときは点滅 • VSA システムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 <p>⇒ VSA(ビーカルスタビリティアシスト) P.239</p>	
	VSA OFF 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • VSA を OFF にすると点灯 	⇒ VSA(ビーカルスタビリティアシスト) P.239	—
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • EPS システムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 常時点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <p>⇒ EPS(電動パワーステアリング)システム 警告灯が点灯した P.385</p>	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	高水温警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が上がるとき点滅し、さらに上がると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 ➡ 低水温表示灯 (ブルー) P.88 走行中に点滅=ゆっくり走行してください。 	
	パワーシステム 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯=ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	リアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム)警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイム AWD システムが異常のとき点灯 リアルタイム AWD システムがオーバーヒートしたとき点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯 = 前輪駆動での走行になります。急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅 = 前輪駆動での走行になります。安全な場所に車を停め、パーキングスイッチを押して、アイドリング運転を行い、消灯するまでお待ちください。消灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <p>⇒ リアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム)* P.240</p>	 
	燃料残量警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 燃料の残量が少なくなると点灯 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 6.3 リットル(2WD 車)、6.0 リットル(AWD 車)になったときです。 燃料計に異常があるときは点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯したら早めに給油してください。 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯 (オレンジ)	• ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	 ACCシステム点検 ACC
LKAS	LKAS(車線維持支援システム) 警告灯 (オレンジ)	• LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	 LKAS(レーンキープアシストシステム)点検 LKAS
	CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> CMBSをOFFにしているとき点灯 CMBS に異常があるとき点灯 <ul style="list-style-type: none"> フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯 	<ul style="list-style-type: none"> OFFにしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ⇒ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.245 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ⇒ レーダーセンサー P.304 ⇒ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.245 	 CMBS OFF  CMBSシステム点検  運転支援システムの一部が 使用できません レーダーが汚れています 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS (衝突軽減 ブレーキ) 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。 	
		<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 <p>⇒ フロントセンサーハウジング P.302 ⇒ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.245</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 後方誤発進抑制機能に異常があると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ⇒ 後方誤発進抑制機能 P.254 	
		<ul style="list-style-type: none"> リヤバンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があり、後方誤発進抑制機能が使用できなくなると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車してリヤバンパーの遮蔽物を取り除いてください。 ⇒ ソナーセンサー P.305 ⇒ 後方誤発進抑制機能 P.254 	

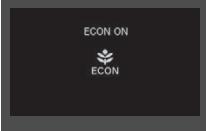
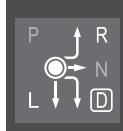
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 路外逸脱抑制機能に異常があるときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	
		<ul style="list-style-type: none"> フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいため点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 復帰するまでに時間がかかることがあります。 <p>➡ レーダーセンサー P.304 ➡ 路外逸脱抑制機能 P.285</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。 	
		<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 <p>➡ フロントセンサーカメラ P.302 ➡ 路外逸脱抑制機能 P.285</p>	

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 <p>⇒ 電球の交換 P.327, 328, 329 ⇒ エマージェンシーストップシグナル P.310</p>	—
	ハイビーム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドライトを上向きにしたときに点灯 	—	—
	ライト点灯表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯 	⇒ ライトの使いかた P.170	—
	フォグライト点灯表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> フォグライトを点灯させると点灯 	—	—
	低水温表示灯 (ブルー)	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が低いときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。 	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	• POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	<ul style="list-style-type: none"> • POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度ONモードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。 	—
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	⇒ セキュリティアラームシステム P.163	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	インフォメーション表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 メッセージは警告が解除されるか、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 点灯しているときにインフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させることができます。 	—
	EV 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> モーターだけでの走行になると点灯 	—	—
	READY 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 走行の準備が完了すると点灯 	<p>⇒ パワーシステムの起動 P.223</p>	

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ECON 表示灯	• ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯	⇒ ECON スイッチ P.233	
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションで点灯	⇒ シフト操作 P.229	—
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	⇒ ACC(アダプティブクルーズコントロール) P.261	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	⇒ LKAS(車線維持支援システム) P.274	—

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。

再表示させるときはインフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 通常走行ができないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に停車してください。
	<ul style="list-style-type: none"> 車両の異常でシフトポジションを[P]にできないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 停車したときはパーキングブレーキをかけてください。 ⇒ パーキングブレーキ P.306 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ⇒ トランスマッision警告灯が点滅しメッセージが表示した P.386 Honda販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> 車両の異常で、シフトポジションを[N]にしないとシステムが起動できないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ⇒ トランスマッision警告灯が点滅しメッセージが表示した P.386 Honda販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを再度ONモードにすることで、走行を続けられるときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ パワーシステムの起動 P.223

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示 	—
	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを着用しないで、パワーモードをONモードにすると表示 ドア Open 自動パーキング選択制御により自動で P になった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。 <p>■ ドア Open 自動パーキング選択制御 P.231</p>
	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの冷却システムが異常のときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> スターティングシステムが異常のときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキを踏んだまま、POWER をパワーシステムが起動するまでおよそ 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

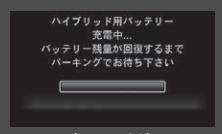
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間はメッセージが表示 	<ul style="list-style-type: none"> ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	<ul style="list-style-type: none"> パワースライドドアシステムに異常があるとき表示 	<ul style="list-style-type: none"> パワースライドドアのメインスイッチをOFFにして、ドアの開閉は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> 車両接近通報システムに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> Honda スマートキーシステムが異常のときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と一緒に表示	• パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。 ⇒ Honda スマートキー持ち去り警告 P.169
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と一緒に表示	⇒ 電池交換のしかた P.344
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ⇒ ライトの使いかた P.170
	• ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• シフトポジションが P 以外のときに、マルチインフォメーションディスプレイの車両設定をすると表示	⇒ カスタマイズのしかた P.121

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> ECON スイッチを押して、ECON モードを OFF にすると表示 	⇒ ECON スイッチ P.233
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示 	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを OFF モードにしてください。
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードがアクセサリーモードまたはONモードのときに表示 	⇒ パワーシステムの起動 P.223
	<ul style="list-style-type: none"> Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに POWER スイッチを押すと、警告音と一緒に表示 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ Honda スマートキーの微弱電波 P.143 ⇒ POWER スイッチ P.167 ⇒ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.377
	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードがアクセサリーモードのときに表示 	—

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 12Vバッテリーセンサーの機能に異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 12V バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ☞ 12V バッテリー充電警告灯が点灯した P.383
	<ul style="list-style-type: none"> 外気温の影響により高電圧バッテリーの温度が著しく低いとき (-30°C以下) 	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。 アクセルを踏んでもエンジン回転数は上がりません。 車内を暖房すると高電圧バッテリーが暖まり、走行可能になるまでの時間を短縮できます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの温度が極度に低いとき(−40 °C以下) 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリー温度が上がるまでお待ちください。 または温度の高い所へ移動してください。 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。
	<ul style="list-style-type: none"> 12Vバッテリー充電警告灯点灯後に表示 	<ul style="list-style-type: none"> 加速しにくくなります。また、上り坂などで発進が困難になる場合があります。 ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 継続した低速走行により発電量が低下し、高電圧バッテリーの残量が著しく低下したとき	• 車速を上げることやブレーキを踏んで停車することで、高電圧バッテリーの残量低下を抑えることができます。
	• さらに高電圧バッテリーの容量が低下し、充電するために停車が必要になったとき	• 安全な場所に停車し、シフトポジションをパーキングにして、アイドリング状態で高電圧バッテリーを充電します。
	• 高電圧バッテリーの容量が少ないため、停車後、アイドリングによる充電中のとき	• READY 表示灯が点灯するまでパーキングブレーキをかけて車を発進させないでください。 ⇒ READY 表示灯 P.90
	• トランスミッションの温度が高温になり、通常走行ができないとき	• 加速しにくくなる場合や、上り坂などの発進が困難になる場合があります。 • ただちに安全な場所に車を停車してください。 • メッセージが消えるまでアイドリングでトランスミッションを冷やしてください。 • メッセージ消灯後はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ⇒ 駐停車操作 P.311

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>ハイブリッドシステム起動： セレクトポジションを パーキングにして下さい</p> <p>P</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステムを起動するときに[P]以外のシフトポジションが選択されているとき 	<ul style="list-style-type: none"> パーキングスイッチを押してください。
 <p>シフト操作： ブレーキを踏み シフト操作をして下さい</p> <p>■</p>	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションの[P] [N]から他のシフトポジションを選択したとき 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作を行ってください。
 <p>アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションの[P] [N]から他のシフトポジションを選択したとき</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションの[P] [N]から他のシフトポジションを選択したとき 	<ul style="list-style-type: none"> アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作を行ってください。
 <p>シフト操作【[D]レンジ】： 一度[D]レンジにから [L]レンジにして下さい</p> <p>D</p>	<ul style="list-style-type: none"> [D]以外が選択されているときに、[L]のシフトポジションを選択したとき 	<ul style="list-style-type: none"> [D]を選択してから[L]を選択します。 ⇒セレクトレバーの操作 P.230

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 停車せずにパーキングスイッチを押したとき 走行中、停車せずに進行方向と反対のシフトポジションを選択したとき 	<ul style="list-style-type: none"> セレクトレバーを操作する時は、はじめに停車させてください。
	<ul style="list-style-type: none"> 電気系統に失陥の可能性があると表示 走行中にパワーモードを OFF になると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 メッセージが消えれば異常はありません。 異常があるとトランスマッision警告灯が点灯 / 点滅します。 ⇒ トランスマッision警告灯 P.80
	<ul style="list-style-type: none"> 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足を離す前にパーキングスイッチを押してください。
	<ul style="list-style-type: none"> CMBS を OFF しているときに CMBS の車両設定をすると表示 	<ul style="list-style-type: none"> CMBS を ON にしてください。 ⇒ CMBS の ON と OFF P.248

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• シフトポジションが[N]のときにアクセルペダルを踏むと表示	• アクセルペダルから足を離してください。走行するときは、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• シフトポジションの[P]とそれ以外のポジション切り換え操作を短時間のあいだに繰り返すと表示	• しばらく時間をおいてからシフトポジションを切り換えてください。
	• 走行中に[POWER]を押したときに表示	⇒ 緊急時のパワーシステム停止方法 P.378
	• トランスミッションに異常が発生し、シフトポジションを[R]にできないときに表示	• Honda販売店で点検を受けてください。
	• シフトポジションが[R]へ移行するときに、通常より時間がかかる場合に表示	• メッセージが消えるまでブレーキペダルを踏み続けてください。 • Honda販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ACC の作動が自動的に解除されたとき	• ACC が自動解除になった原因が解決された場合、[RES/+] を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ⇒ ACC(アダプティブクルーズコントロール) P.261
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	⇒ ACC(アダプティブクルーズコントロール) P.261 ⇒ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.245
	• フロントロアグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントロアグリルの遮蔽物を拭き取ってください。 ⇒ レーダーセンサー P.304
	• フロントセンサーハウジングの温度が異常に上がり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ⇒ フロントセンサーハウジング P.302
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ⇒ フロントセンサーハウジング P.302

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 車線を越えそうなときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドル操作をして、車線の中央を行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 <p>⇒ LKAS(車線維持支援システム) P.274 ⇒ 路外逸脱抑制機能 P.285</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行し、車線を越えそうになると、警告音と一緒に表示 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドル操作をして、車線の中央を行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 <p>⇒ LKAS(車線維持支援システム) P.274</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と一緒に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> そのまま走行を続けると、長い警告音が1回鳴り、LKASの作動が解除されます。 ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 <p>⇒ LKAS(車線維持支援システム) P.274</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と一緒に表示 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドル操作をして、車線の中央を行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 <p>⇒ 路外逸脱抑制機能 P.285</p>

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> LKAS システムに異常が起こり LKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と一緒に表示 	<ul style="list-style-type: none"> VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と一緒に表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <p>⇒ LKAS(車線維持支援システム) P.274</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 先行車発進お知らせ機能が作動すると表示 	<p>⇒ 先行車発進お知らせ機能 P.292</p>

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> ETC の利用ができないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ETC 車載器の詳細は、別冊のメーカー オプション「ETC 車載器」取扱説明書をお読みください。
	<ul style="list-style-type: none"> ルート案内の際に、交差点案内表示が表示 	<p>⇒ メーカー オプションの Honda インターナビシステム</p>

信号情報活用運転支援システム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none">光ビーコンアンテナの機能に異常があると表示	<ul style="list-style-type: none">Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none">信号情報活用運転支援 / 走行情報送信をカスタマイズ設定で機能 OFF しているときに表示	<p>⇒ カスタマイズのしかた P.121 ⇒ 信号情報活用運転支援システム P.235</p>

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードがONモードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度をkm/hで表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

»メーター

メーター照明色を変更するには：

マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能でメーター色の変更ができます。

▣カスタマイズ機能 P.133

メーターの色がブルーまたはレッドのときは、エアコンスイッチパネルの色はホワイトになります。

また、オートエアコンの設定温度表示が、「LO」最大冷房のときはエアコンスイッチパネルの色はブルー、「HI」最大暖房のときはレッドになります。

»燃料計

アドバイス

燃料計が[E]に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

■パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態を表示します。

» パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

⇒ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示 P.118

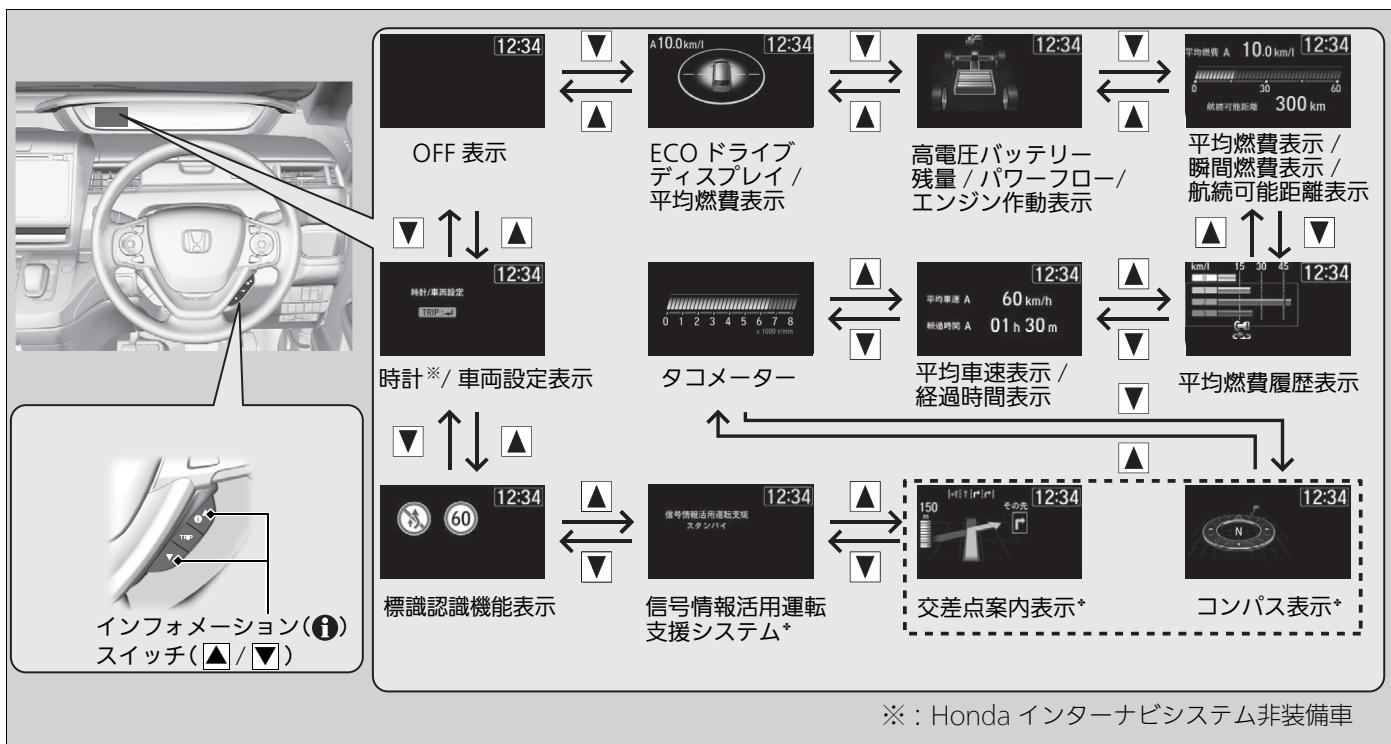
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、高電圧バッテリー残量、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知するとメッセージが表示されます。

■表示の切り換えかた

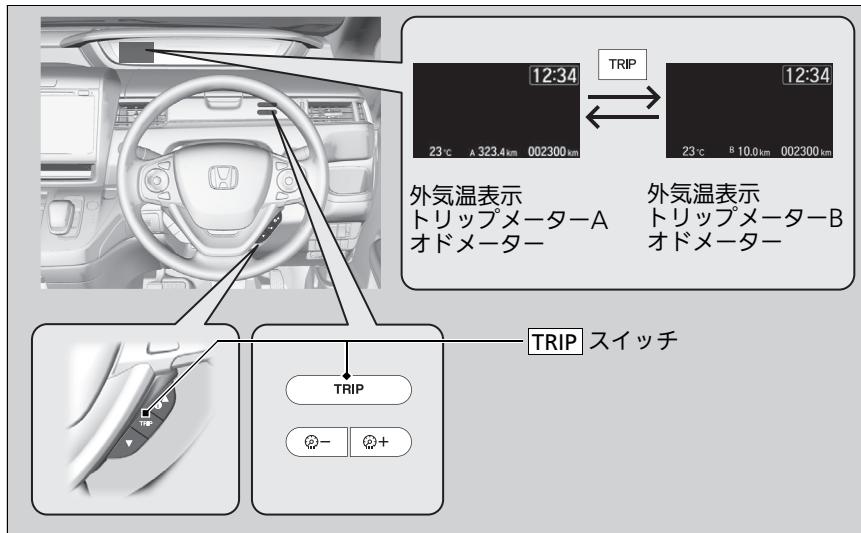
■メインディスプレイ

インフォメーション(❶)スイッチ(▲ / ▼)を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■サブディスプレイ

TRIP を押すごとに画面が切り換わります。



■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターAと、トリップメーターBがあり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、**TRIP** を押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■ 外気温表示

外気温を測定し表示します。

■ 外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3°C の範囲で補正することができます。
補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

⇒ カスタマイズ機能 P.133

■ 時計

時刻を表示します。

Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

⇒ 時刻の設定 P.138

■ トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

■ 外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正是、温度が安定してから行ってください。

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

■ 時計

Honda インターナビシステム装備車

カスタマイズの詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

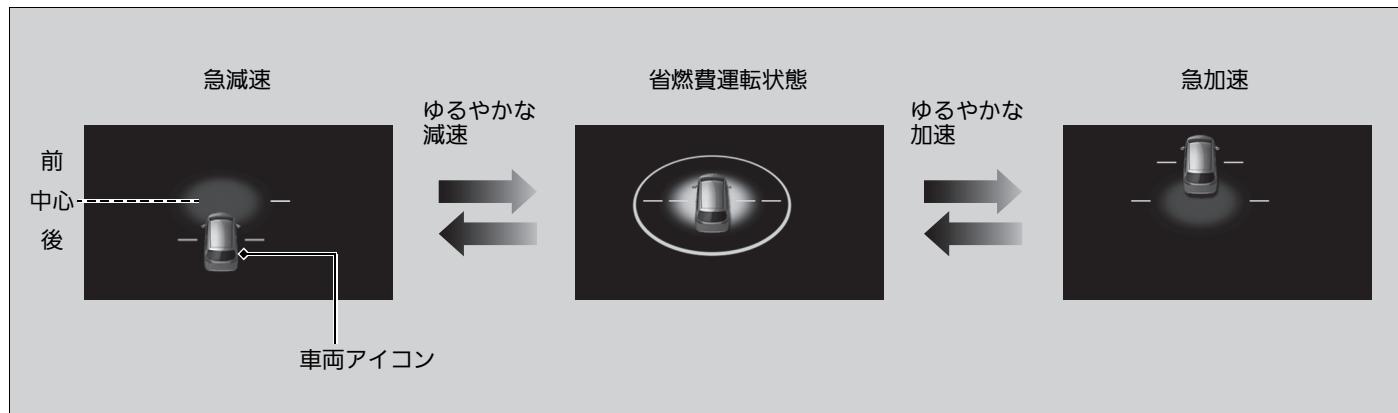
■ ECO ドライブディスプレイ / ECO スコア

■ ECO ドライブディスプレイ

運転操作の状態に応じて車両アイコンが前後に移動します。

急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。

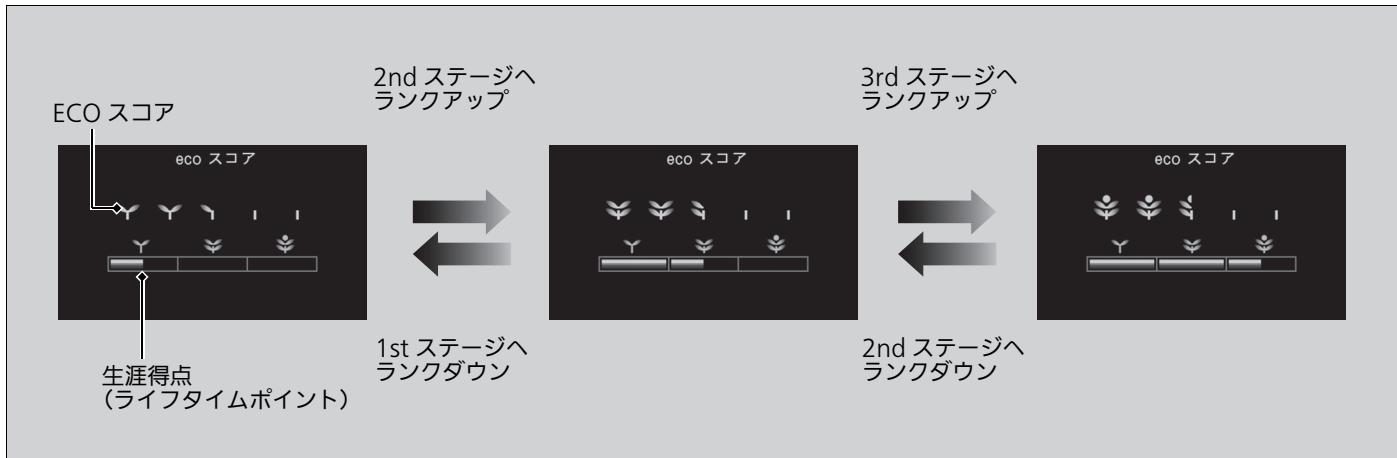
車両が中心からずれないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



■ECO スコア

パワーモードを OFF モードにすると、数秒表示されます。

1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ(ダウン)します。



■ECOスコアのリセット

1. シフトポジションが[P]であることを確認し、パワーモードをONモードにする。
2. ECONモードがONのときは、ECONスイッチを押してECONモードをOFFにする。
3. パワーモードをOFFモードにする。
4. 再度パワーモードをONモードにする。
▶手順4～6は、30秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを2回踏み込む。
6. ECONスイッチを2回押す。
▶アンビエントメーターが消灯します。
7. パワーモードをOFFモードにする。

■平均燃費履歴表示



走行時の平均燃費履歴を過去3回分表示します。

パワーモードをONモードにすると更新され、最も古い履歴が消去されます。

■平均燃費表示

トリップメーターA、Bと連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新してkm/lで表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフにkm/lで表示します。

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーと燃料の残量、平均燃費をもとに推定航続可能距離をkmで表示します。

■平均燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、Bと平均燃費A、Bを給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▣ カスタマイズ機能 P.133

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

■航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

経過時間表示

トリップメーターA、Bと連動し、パワーシステムを起動してから停止するまでの時間を表示します。

経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、Bと経過時間表示 A、Bを給油と連動させて自動的にリセットすることができます。

■ カスタマイズ機能 P.133

平均車速表示

トリップメーターA、Bをリセットしてからの平均車速をkm/hで表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、Bと平均車速表示 A、Bを給油と連動させて自動的にリセットすることができます。

■ カスタマイズ機能 P.133

タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

また、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押して、表示させることができます。

■ 表示の切り換えた P.110

タコメーター

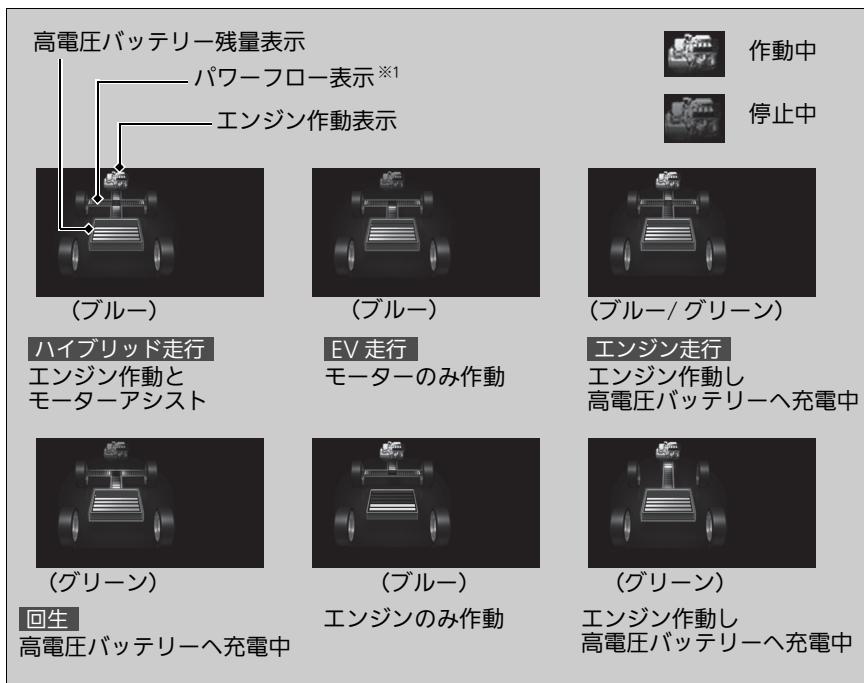
エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

シフトポジションが[R]のとき、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスマッシュション保護のため燃料供給が停止されます。

■高電圧バッテリー残量 / パワーフロー/ エンジン作動表示

高電圧バッテリーの残量や、高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。



※1：AWD車は後輪もパワーフロー表示を行います。

■高電圧バッテリー残量 / パワーフロー/ エンジン作動表示

パワー表示(POWER)とチャージメーター表示(CHARGE)の動きとパワーフロー/エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

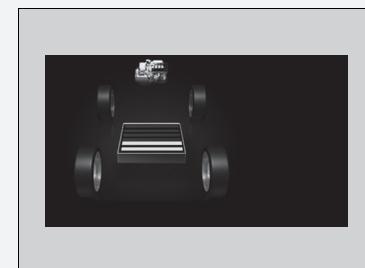
■パワー表示(POWER) / チャージメーター表示(CHARGE) P.108

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12Vバッテリーを交換したとき
- 12Vバッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

走行すると自動的に充電されます。

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



■ナビゲーション*



■コンパス

コンパスが表示されます。

■交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

☞ メーカーオプションのHondaインターナビシステム取扱説明書

»ナビゲーション*

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

☞ カスタマイズ機能 P.133

■ ACC(アダブティブクルーズコントロール)/LKAS 表示

ACC/LKAS の現在の状態を表示します。

☞ ACC(アダブティブクルーズコントロール) P.261

☞ LKAS(車線維持支援システム) P.274

■ 標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

☞ 標識認識機能 P.296

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。



- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを [D] または [L] にしたとき
- シフトポジションを 1 秒以上 [R] にしたとき

■ タイヤ角度モニター

タイヤ角度モニターの ON/OFF を選択することができます。

⇒ カスタマイズ機能 P.133

インフォメーション(1)スイッチ(▲ / ▼)を押して画面表示を切り換えると、タイヤ角度モニター表示に戻ることはできません。

再表示させるためには、左記の動作を行ってください。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

■ 信号情報活用運転支援システム

走行時に道路上に設置された光ビーコン路側器より受信した複数の交差点の信号予定情報を基に、信号通過支援表示、赤信号減速支援表示、発進遅れ防止支援表示を表示します。

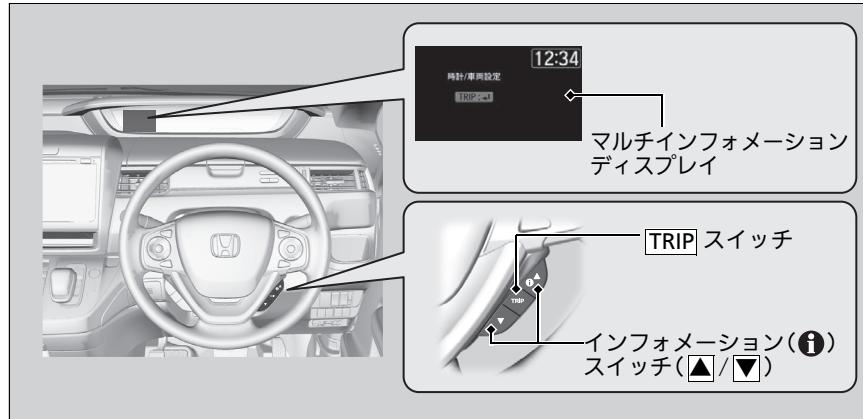
⇒ 信号情報活用運転支援システム P.235

■ 信号情報活用運転支援システム

別売の VICS 光ビーコンユニット装着時のみ表示されます。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードでシフトポジションが[P]のときに、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押して、「時計*/ 車両設定」を選択します。そして [TRIP] を押すと、カスタマイズを行うことのできる「グループ」画面に切り換わります。



カスタマイズのしかた

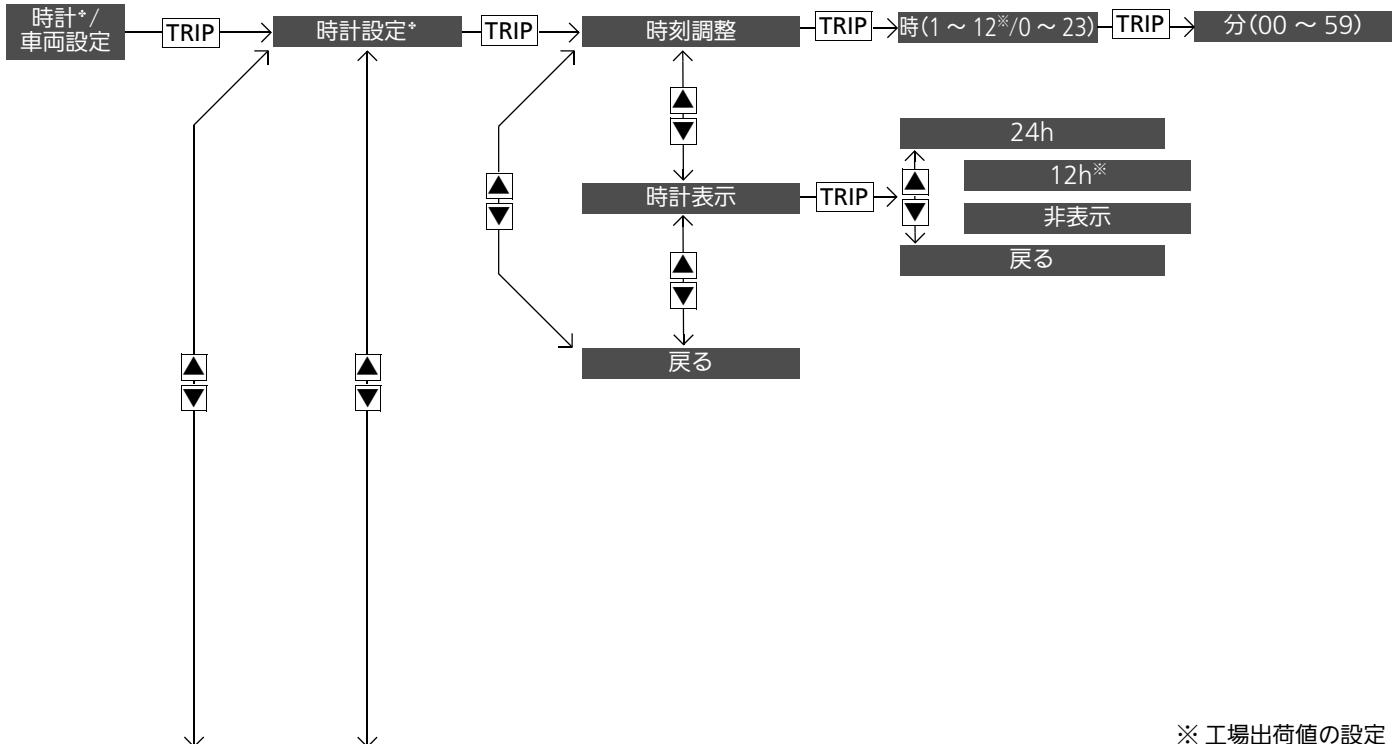
❷ カスタマイズ操作一覧 P.122

❸ カスタマイズ設定の例 P.135

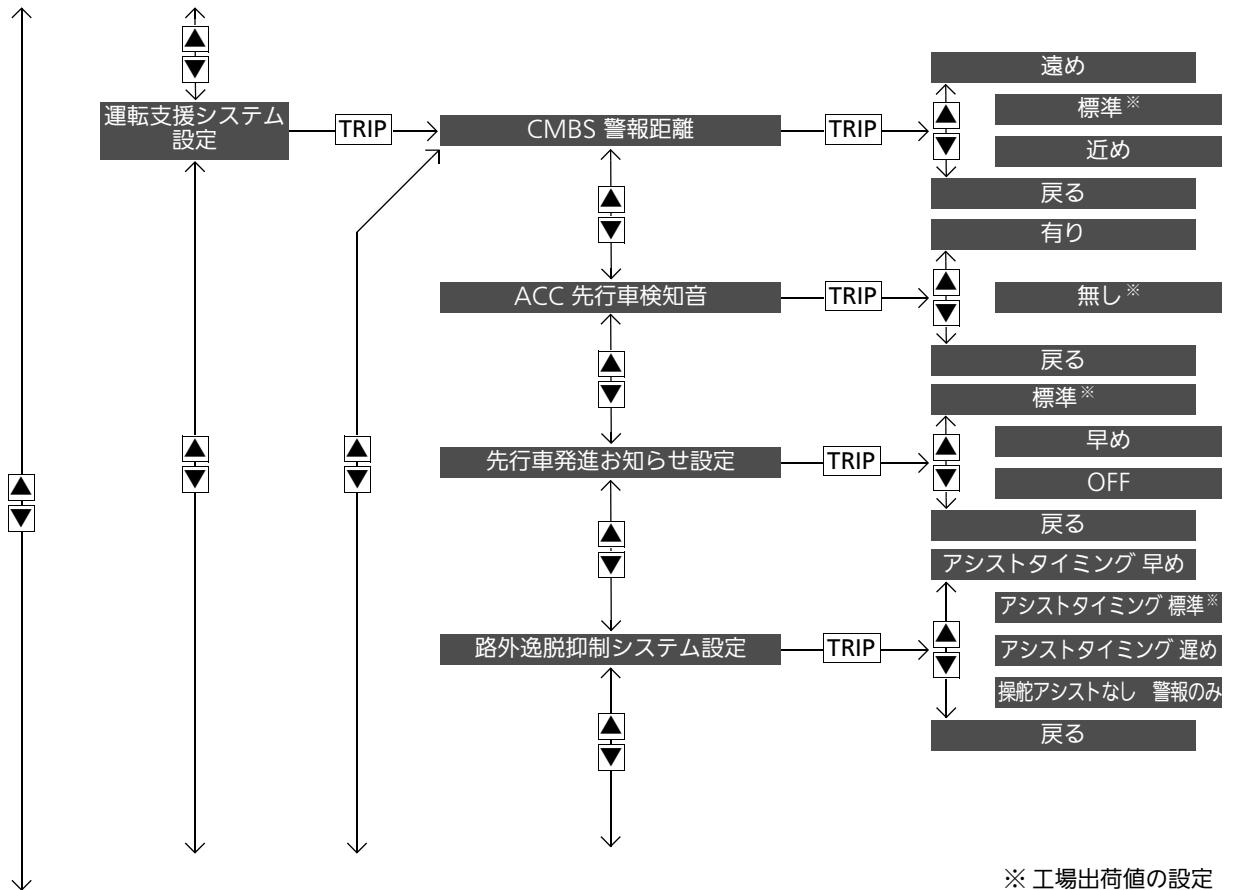
■カスタマイズ操作一覧

インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、[TRIP]で決定します。

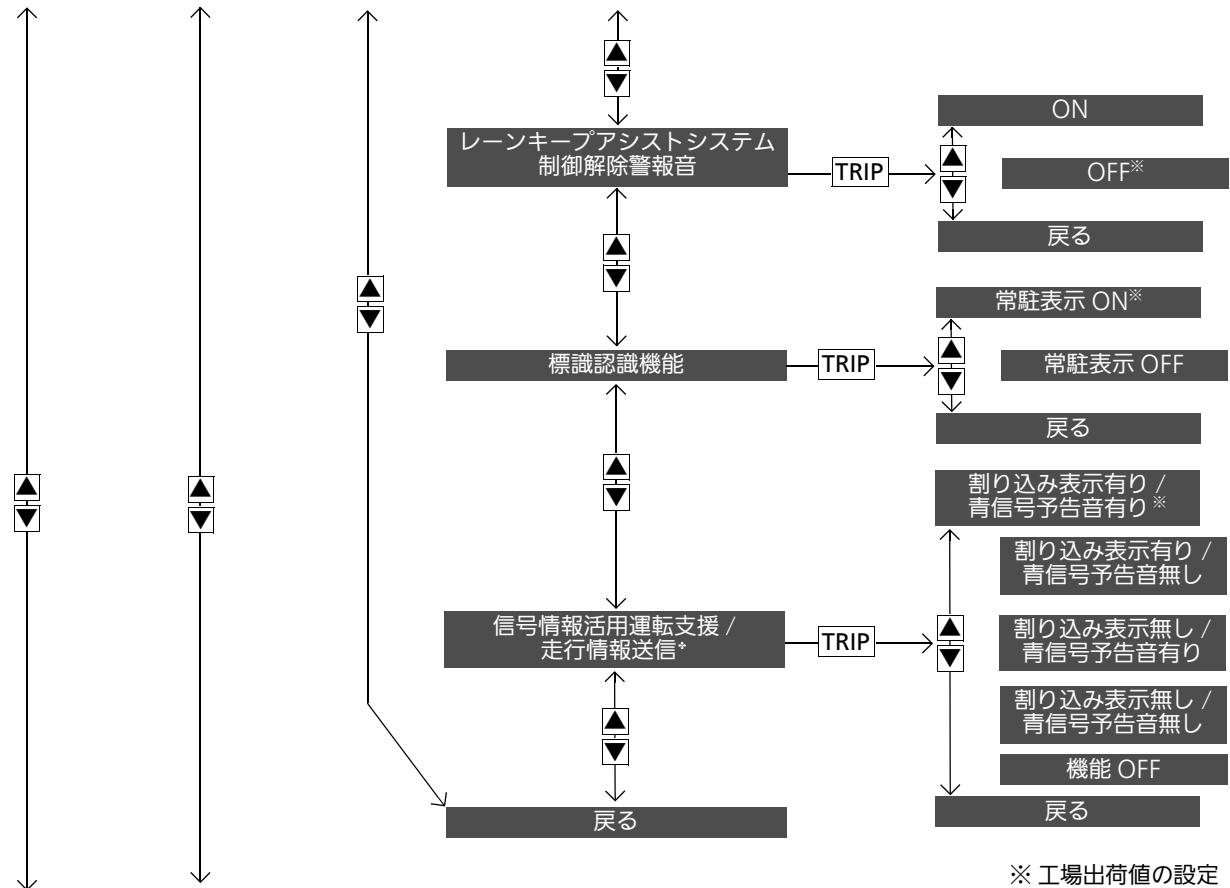
計器の見かた

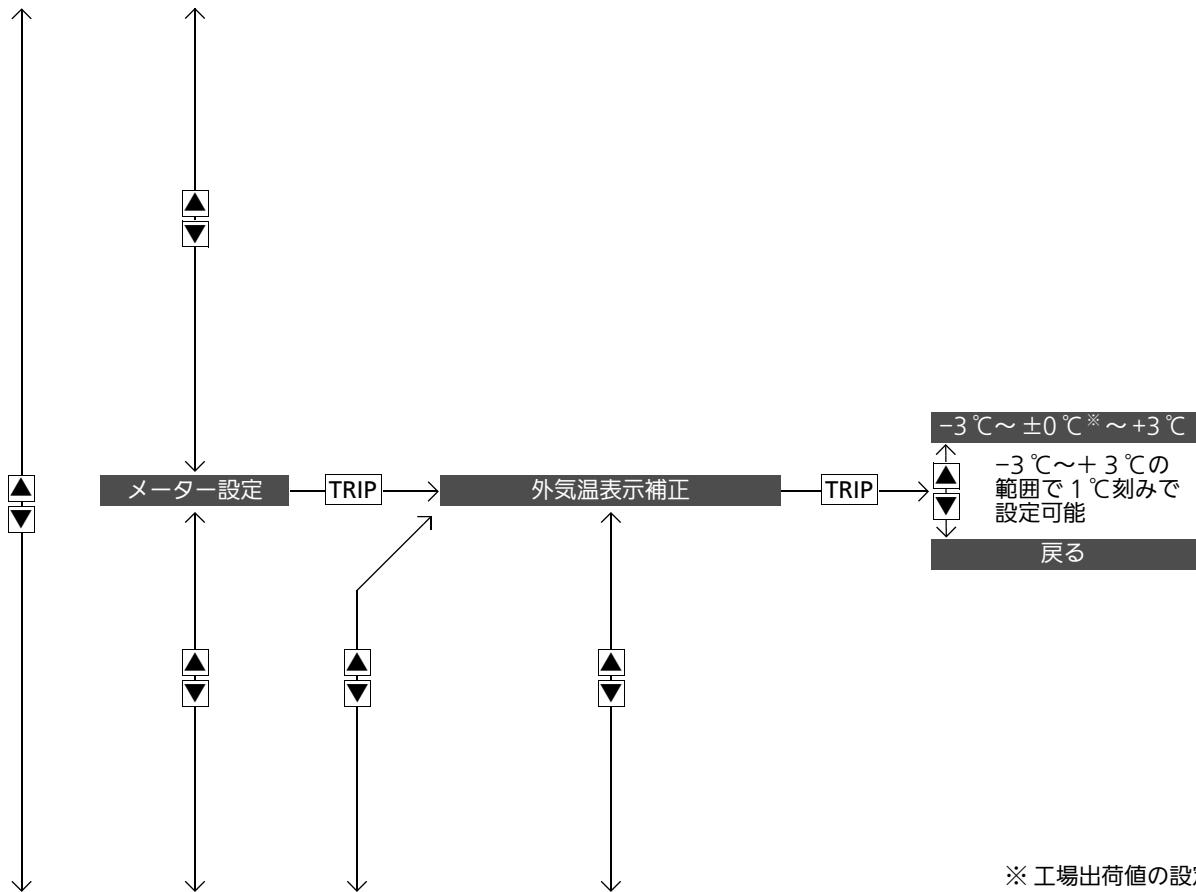


※ 工場出荷値の設定



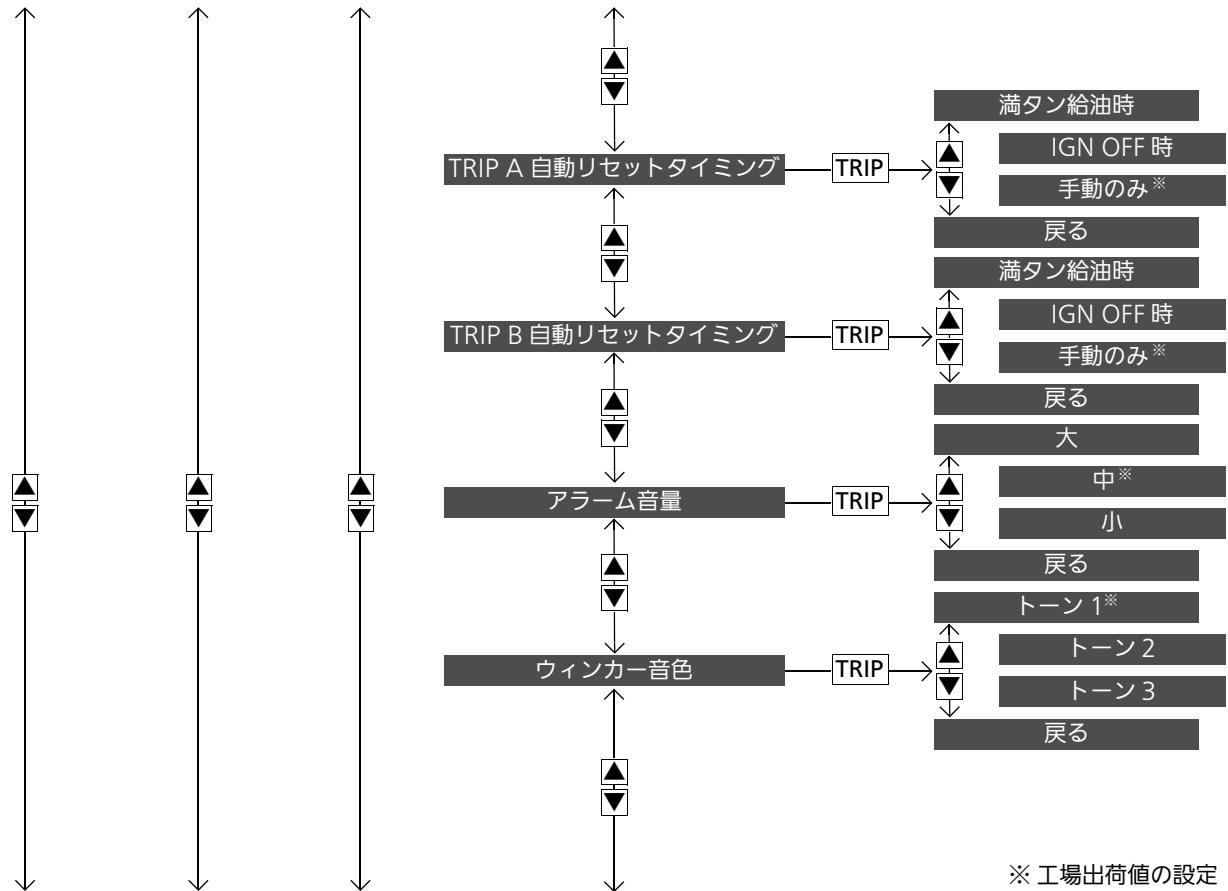
計器の見かた

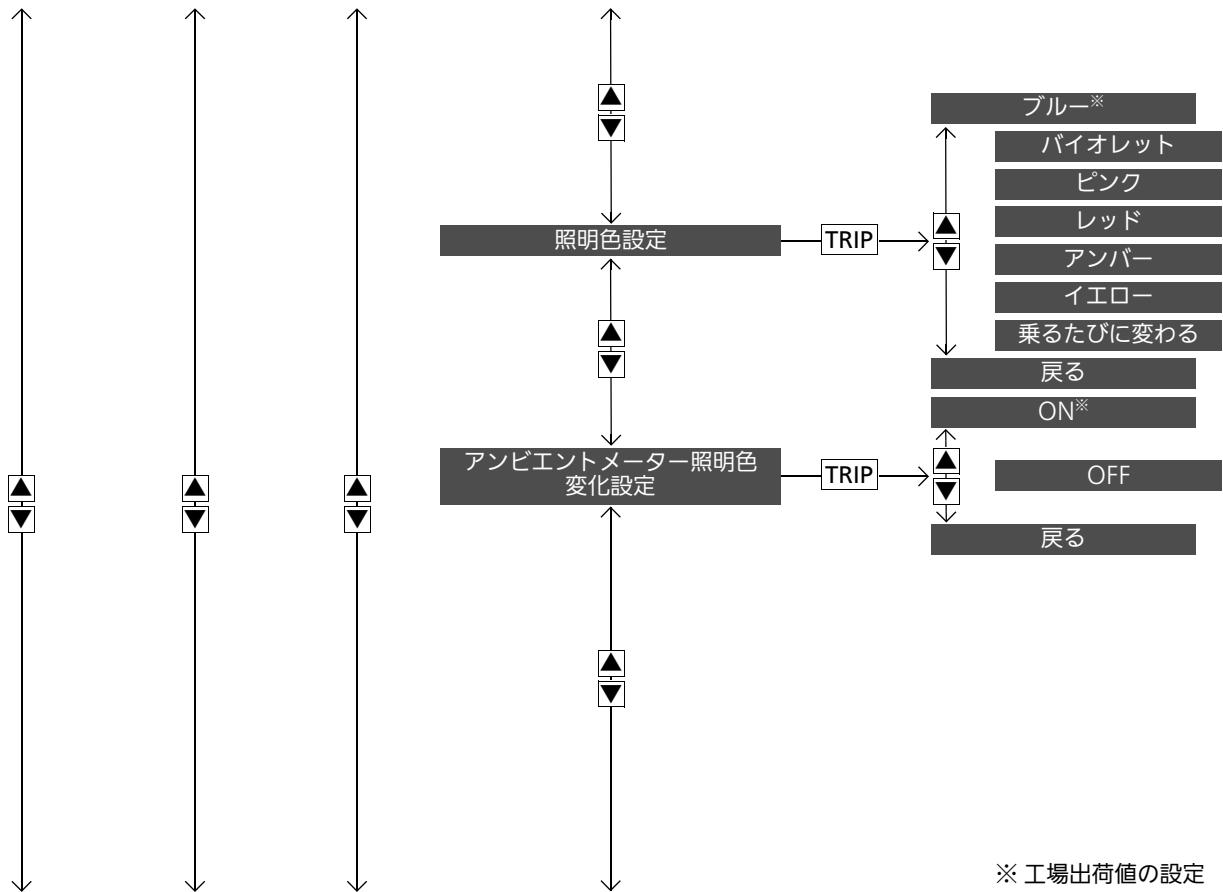




※ 工場出荷値の設定

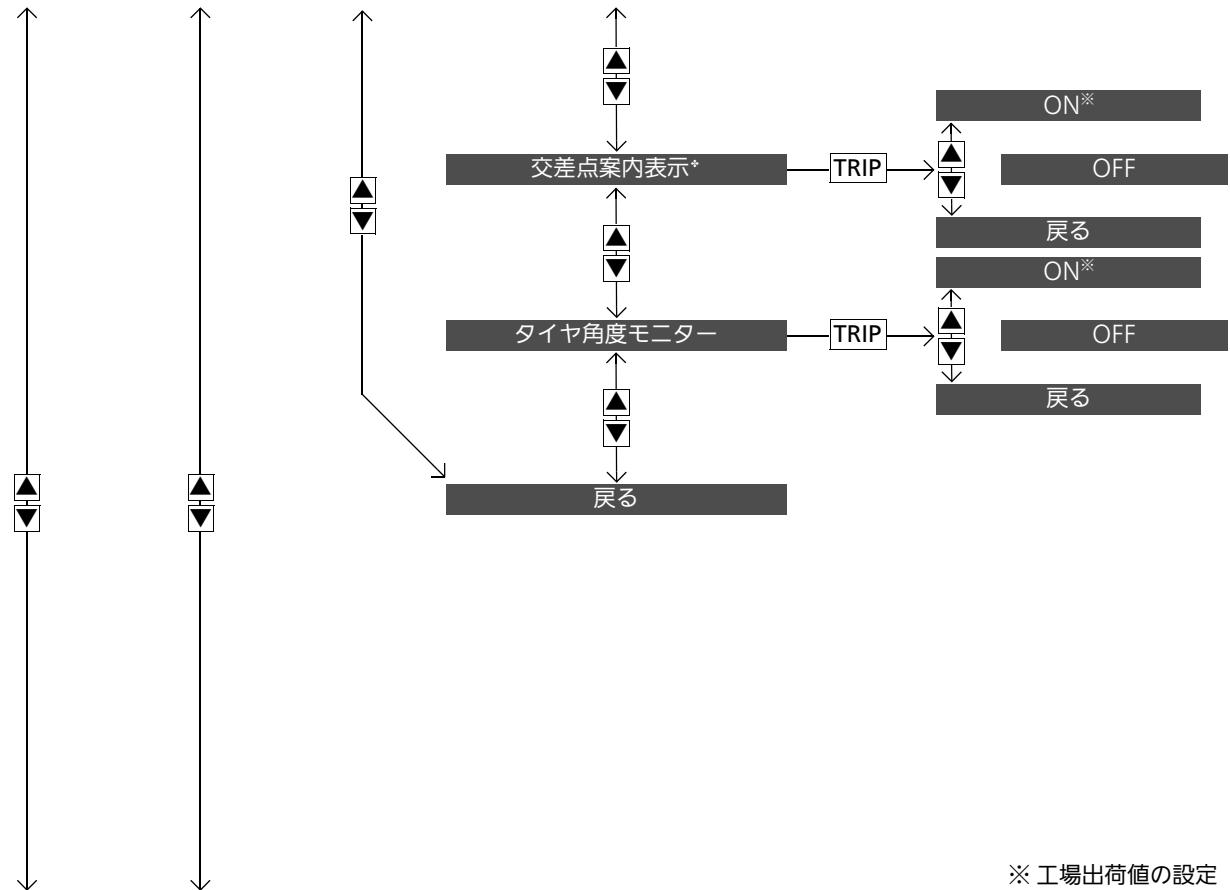
次ページに続く





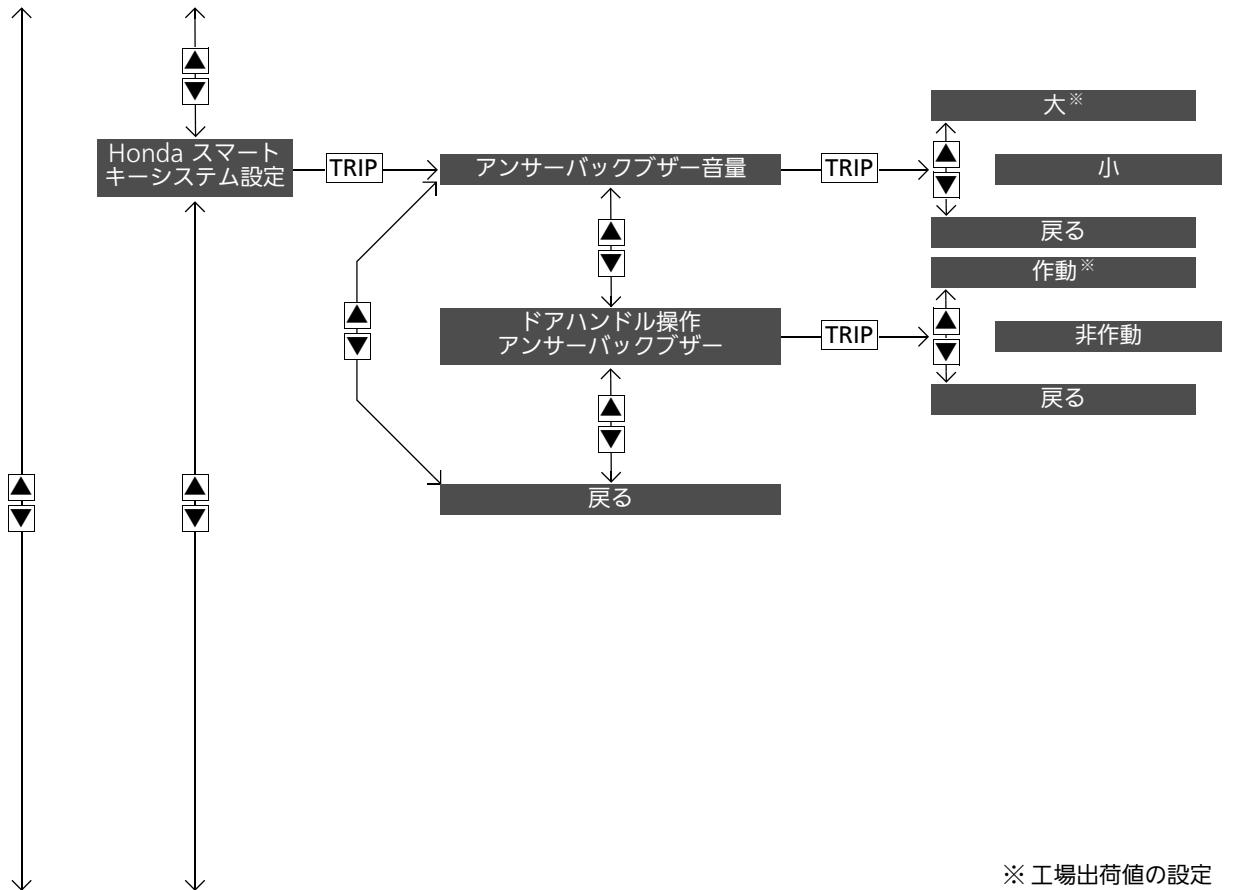
※ 工場出荷値の設定

次ページに続く



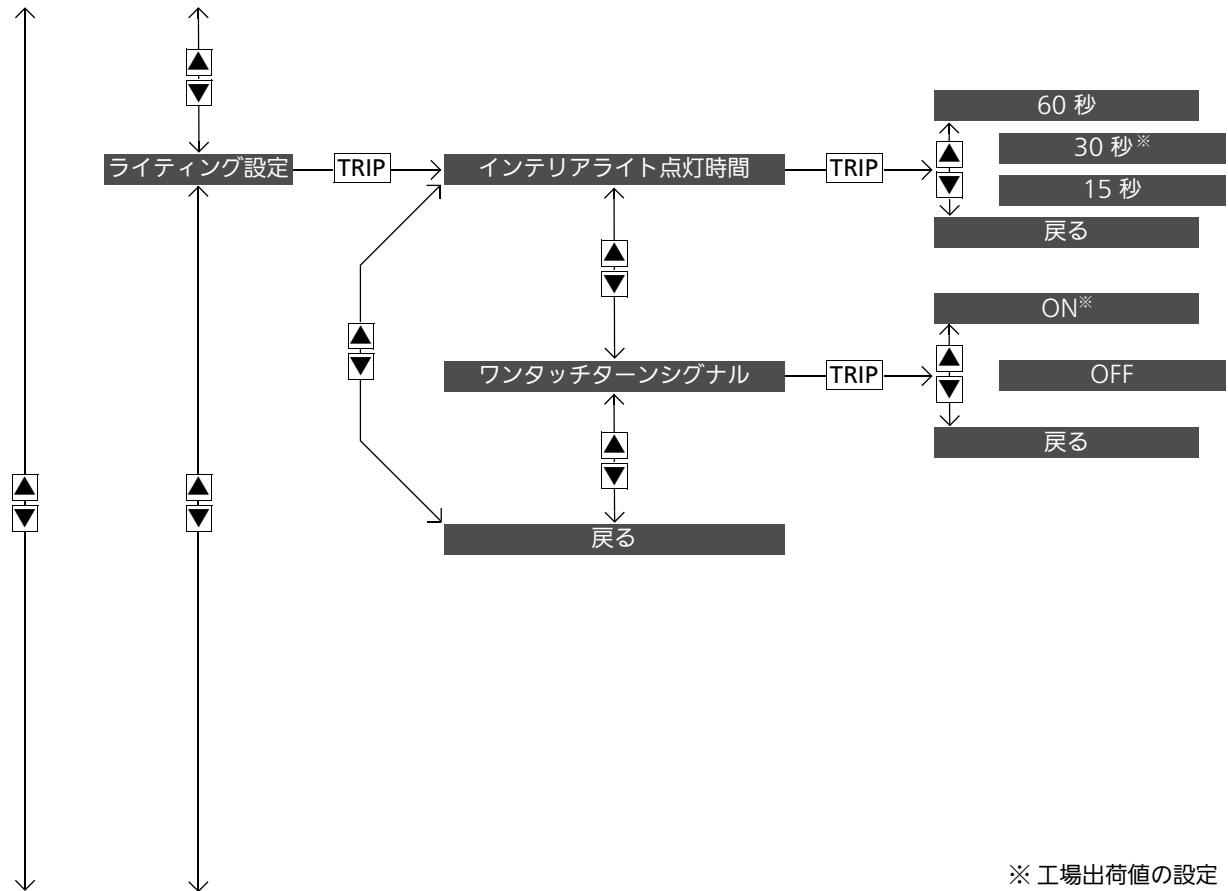
※ 工場出荷値の設定

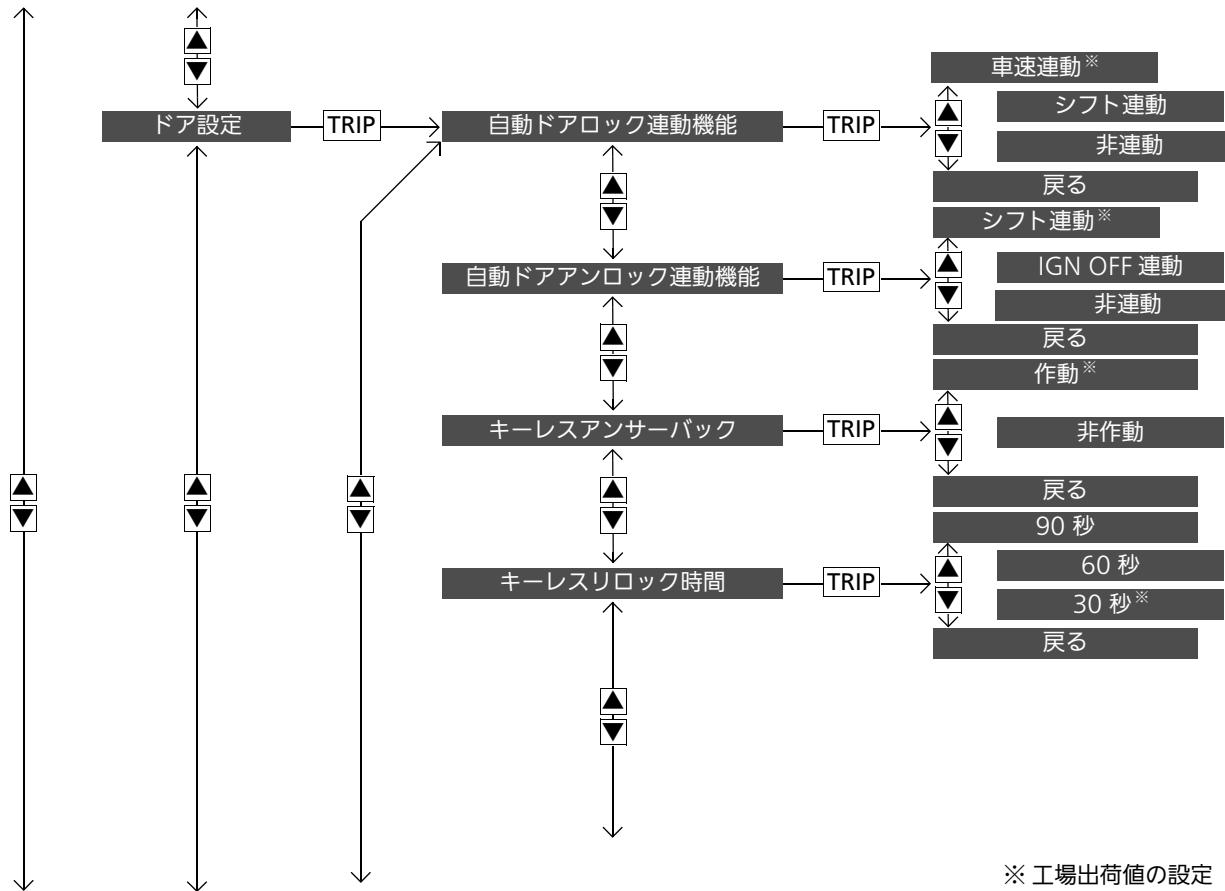
*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



※ 工場出荷値の設定

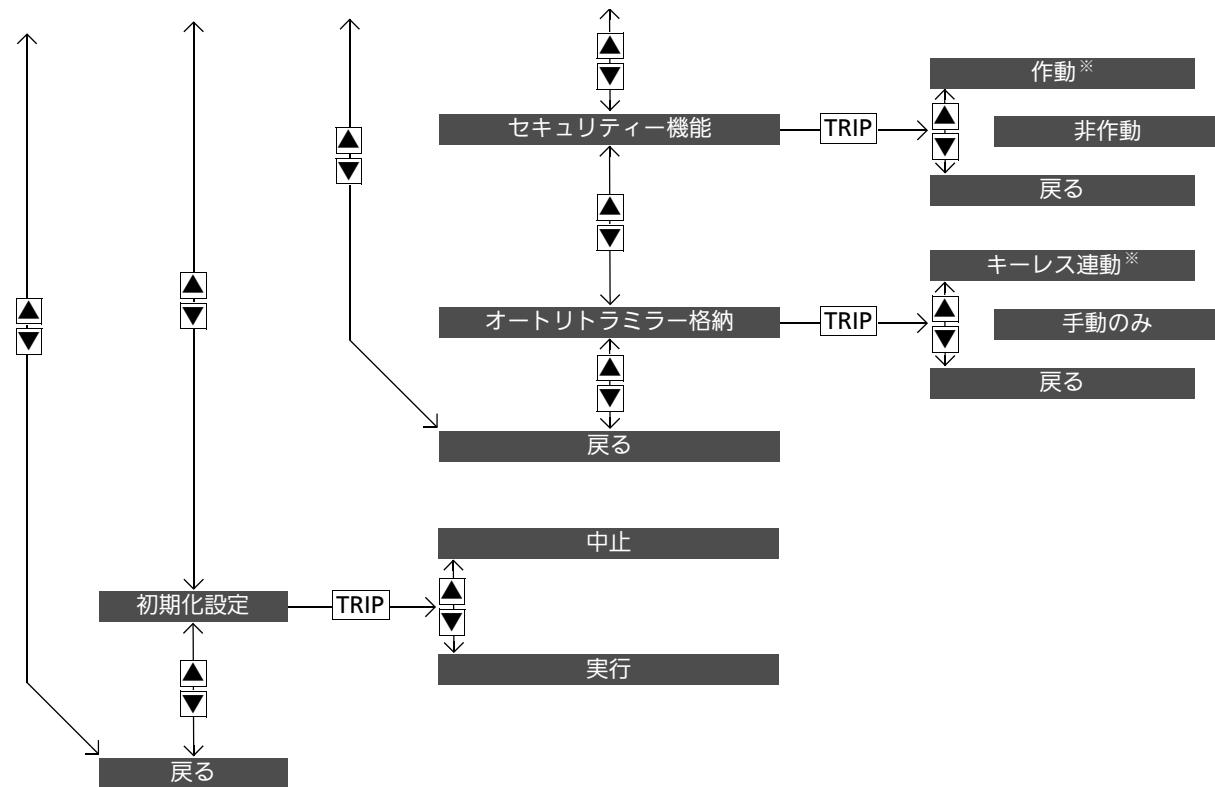
次ページに続く





※ 工場出荷値の設定

次ページに続く



※ 工場出荷値の設定

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能	選択できる設定内容
時計設定*	時刻調整 時間(1 ~ 12*/0 ~ 23)、分(00 ~ 59)
	時計表示 24h、12h*、非表示
運転支援システム設定	CMBs 警報距離 遠め、標準*、近め
	ACC 先行車検知音 有り、無し*
	先行車発進お知らせ設定 標準*、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定 アシストタイミング 早め、アシストタイミング 標準*、アシストタイミング 遅め、操舵アシストなし 警報のみ
	レーンキープアシストシステム ON、OFF*
	制御解除警報音
	標識認識機能 常駐表示 ON*、常駐表示 OFF
信号情報活用運転支援 / 走行情報送信*	割り込み表示有り / 青信号予告音有り*、 割り込み表示有り / 青信号予告音無し、 割り込み表示無し / 青信号予告音有り、 割り込み表示無し / 青信号予告音無し、機能 OFF

※：工場出荷時の設定

カスタマイズ機能	選択できる設定内容
メーター設定	
外気温表示補正	-3 °C ~ ±0 °C* ~ +3 °C
TRIP A 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ*
TRIP B 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ*
アラーム音量	大、中*、小
ワインカー音色	トーン1*、トーン2、トーン3
照明色設定	ブルー*、バイオレット、ピンク、レッド、アンバー、イエロー、乗るたびに変わる
アンビエントメーター照明色変化設定	ON*、OFF
交差点案内表示*	ON*、OFF
タイヤ角度モニター	ON*、OFF
Honda スマートキーシステム設定	
アンサーバックブザー音量	大*、小
ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動*、非作動
ライティング設定	
インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒*、15 秒
ワンタッチターンシグナル	ON*、OFF
ドア設定	
自動ドアロック連動機能	車速連動*、シフト連動、非連動
自動ドアアンロック連動機能	シフト連動*、IGN OFF 連動、非連動
キーレスアンサーバック	作動*、非作動
キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒*
セキュリティ機能	作動*、非作動
オートリトラミラー格納	キーレス連動*、手動のみ
初期化設定	
	中止、実行

※：工場出荷時の設定

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「満タン給油時」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. インフォメーション(❶)スイッチ(▲ / ▼)を押し、「時計*/ 車両設定」が表示されたら、[TRIP]を押す。

Hondaインターナビシステム非装備車

- ▶ 「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されますので、インフォメーション(❶)スイッチ(▲ / ▼)を押し、「メーター設定」を選択します。

Hondaインターナビシステム装備車

- ▶ 「グループ」画面に切り換わり、「運転支援システム設定」が表示されますので、インフォメーション(❶)スイッチ(▲ / ▼)を押し、「メーター設定」を選択します。

2. [TRIP]を押す。

- ▶ 「メニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。

□カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリーモードまたはOFFモードにする
- シフトポジションを[P]以外にする



3. インフォメーション(❶)スイッチ($\blacktriangle/\blacktriangledown$)を押し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、[TRIP]を押す。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「満タン給油時」、「IGN OFF 時」、「手動のみ」が選択できます。



4. 「満タン給油時」が選択されていることを確認し、[TRIP]を押す。
▶「“満タン給油時”に設定しました」という画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。



5. インフォメーション(❶)スイッチ($\blacktriangle/\blacktriangledown$)を押し、「戻る」が表示されたら、[TRIP]を押す。
6. 手順5の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定	138
ドアの施錠と解錠	
キー	141
車外でのドアの施錠 / 解錠	144
車内での施錠 / 解錠	150
チャイルドプルーフ	152
オートドアロック /	
オートドアアンロック	153
テールゲート	154
スライドドア	155
イージードアクローザー	162
セキュリティシステム	163
イモビライザーシステム	163

セキュリティアラームシステム	163
ウィンドーの開閉	165
ハンドルまわりのスイッチ操作	
POWER スイッチ	167
ライトの使いかた	170
アクティブコーナリングライト	173
ワイパー / ウォッシャー	174
リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー*	
スイッチ	176
フロントガラス熱線スイッチ*	177
イルミネーションコントロール	178
ハンドルの調節	179
ミラー類の調節	180

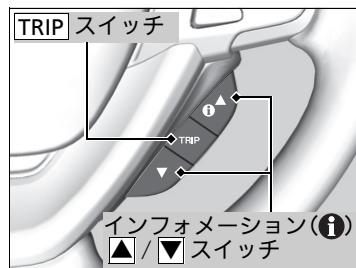
シートの調節	
フロントシート	183
セカンドベンチシート*	185
セカンドキャプテンシート*	190
サードシート*	191
リフレッシュモード	194
ヘッドレスト	195
アームレスト	197
室内装備品	199
エアコン	
エアコンの吹き出し口	213
オートエアコンの使いかた	214
オートエアコンのセンサー	217

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時計の時刻を合わせる

時計はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

Honda インターナビシステム非装備車



1. インフォメーション(❶)スイッチ(\blacktriangle / \blacksquare)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、**TRIP**を押す。
▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。

2. **TRIP**を押す。
▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「時刻調整」が表示されます。
3. **TRIP**を押す。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。

4. インフォメーション(❶)スイッチ(\blacktriangle / \blacksquare)を押し、希望の数値が表示されたら、**TRIP**を押す。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。

5. 手順4と同様の操作で「分」を調整をする。
▶「分」が設定され、時刻調整が完了します。

時計の時刻を合わせる

Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

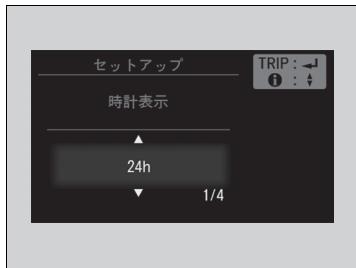


■時計表示

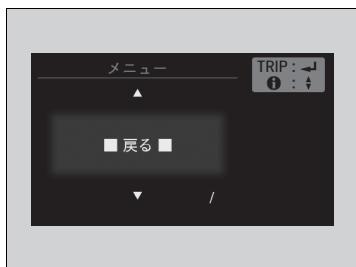


6. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、**TRIP**を押す。
7. **手順6**の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

1. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、**TRIP**を押す。
▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. **TRIP**を押す。
▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「時刻調整」が表示されますので、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計表示」を選択します。

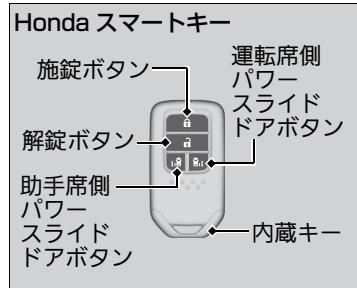


3. **TRIP** を押す。
 - ▶ 「セットアップ」画面に切り換わり、時計表示設定ができます。
4. インフォメーション(**I**)スイッチ(**▲**/**▼**)を押す。
 - ▶ 24h/12h/ 非表示に切り換えることができます。
 - ▶ 「12h」または「24h」を選択すると時計表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
 - ▶ 「非表示」を選択すると時計が非表示となります。
5. **TRIP** を押す。
 - ▶ 設定完了のメッセージ画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。
6. インフォメーション(**I**)スイッチ(**▲**/**▼**)を押し、「戻る」が表示されたら、**TRIP** を押す。
7. 手順6の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。



キー

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。

▷キー

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

▷イモビライザーシステム P.163

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- ・直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- ・キーを落としたり、重いものをのせない
- ・キーに液体をかけない
- ・砂やほこりを避ける
- ・分解をしない
- ・火であぶらない
- ・テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

■内蔵キー



Honda スマートキーの電池が切れたときや車の12Vバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
 - 電池交換時以外は分解しない
 - 改造しない
 - キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない
- 分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

■ Honda スマートキーの電池が切れたとき

P.377

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

■キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

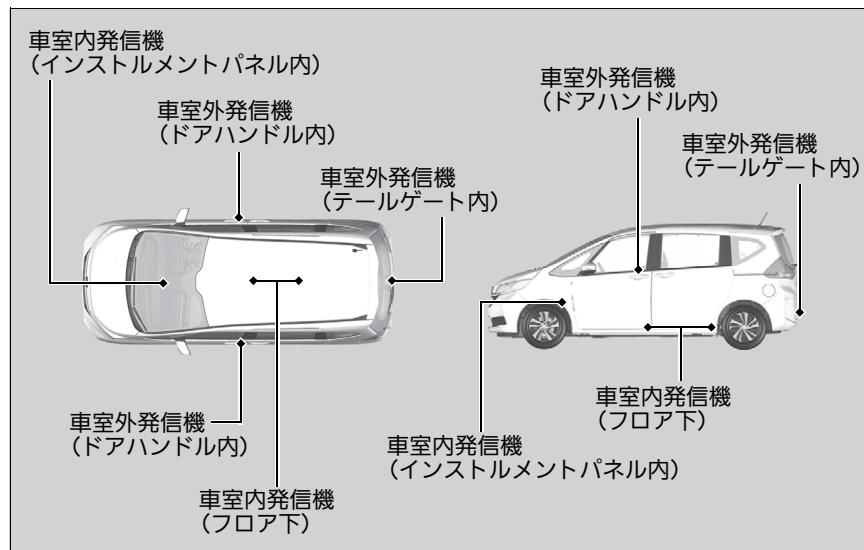
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- ・強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- ・携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- ・Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



▶Honda スマートキーの微弱電波

△注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から22cm以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約2年間です。

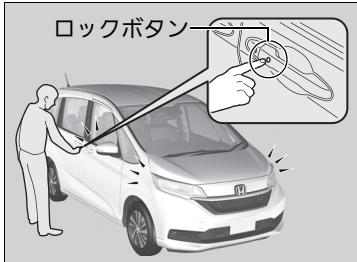
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

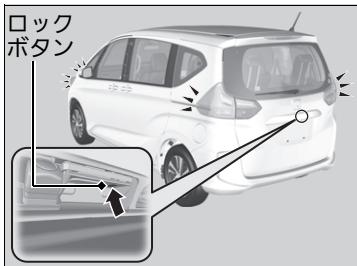


Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープニングスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠ができます。施錠 / 解錠が作動するのは、運転席、助手席ドアハンドル、テールゲートオープニングスイッチから周囲約 80cm 以内です。



■施錠するには
運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートハンドルのロックボタンを押します。

►「ピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。



車外でのドアの施錠 / 解錠

ドア、テールゲートを解錠すると、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。

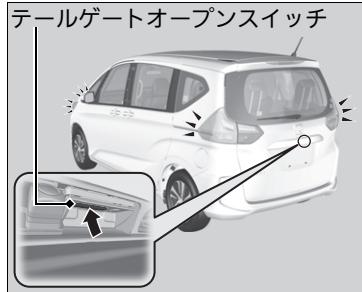
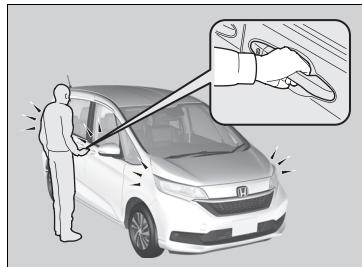
約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にドア、テールゲートを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。

⇒ 室内灯 P.199

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときは Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。



■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

▶▶ Hondaスマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Hondaスマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲にHondaスマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内にHondaスマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後、もしくはテールゲートオープンスイッチを押した直後は、ドア、テールゲートが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおすか、テールゲートオープンスイッチを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチより約80cm以内の距離でも、Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。

» Honda スマートキーシステムでの施錠／解錠

カスタマイズ機能について

施錠／解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

▣ カスタマイズ機能 P.133

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



- Ⓐ 施錠ボタン
- Ⓑ 解錠ボタン



■施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

マルチインフォメーションディスプレイを使ってキーレスリロック時間をカスタマイズすることができます。

▣ カスタマイズ機能 P.133

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

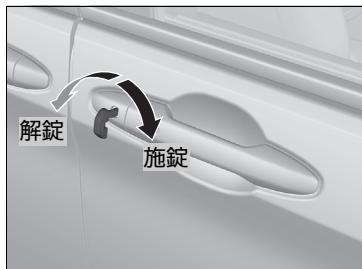
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

▣ 電池交換のしかた P.344

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

⇒ 電池交換のしかた P.344



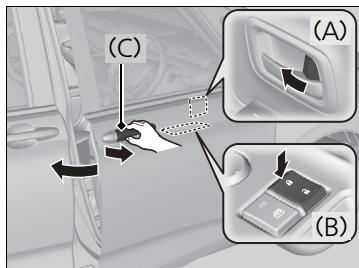
キーを確実に差し込んで、回します。

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

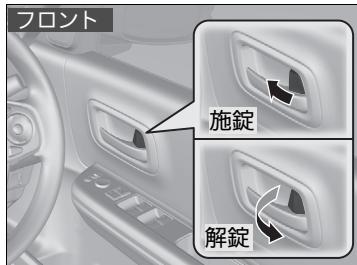
施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

■キー閉じこみ防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



フロント

■施錠するには

ノブを押し込みます。

■解錠するには

ノブを引き出します。



リヤ

■施錠するには

ノブを下げます。

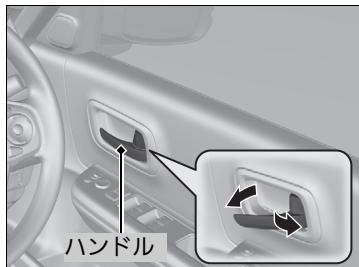
■解錠するには

ノブを上げます。

■ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠

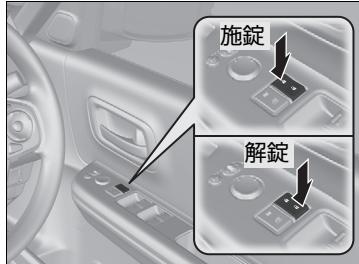


運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

■運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

■マスター・ドアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスター・ドアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

■マスター・ドアロックスイッチでの施錠 / 解錠

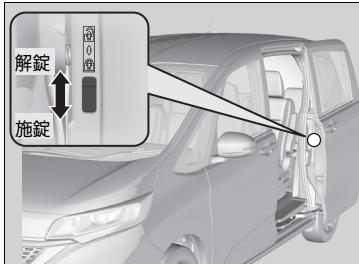
運転席ドアのマスター・ドアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまをセカンドシートまたはサードシート^{*} に乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドブルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

■ チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

運転席スイッチ、キーレスエントリーシステムでも開閉できます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- ・正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- ・側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグ装備車の場合で、サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- ・後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック

■車速連動

車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、テールゲートが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック

■セレクトレバー連動

ブレーキペダルを踏んでシフトポジションを[P]にすると、すべてのドア、テールゲートが自動的に解錠される機能です。

▶▶ 衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

▶▶ オートドアロック / オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

⇒ カスタマイズ機能 P.133

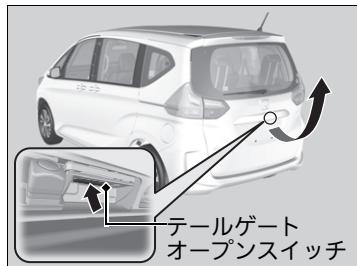
テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- ・テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- ・風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- ・テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶テールゲートが破損するおそれがあります。
 - ▶車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

⇒一酸化炭素について P.74

テールゲートの開閉



解錠されているときに、テールゲートオープنسイッチを押して引き上げます。

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープنسイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

⇒ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

P.144

■テールゲート開閉時の注意

△ 注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。ブレーキや加速、衝突のときけがをするおそれがあります。

■テールゲートの開閉

- ・Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に置かないようにしてください。
- ・作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもテールゲートオープنسイッチでテールゲートを解錠することができます。

スライドドア開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■閉めるとき

- Hondaスマートキーを、車内に置き忘れないようにする
▶運転席ドアを施錠したあとにスライドドアを閉めると、施錠されてスライドドアが開かなくなります。

»スライドドア開閉時の注意

△注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。

特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。

ドアが不意に閉まるおそれがあります。

ドアハンドルをしっかりと持って開閉する。
ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

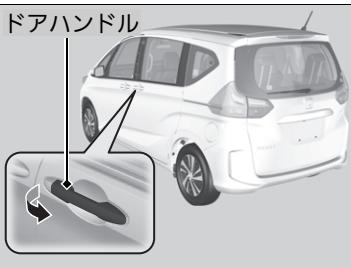
ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまがスライドドアを誤って操作しないように、チャイルドブルーフをセットしてください。

➡ チャイルドブルーフ P.152

スライドドアのドリンクホルダーにはみ出すものを入れていると、開閉の妨げになったり、車体に傷をつけるおそれがあります。

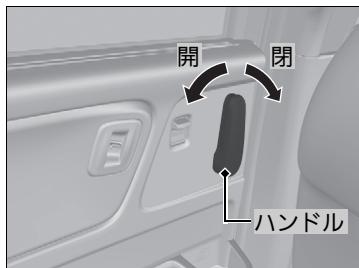
スライドドアの開閉操作



■車外から開閉するとき

開けるとき：ドアハンドルを引き後方へスライドさせる。

閉めるとき：ドアハンドルを引き前方へスライドさせる。



■車内から開閉するとき

開けるとき：ハンドルを持ち後方へ引いてスライドさせる。

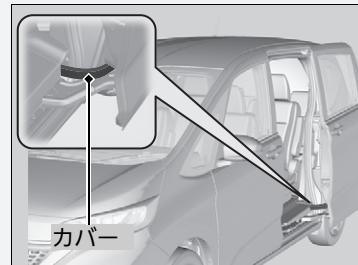
閉めるとき：ハンドルを持ち前方へ押してスライドさせる。

■スライドドアの開閉操作

スライドドアは全開にするとストッパーで固定されます。

アドバイス

スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因となります。踏まないよう注意してください。



助手席側のスライドドアはフューエルリッドが開いているとストッパーが作動して途中で止まります。フューエルリッドを閉めてスライドドアを少し戻してから開けると全開できます。

パワースライドドアの開閉操作

キーレスエントリーシステムや運転席にあるパワースライドドアスイッチを使って、パワースライドドアを自動で開閉することができます。また、ドアハンドルを引いて自動で開閉することもできます。

»パワースライドドアの開閉操作

⚠ 警告

パワースライドドアを開閉するときは、ドアの内側と外側の安全を十分確認する。

ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠ 注意

後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを OFF にする。

ON のままだと、誤ってメインスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉する。また乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかける。

パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすことがあります。

■自動で開閉するときの条件

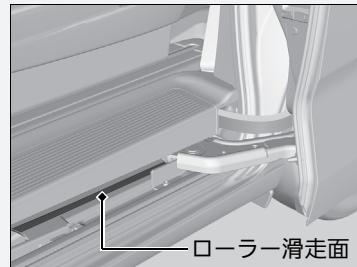
次の条件が揃っているときに、自動で開閉することができます。

- メインスイッチが ON のとき
- パワースライドドアが解錠されているとき
- フューエルリッドが閉じているとき(助手席側のみ)
- パワーモードが OFF モードのときに、キーレスエントリーシステムでの開閉ができます。
- パワーモードを ON モードにしているときは、シフトポジションが **P** のときにパワースライドドアスイッチ、ドアハンドルを操作して開閉ができます。
▶ **P**以外でもブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキがかかっているときは操作できます。

■パワースライドドアの開閉操作

パワースライドドアのローラーの滑走面に石などの異物があると、作動不良になる場合があります。

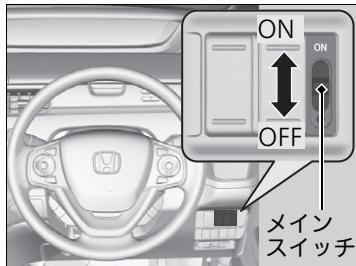
異物を取り除く場合は、水平な場所で必ずメインスイッチを OFF にして行ってください。



パワーモードが ON モードでパワースライドドアを作動中のときに、シフトポジションが **P**以外でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除すると、ブザーが鳴ります。

開けているときは「ピー」とブザーが鳴り続けて途中で止まり、閉めているときは「ピーピーピーピー」とブザーが鳴り、そのまま閉まります。

■自動開閉と手動開閉の切り換え



自動開閉：メインスイッチを ON にする

手動開閉：メインスイッチを OFF にする

➡ **スライドドアの開閉操作 P.156**

■パワースライドドアの開閉操作

坂道などでドアを開閉中にメインスイッチを OFF にして止めないでください。

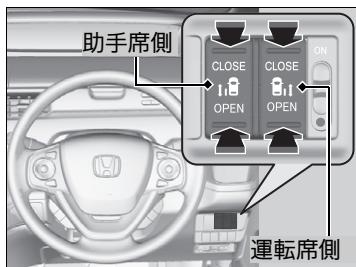
落下防止機構が作動し、ブザーが鳴り続けます。坂道の場合は、スライドドアがブレーキを掛けながら、傾斜方向へ移動します。

落下防止機構が作動中は、再度メインスイッチを ON にして、ドアを自動で閉めてください。

下記の操作を行うと、落下防止機構が解除され、ドアが自重で動くことがあるので注意してください。

- ・ドアハンドルを操作する
- ・メインスイッチを ON から OFF にする

■パワースライドドアスイッチで開閉する



[OPEN] 側を押すと開き、[CLOSE] 側を押すと閉まります。

開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアスイッチを押すと、「ピーピーピー」とブザー音が鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。

再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

助手席側パワー スライドドアボタン



運転席側パワースライド ドアボタン

パワースライドドアボタンを約1秒以上押すと、自動で開閉することができます。

開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアボタンを押すと、「ピーピーピー」とブザー音が鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。

再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

パワースライドドアの開閉操作

⚠ 警告

ドアを開閉する前に、ドア付近に障害物がないことを必ず確認する。

はさみ込み防止機能は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。ドアにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

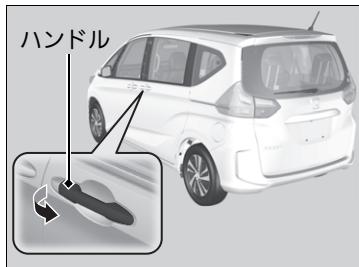
⚠ 注意

パワースライドドアに指などをはさみ込まないように注意する。

パワースライドドアを確実に閉め切るために、閉め切る直前の部分にはさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワースライドドアを自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりパワースライドドアが反対側に動きます。このとき、ブザーが「ピーピーピー」と鳴ります。

■ ドアハンドルで開閉する

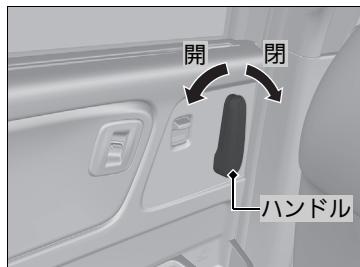


■ 外側のハンドル

ハンドルを引くと自動で開閉することができます。

施錠されても、Honda スマートキーを携帯してハンドルを引き、戻すと、自動的にすべてのドア、テールゲートが解錠されパワースライドドアが開きます。

開閉中にハンドルを操作すると「ピーピーピー」とブザーが鳴り、途中で止まります。再度ハンドルを引くと反対側に動きます。



■ 内側のハンドル

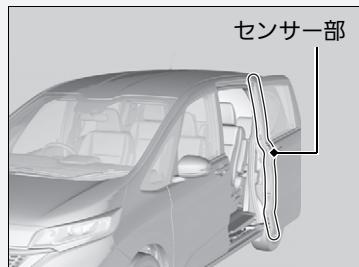
ハンドルを後ろ側に引くと自動で開き、前側に押すと自動で閉じます。

開閉中にハンドルを操作すると「ピーピーピー」とブザーが鳴り、途中で止まります。再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

» パワースライドドアの開閉操作

アドバイス

パワースライドドア前端にあるセンサーに触れない。センサーに触るとパワースライドドアが閉まりません。また、センサーを鋭利なものなどで傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。



フューエルリッドが開いた状態で、助手席側パワースライドドアの操作を行うとブザーが鳴り作動しません。

坂道でパワースライドドアを途中停止させたままにすると、約 30 分後自動で傾斜方向に作動します。

パワーモードが ON モード のときに、シフトポジションが [P] 以外で下記の操作を行うと、内側または外側のハンドルでパワースライドドアを開けようとしても、ブザーが鳴り自動で開きません。

- ブレーキペダルから足を離す
- パーキングブレーキを解除する

イージードアクローザー

スライドドアを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。

パワースライドドアのメインスイッチの位置に関係なくイージードアクローザーが作動します。

■イージードアクローザー



半ドア状態の位置からドアが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意する。

イージードアクローザー作動中にスライドドアのハンドルを引くと、作動が止まり半ドア状態のままになります。また、スライドドアのハンドルを引いたままドアを閉めると、イージードアクローザーは作動しません。

故障の原因になるので、イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。[POWER]を押すときは、下記の点に注意してください。

- [POWER]の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは内蔵キーを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

▷イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

▷セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。

ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。

状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- ・パワーモードがOFFモードのとき
- ・ボンネットが閉まっているとき
- ・Hondaスマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約15秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Hondaスマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

■セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときは、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に12Vバッテリーがあがり、12Vバッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Hondaスマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

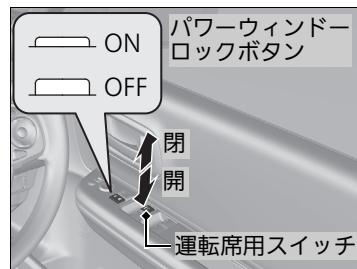
パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFFにしてから行います。パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンをON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンをONにしておいてください。

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき:スイッチを軽く押す

閉めるとき:スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき:スイッチを強く押す

閉めるとき:スイッチを強く引き上げる

自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ／下げします。

»パワーウィンドーの開閉

⚠ 警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠ 注意

指などをはさみ込まないように注意する。

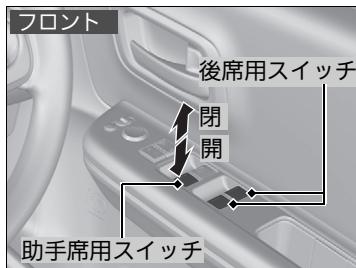
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードをOFFにしても、約10分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■自動開閉機能なしのウィンドーの開閉



フロント

開けるとき：スイッチを押す

閉めるとき：スイッチを引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。



リヤ

開けるとき：スイッチを下げる

閉めるとき：スイッチを上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

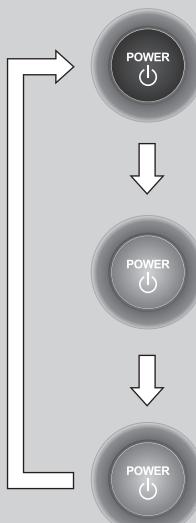
■パワーウィンドーの開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなつたときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

POWER スイッチ

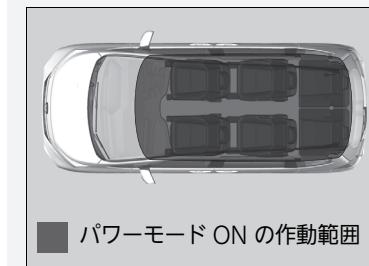
■パワーモードの切り換えかた



▶POWER スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードを ON モードにできます。

Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードの ON 機能が作動しないことがあります。



Honda スマートキーの電池が消耗した状態で [POWER] を押してもパワーシステムが起動しない場合があります。そのときは、下記ページを参照ください。

▶ Honda スマートキーの電池が切れたとき

P.377

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードを ON モードにできることがあります。

■パワーモードオートオフ機能

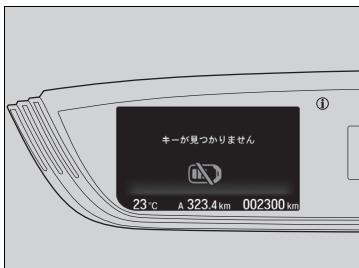
シフトポジションが[P]でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60分経過すると、12Vバッテリー保護のため自動的にパワーモードがOFFモードになります。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキー持ち去り警告



パワーモードが OFF モード以外のときに Honda スマートキーを車外に持ち出しへドアを閉めると警告ブザーが鳴ります。

警告状態が続くときは Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

車外から警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードが ON モードのとき

車外と車内から警告ブザーが鳴ります。

また、メーター内に警告が表示されます。

▶Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

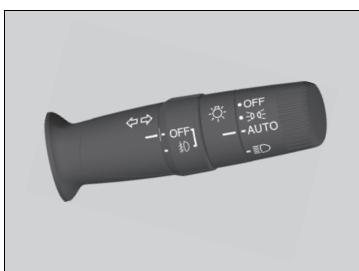
Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われことがあります。

ライトの使いかた

■ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯／消灯させることもできます。
パワーモードがONモードのとき、ライトスイッチを[AUTO]にすると自動点灯が作動します。



■手動点灯／消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを[]にします。

車幅灯の点灯：

ライトスイッチを[]にして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを[]にしたあと、[AUTO]にします。

ヘッドライト・車幅灯の消灯：

停車中にライトスイッチを[OFF]にして手を放します。

- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

■ライトの使いかた

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

⇒ **表示灯** P.88

■ヘッドライト・車幅灯

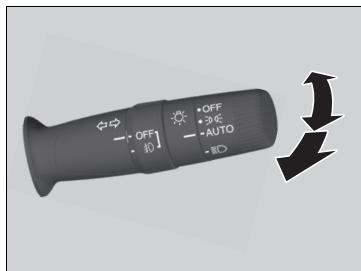
車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。

スイッチを[]にしたままパワーモードをOFFモードにすると、運転席のドアを開けた時にライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。このとき、Hondaスマートキーシステム、または、キーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ライトが消灯します。

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12Vバッテリーあがりの原因となります。

■ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。



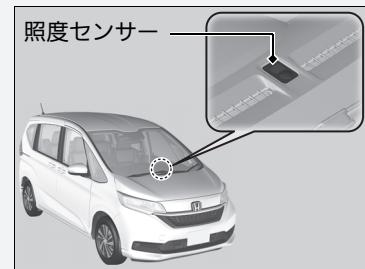
■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

- ▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

▶ヘッドライト・車幅灯

照度センサーは、図の位置にあります。センターの上にものを置かないでください。

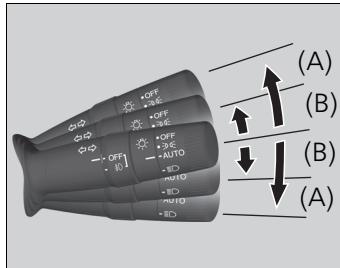


重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■方向指示器(ウィンカー)

パワーモードがONモードのときに使用できます。



■(A)：方向指示器

右左折のときなどに、進行方向に応じてレバーを下または上に押し込むと方向指示器が点滅します。

■(B)：ワンタッチターンシグナル

レバーを下または上に軽く押してレバーを放すと、方向指示器が3回点滅します。

▶ 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

■方向指示器(ウインカー)

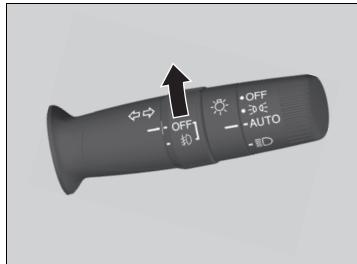
ワンタッチターンシグナルのON/OFF設定を変更することができます。

▣ カスタマイズ機能 P.133

方向指示器が点滅するとメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

▣ 表示灯 P.88

■フォグライト*

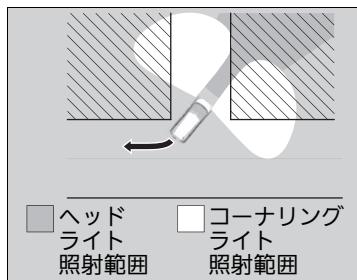
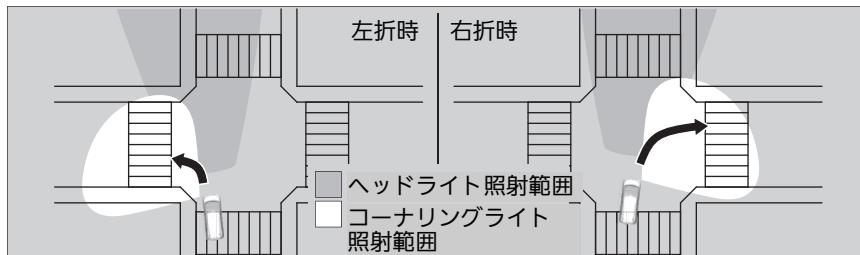
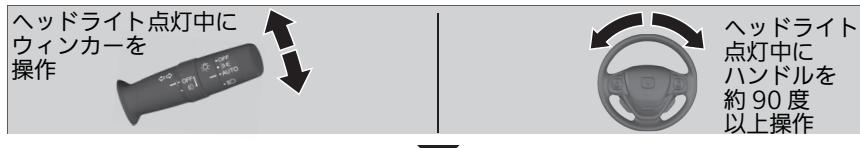


メーター内の~~50W~~インジケーターが点灯しているときに、フォグライトスイッチを回すと点灯します。

アクティブコーナリングライト

パワーモードがONモードで、車速が40km/h以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、シフトポジションを[R]にしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時のコーナーでの視認性向上させることができます。

■方向指示器、ハンドル操作による点灯



■セレクトレバー操作による点灯

ヘッドライトが点灯しているときにシフトポジションを[R]にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

アクティブコーナリングライト

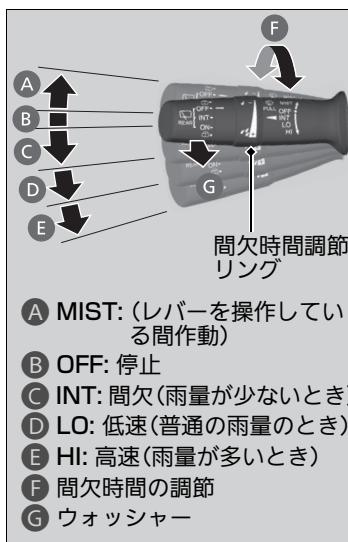
アクティブコーナリングライトを5分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。

消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行なうか、シフトポジションを[R]にすると点灯します。



ワイパー／ウォッシャー

■フロントワイパー／ウォッシャー



パワーモードがONモードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。

霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ(OFF、INT、LO、HI)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ワイパー／ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。

数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。

間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

■リヤワイパー / ウオッシャー



- A OFF : 停止
- B INT : 間欠作動
- C ON : 低速作動
- D : ウオッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)
雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションを **R** にするとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード

- INT(間欠)
- LO(低速)
- HI(高速)

リヤワイパーの作動モード

- 間欠作動
- 連続作動

»ワイパー / ウオッシャー

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパープレードがガラスに張りつくことがあります。

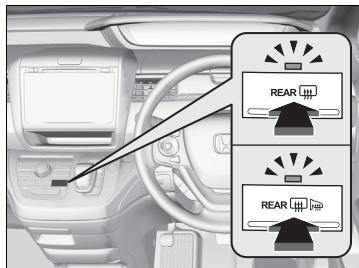
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスター やフロントガラス熱線* でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまるとワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー* スイッチ



パワーモードがONモードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

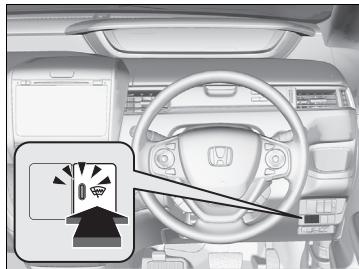
外気温に応じて約10～30分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が0°C以下のときは自動的に停止しません。

■リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー* スイッチ

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたらOFFにしてください。

また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12Vバッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

フロントガラス熱線スイッチ*



パワーモードがONモードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパークリーナーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

スイッチを押すと、フロントガラス熱線がONになります。

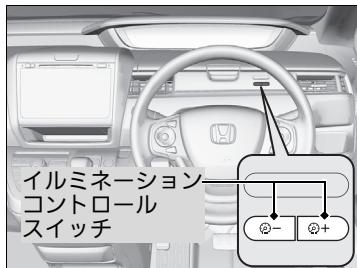
約15分経過後、自動的に停止します。

フロントガラス熱線スイッチ*

この装置は消費電力が大きいので、霜が取れたらOFFにしてください。

また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12Vバッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

イルミネーションコントロール

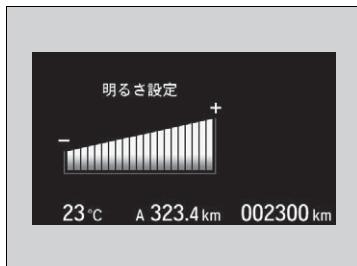


インストルメントパネル照明が減光しているときに、イルミネーションコントロールスイッチでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする : **[+]**スイッチを押す

暗くする : **[−]**スイッチを押す

明るさが最大/最小になると電子音が鳴ります。また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。



■明るさ調節表示

[+]/[−]スイッチを押すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
目盛が右に増えていくほど、メーター照明が明るくなります。

■イルミネーションコントロール

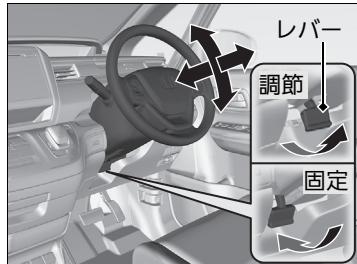
以下の条件が整うと、インストルメントパネル照明が減光します。

- ・パワーモードがONモード
- ・車幅灯が点灯している
- ・周囲が暗い

減光時に目盛がすべて表示されるまで、**[+]**スイッチを押すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。

▶ ハンドルの調節

△ 注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

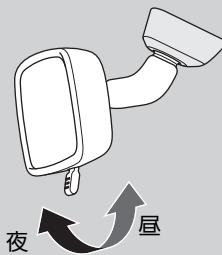
ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

ミラー類の調節

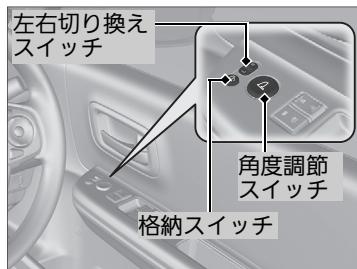
ミラー類の調節は走行前に行ってください。

手動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルやテールゲートのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルを握るか、テールゲートオープニングスイッチを押す。
- パワーモードを ON モードにする。

■オートリトラミラー

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

オートリトラミラーの機能は、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で ON/OFF を切り換えることができます。

⇒ カスタマイズ機能 P.133

フロントシート

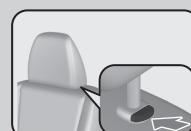
運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かしかた

■ヘッドレストの調節

- ・高くするときは、引き上げる
- ・低くするときは、ノブを押しながら下げる



■高さの調節(運転席)

- レバーを繰り返し引き上げ／下げし、高さを調節



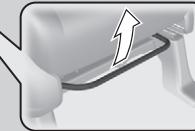
■背もたれの角度調節

- レバーを引き上げながら、調節



■前後位置の調節

- レバーを引き上げながら、前後位置を調節



»シートの動かしかた

△注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあります、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

■ フロントシートの調節



■ シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるよう背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるよう背もたれ角度を調節します。

■ フロントシートの調節

⚠ 警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

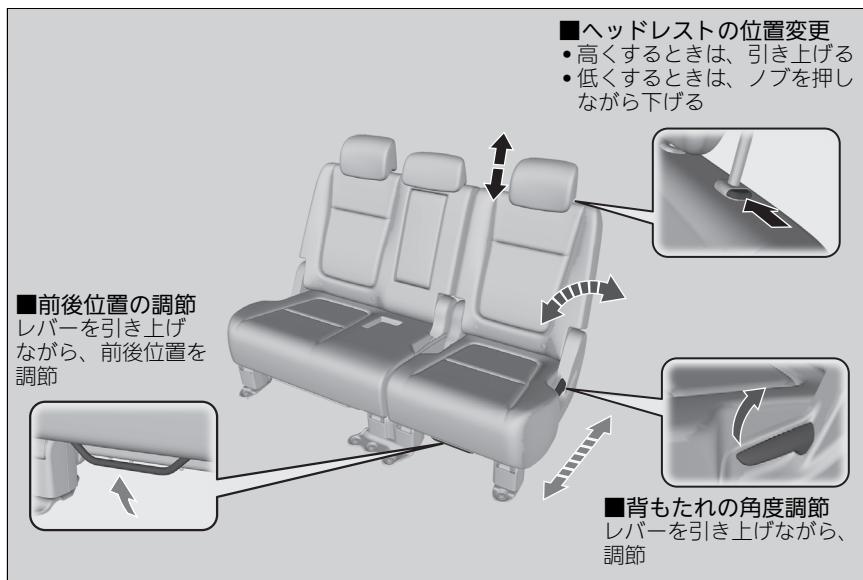
⚠ 注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

セカンドベンチシート*

シートの動かしかた



▷セカンドベンチシート*

⚠ 警告

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

FREED

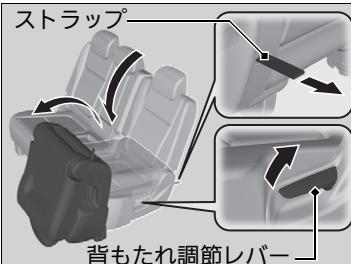
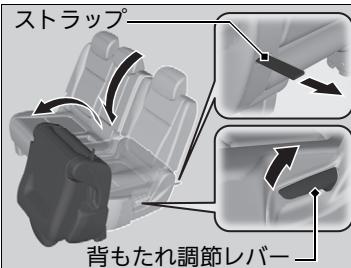
背もたれを前に倒した状態で荷物を載せたり、人を乗せたりしないでください。

背もたれがこわれるおそれがあります。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

FREED

■ シートをはね上げるとき



共通操作

1. ヘッドレストを一番下に下げる。
2. セカンドシートを後方いっぱいに動かす。

ウォークイン機構：

3. 背もたれ調節レバーを引き上げ、背もたれを前に倒してシートをはね上げる。
▶ シート下部のストラップを引いても、操作できます。

走行する前にシートを元に戻し、前後位置を調節してください。

固定するとき：

3. 背もたれ調節レバーを引き上げ、背もたれを前に倒してシートをはね上げる。
▶ シート下部のストラップを引いても、操作できます。

■ シートをはね上げるとき

⚠ 注意

操作するときは十分注意する。

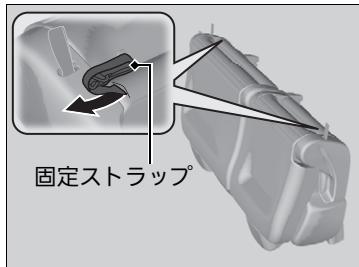
背もたれが急に動いてシートがはね上がり、顔などにけがをしたり、手や足などをさむおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

セカンドシートが後方いっぱいの位置でないと、はね上げた時に保持させることができません。

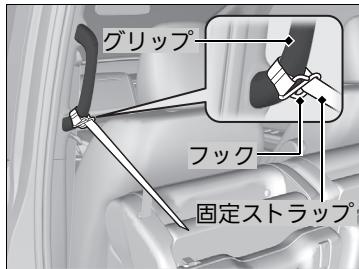
シートをはね上げるときは、あらかじめ中央の三点式シートベルトを分離・収納してください。

⇒ 分離収納式シートベルト* P.37

背もたれが倒れているときは、一旦背もたれを起こしてから操作してください。



4. 座面に収納されている固定ストラップを引き出す。



5. 固定ストラップをグリップに通し、フックをかける。

》シートをはね上げるとき

△注意

セカンドシートをはね上げた状態でサードシートに人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

セカンドシートをはね上げた場合、フロントシートの背もたれの調節角度は制限されます。

シートを操作したら、シートを前後にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしてください。

■シートを元に戻すとき

元に戻すときは逆の手順で行います。

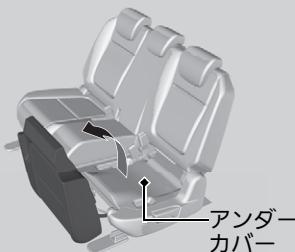
FREED+

■ 背もたれを倒すとき



セカンドシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

1. セカンドシートのヘッドラストを一番下に下げる。
2. セカンドシートを後方いっぱいまで動かす。
3. セカンドシートの座面を前方に持ち上げて、引き起こす。



■ 背もたれを倒すとき

⚠ 注意

操作するときは十分注意する。

シートが急に動いて、顔などにけがをしたり、手や足などをはさむおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

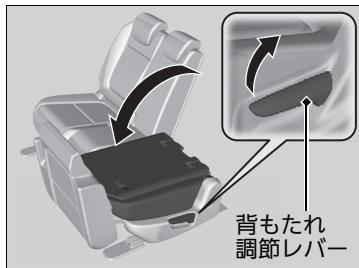
アンダーカバーの上に乗ったり、重いものを置いたりしないでください。

破損や変形のおそれがあります。

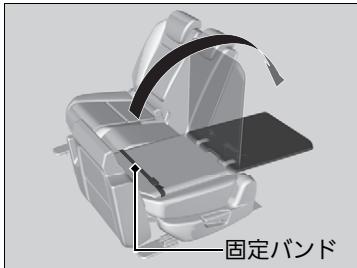
背もたれを倒すときは、あらかじめ中央の三点式シートベルトを分離・収納してください。

➡ 分離収納式シートベルト* P.37

シートを操作したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。



4. 背もたれ調節レバーを引いて、背もたれを手で支えながら前方に倒す。



■エクステンションボード

固定バンドを緩めてエクステンションボードを後方に倒す。

- ▶ 荷室をより広く使用することができます。

■シートを元に戻すとき

元に戻すときは逆の手順で行います。

»背もたれを倒すとき

背もたれを倒した後にシートの前後位置を調節するときは、一度背もたれを起こして、前後位置調節レバーを操作してください。

⇒ シートの動かしかた P.185

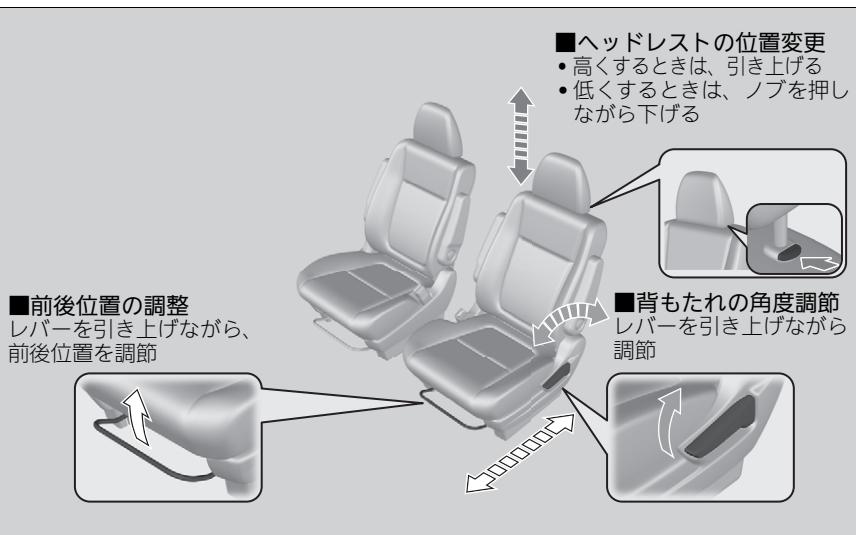
»エクステンションボード

背もたれを戻す際、エクステンションボードは収納してください。

セカンドキャプテンシート*

各部の操作

■シートの動かしかた



■セカンドキャプテンシート*

⚠ 警告

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

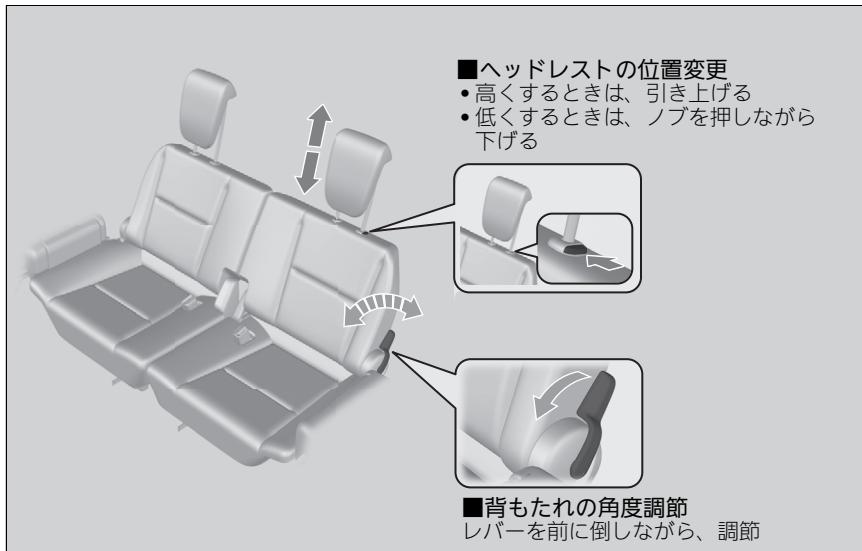
シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

サードシート*

■シートの動かしかた



»サードシート*

△注意

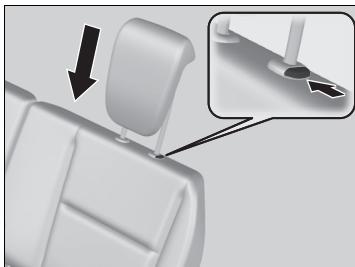
走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

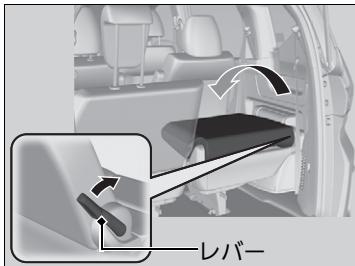
シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

背もたれを前に倒した状態でシートの上に荷物を載せたり、人を乗せたりしないでください。背もたれがこわれるおそれがあります。

■シートをはね上げて固定するとき



1. ヘッドラストを下げる。



2. 背もたれのレバーを前に倒しながら、背もたれを前方に倒す。



3. 下部のストラップを引きながら、シートを窓側に起こす。

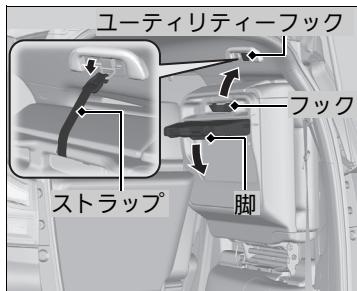
■サードシート*

△ 注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

背もたれを起こすときは、固定されるまで手を添える。
背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。



4. シートのフックを外してグラブレール下のユーティリティーフックに確実にはめ込み、シートを固定し、脚を折りたたむ。

■ サードシート*

バックルやタングプレートを収納してからシートをはね上げてください。

はね上げた状態で、シートやストラップにものをかけたり、ぶらさげたりすると、ユーティリティーフックが破損したり、シートフックが外れるおそれがあります。

シートを操作したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。

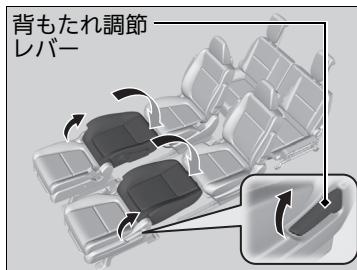
■ シートを元に戻すとき

元に戻すときは逆の手順でおこないます。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

リフレッシュモード

フロントシートの背もたれを倒すと、リヤシートから足を伸ばして座れる状態にできます。



1. フロントシートのヘッドレストを取り外す。
➡ ヘッドレストの取り外しと取り付け P.197
2. レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱいに動かす。
3. 背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。

リフレッシュモード

△ 注意

フロントシートを倒したままの状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。

ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートを倒したままの状態で、シートの上を走り回らない。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動する。

シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。

背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作する。

背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。

アームレストは収納する。

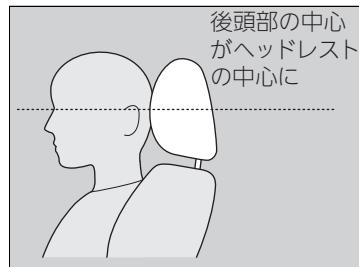
セカンドシートアームレスト装備車

アームレストは収納する。

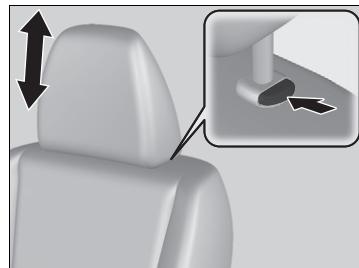
つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。

ヘッドレスト

■フロントシート、セカンドキャプテンシート* ヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来る
ようにヘッドレストの高さを調整します。
高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。



■ヘッドレスト

⚠ 警告

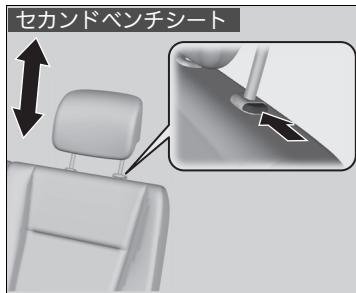
ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

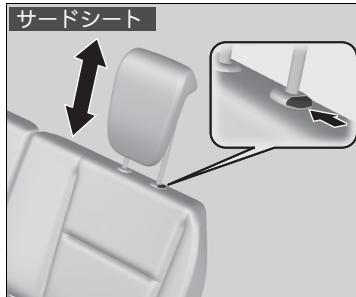
■セカンドベンチシート*、サードシート* ヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき：ノブを押しながら下げます。



■セカンドベンチシート*、サードシート* ヘッドレストの位置変更

⚠ 警告

ヘッドレストを下げる状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれ
があります。



■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

■フロントシートアームレストの操作

前に倒して使います。



»アームレスト

⚠ 警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

■セカンドキャプテンシートアームレストの操作*



前に倒して使います。

FREED セカンドベンチシート装備車

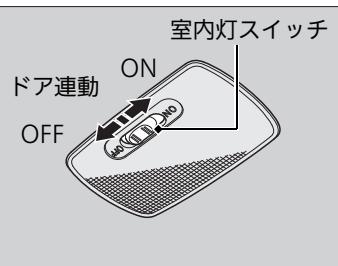
■セカンドベンチシートアームレストの操作



前に倒して使います。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON

ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア運動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドア、テールゲートを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が消灯。

■室内灯

ドア運動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に減光しながら消灯します。

以下の場合も約 30 秒後に消灯します。

- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

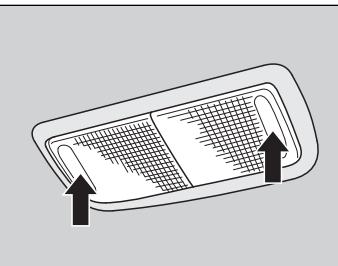
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

12V バッテリーが上がる恐れがあるため、パワーシステムが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

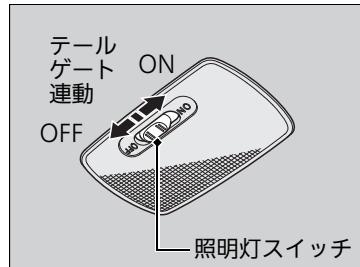
■マップランプ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

■テールゲート照明灯*



■ON

テールゲートの開閉に関係なく点灯。

■テールゲート連動

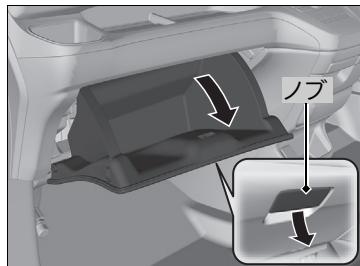
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

■OFF

テールゲートの開閉に関係なく消灯。

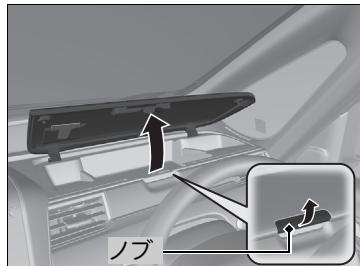
収納装備

■ グローブボックス



ノブを引くと開きます。

■ 運転席アッパーBOX



ノブを引き上げて開きます。

» グローブボックス

⚠ 警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

» 運転席アッパーBOX

⚠ 警告

走行中は必ずアッパーBOXを閉める。
アッパーBOXが開いていると、衝突したときに運転者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ ドリンクホルダー



■ フロントシート用ドリンクホルダー
センターコンソールドリンクホルダーは、引き出して使います。



フロントパネルのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。



ドアのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

■ ドリンクホルダー

△ 注意

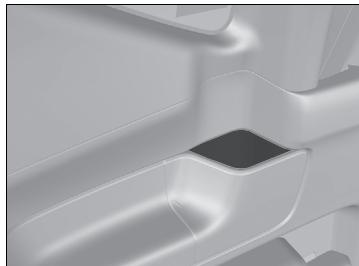
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



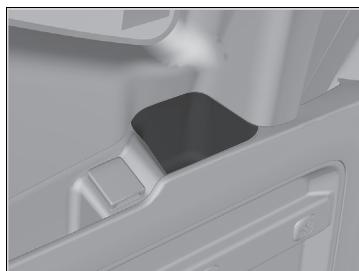
■セカンドシート用ドリンクホルダー

セカンドシートのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。



■サードシート*用ドリンクホルダー

サードシートのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。



■カーゴスペース*

カーゴスペースの運転席側と助手席側にあります。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■コンビニフック



■アームレストコンビニフック

フロントシートのアームレストにあります。
軽い荷物をかけておくのに便利です。

■アームレストコンビニフック

アドバイス

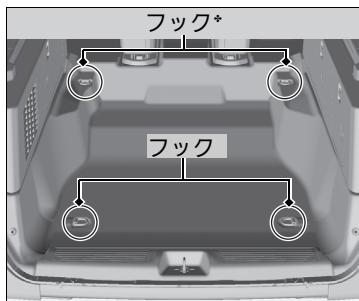
コンビニフックが破損するおそれがあります
ので、重いもの(約 3kg 以上)や大きいものを
かけないでください。

ユーティリティーフック



前に倒して使います。
軽い荷物をかけておくのに便利です。

カーゴフック*



カーゴフックは市販のカーゴネットを使用して、収納したものを固定しておくときに便利です。

ユーティリティーフック

アドバイス

ユーティリティーフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きなものをかけないでください。

カーゴフック*

△ 注意

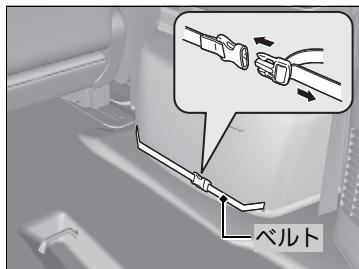
走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

重い荷物はできるだけ前に積んでください。荷物を積むとき、荷重が1か所に集中しないように配置してください。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

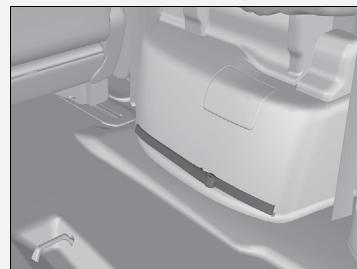
■停止表示板固定ベルト*



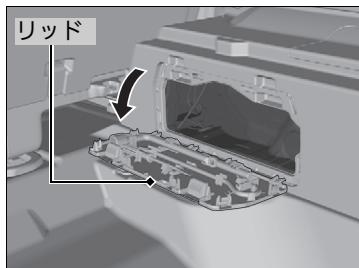
サードシート下の運転席側にあります。

■停止表示板固定ベルト*

固定しないときもベルトは繋いでおいてください。



■停止表示板入れ*



カーゴスペースの運転席側にあります。

■停止表示板入れ*

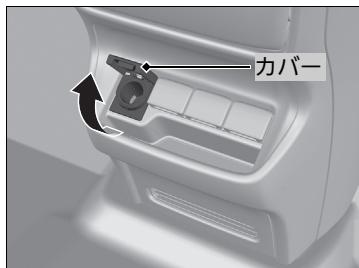
収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ ... 425mm 以下
- 高さ ... 95mm 以下
- 幅 ... 39mm 以下

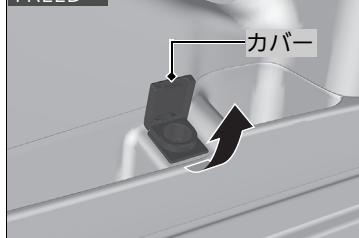
その他の室内装備品

■アクセサリーソケット

パワーモードがアクセサリーモード、またはONモードのときに使用できます。



FREED+



■フロントコンソール

カバーを開けて使います。

■その他の室内装備品

△注意

アクセサリーソケットやUSB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

■アクセサリーソケット

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流12Vの電源を供給します。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

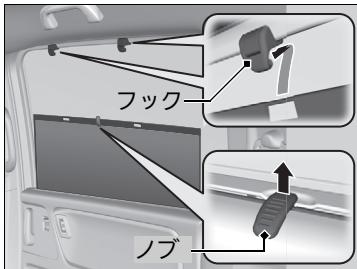
使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■室内確認用ミラー



セカンド、サードシート^{*}を確認するのに便利です。

■スライドドアウィンドウサンシェード^{*}



使用するときはノブを持って引き上げます。
サンシェードをフックにかけます。

■スライドドアウィンドウサンシェード^{*}

⚠ 注意

フックにはサンシェード以外のものをかけたりしない。

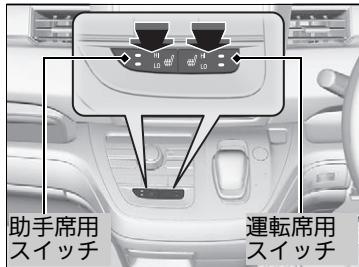
サイドカーテンエアバッグ^{*}が正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

また、走行中は窓を閉めてください。風にあおられてサンシェードがフックから外れるおそれがあります。

サンシェードを戻すときは、ノブを持ってゆっくり収納してください。

サンシェードは上方向以外に引っ張らないでください。

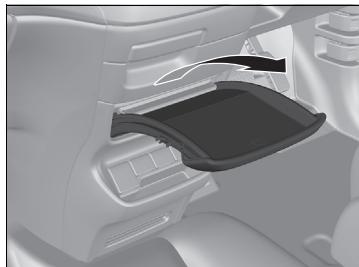
■シートヒーター*



パワーモードがONモードのとき使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

- スイッチを押すたびに設定が切り換わります。
 1回 -HI(高温) : HI側のインジケーターが点灯
 2回 -LO(低温) : LO側のインジケーターが点灯
 3回 -OFF : インジケーターが消灯

■センターーテーブル



引き出して使います。

»シートヒーター*

△注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- ・乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- ・皮膚の弱いかた
- ・疲労の激しいかた

また、毛布など保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムを起動した状態で使用してください。

12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

»センターーテーブル

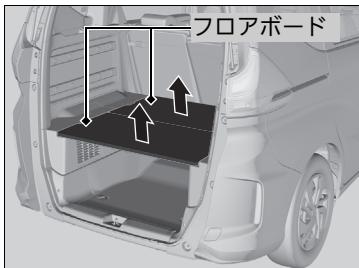
テーブル上に物を置いたまま、テーブルを格納しないでください。

アドバイス

センターテーブルが破損するおそれがありますので、重いもの(約3kg以上)や大きいものを置かないでください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ フロアボード*



フロアボードを外してカーゴスペースを広くできます。

- ▶ 外したフロアボードを車内に置く場合は、カーゴスペースの床面に置いてください。
- ▶ フロアボードは表面、裏面どちらでも使用できます。

■ フロアボード*

△ 注意

走行中は荷物の出し入れはしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアボードの上、およびカーゴスペースには人を乗せて走行しない。

ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

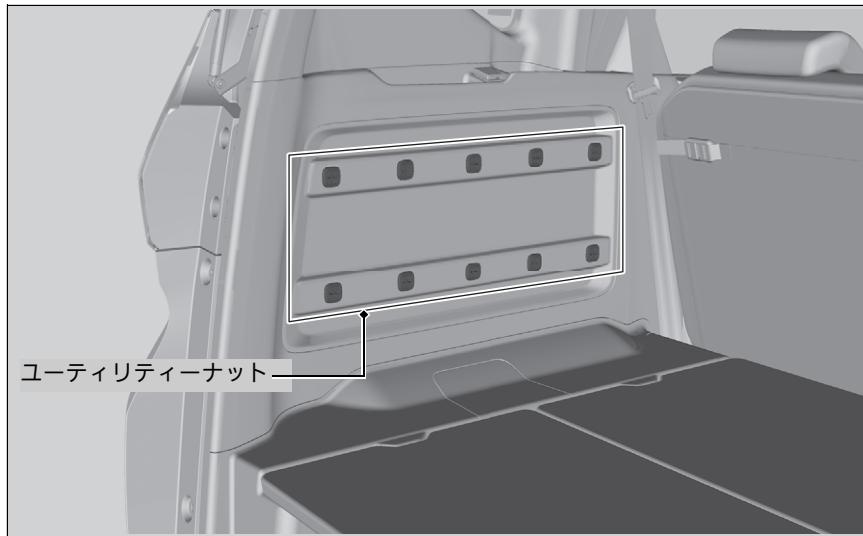
■ユーティリティーナット*

ユーティリティーナットは、市販のフックなどを取り付けて使用します。

■ユーティリティーナットの位置

カーゴスペースの両側にユーティリティーナットを装備しています。

ユーティリティーナットを使用するときは、使用する箇所のクリップを取り外して使用します。



*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

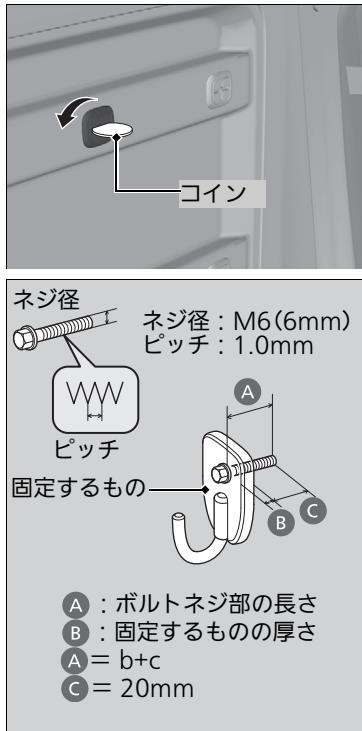
次ページに続く

»ユーティリティーナット*

⚠ 注意

後席に乗車するときは後席周辺のユーティリティーナットに市販のフックなどを取り付けない。

シートベルトが正しく着用できなかたり、衝突時や旋回時などにものがぶつかるなど、けがをするおそれがあります。



■市販品の取り付けかた

ユーティリティーナットや車体の損傷を防ぐため、取り付けボルトは左記のものをお使いください。

締め付けトルク : 9.8 N・m(1.0 kgf・m)

■市販品の取り付けかた

アドバイス

規定以外のボルトを使用するとユーティリティーナットやボディが破損します。

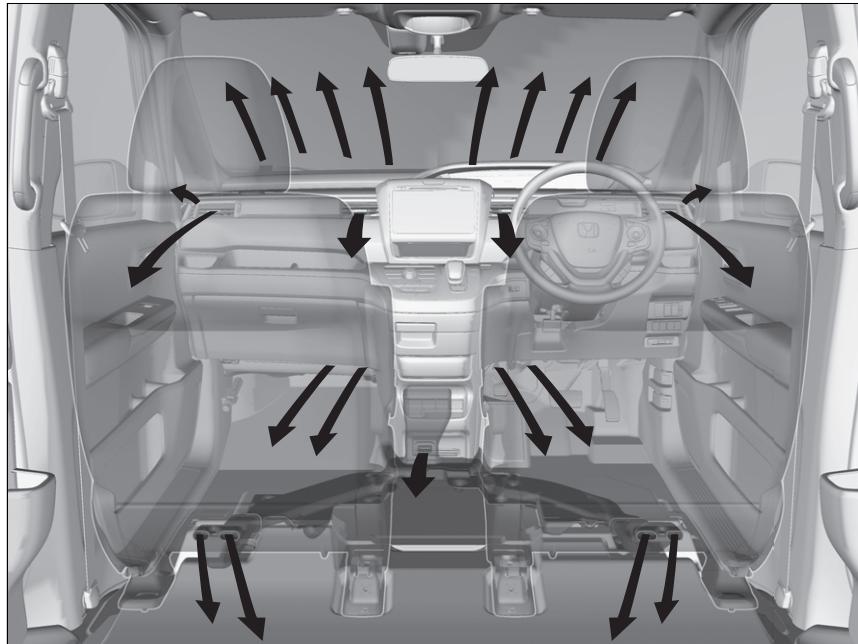
市販品を取り付けるときは、使用する部品のサイズ、仕様と安全性を確認のうえ使用します。

取り付け内容によっては、車検証等の記載事項の変更または、構造変更検査が必要な場合もあります。

お取り付けに関してご不明な点は Honda 販売店にご相談ください。

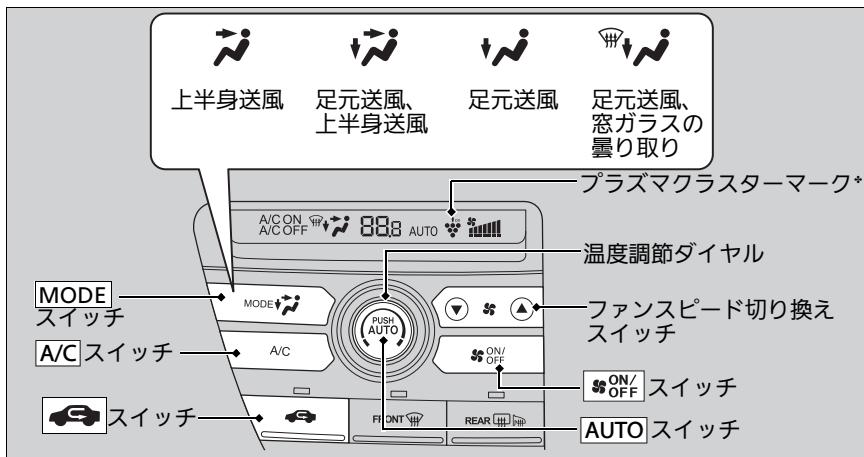
ユーティリティーナットが破損するおそれがありますので、ナットひとつにつき約 3kg 以上の荷重をかけないでください。

エアコンの吹き出し口



» エアコン

音声操作の詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。



パワーシステムを起動してから使用します。

1. **AUTO**を押す。
2. 温度調節ダイヤルで温度を調節する。
3. 停止するときは、**ON/OFF**を押す。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて**CAR**を押して、内気 / 外気を切り替えます。

- 内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に**A/C**を押すと、除湿暖房となります。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき AUTO の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO**を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

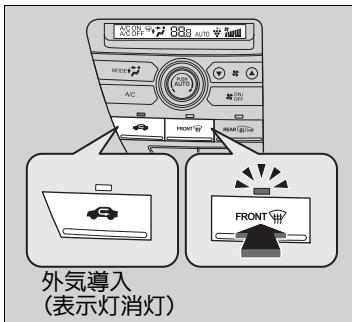
炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

ON/OFFを押すたび ON や OFF に切りわります。ONするとOFFする前の状態に戻ります。

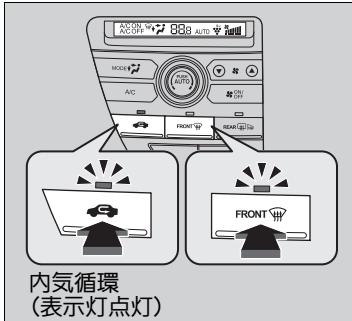
高電圧バッテリーの充電量が低下すると、エアコンの効きが弱くなることがあります。

■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



FRONT WASHを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONT WASHをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■急速に霜を取りたいとき

1. **FRONT WASH**を押す。
2. **車**を押す。

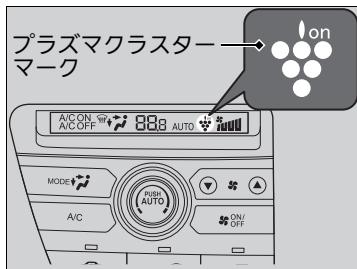
■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■ プラズマクラスター*

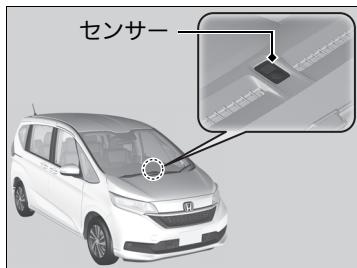


エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

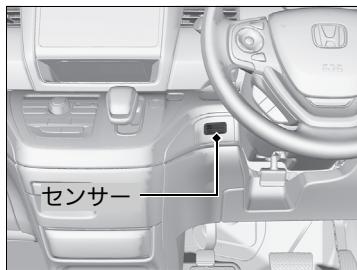
■ プラズマクラスター*

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ



オーディオ装置* 219

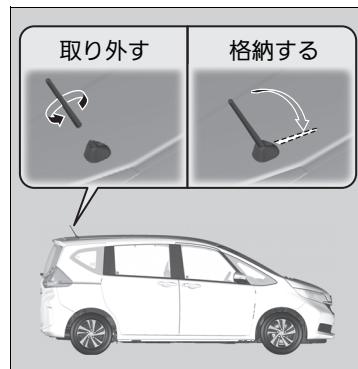
アンテナ 219

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご確認ください。

アンテナ

マイクロアンテナ



マイクロアンテナは格納、取り外しができます。

ラジオを受信するときは、アンテナを節度感のあるところまで立ててください。

マイクロアンテナ

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に.....	221
運転操作	
パワーシステムの起動.....	223
走行時の注意点.....	226
デュアルクラッチトランスミッションについて.....	228
シフト操作.....	229
ECONスイッチ.....	233
車両接近通報装置.....	234
信号情報活用運転支援システム.....	235
VSA(ビーカルスタビリティアシスト).....	239
リアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム)*.....	240
高電圧バッテリーの特性.....	241

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ホンダセンシング	242
各機能を作動させるためのスイッチと表示.....	243
衝突軽減ブレーキ(CMBS)	245
誤発進抑制機能	252
後方誤発進抑制機能	254
歩行者事故低減ステアリング	256
ACC(アダプティブクルーズコントロール)	261
LKAS(車線維持支援システム)	274
路外逸脱抑制機能	285
先行車発進お知らせ機能	292
標識認識機能	296
フロントセンサーレーダー	302

レーダーセンサー	304
ソナーセンサー	305
ブレーキ操作	
ブレーキシステム	306
ABS(アンチロックブレーキシステム)	308
電子制御ブレーキアシスト	309
エマージェンシーストップシグナル	310
駐停車操作	
駐車する	311
リアカメラシステム*	313
給油	
指定燃料について	314
給油のしかた	314

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか?
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか?
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か?
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
⇒ タイヤの点検と整備 P.337
- 車の周囲に子供はいないか?
車の周りに障害物はないか?
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか?
- フロアマットが固定されているか?
- フロアマットを重ねていないか?
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

»車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

»車内の確認項目

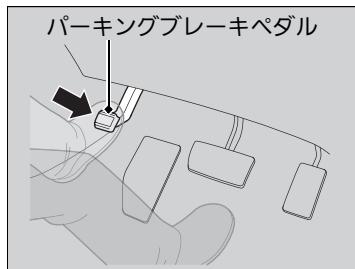
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

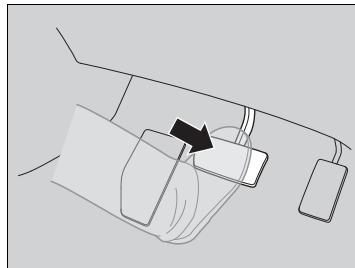
車に合ったフロアマットをお使いください。

- フロントシートの足元にものを置いていないか?
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか?
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか?
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか?
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
 - ⇒ **シートの調節** P.183
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか?
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
 - ⇒ **ミラー類の調節** P.180
 - ⇒ **ハンドルの調節** P.179
- すべての乗員がシートベルトを締めているか?
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
 - ⇒ **シートベルトの着用** P.34
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか?
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されることを確認します。
 - ⇒ **車内での施錠 / 解錠** P.150
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか?
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
 - ⇒ **警告灯** P.77

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。

¶パワーシステムの起動



12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。

12Vバッテリーが破裂するおそれがあります。



パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

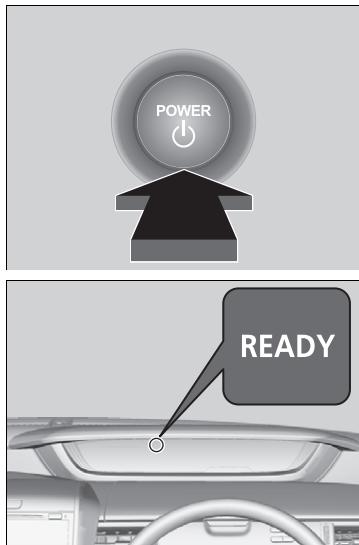
寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーをOFFにしてから行います。

寒いときのパワーシステムの起動は、12Vバッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべてOFFにしてから行ってください。

車を盗難から守るために、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。

▣ イモビライザーシステム P.163



3. ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、**POWER**を押す。

4. READY表示灯の点灯を確認する。
- ▶ READY表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
 - ▶ パワーシステムが起動すると、READY表示灯が点灯し運転することができます。
 - ▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。
⇒ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.92**

■パワーシステムの起動

パワーシステムが起動しない場合は、30秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda販売店で点検を受けてください。

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがあります、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

Hondaスマートキーの電池が切れたときは、キーで**POWER**に触れてください。

⇒ Hondaスマートキーの電池が切れたとき
P.377

POWERは、エンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

走行可能な状態でも、エンジンが始動しないことがあります。

READY表示灯が点灯していれば走行可能です。READY表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで**POWER**を押すとパワーモードがOFFになり、走行できなくなります。

⇒ **READY**表示灯 P.90

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. シフトポジションを**P**にする。
2. **POWER**を押す。

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを[D]にする。
▶ 後退する場合は[R]にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ パーキングブレーキ P.306

»発進時の操作

△注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

ハイブリッド車は走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあります。そのため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。

READY表示灯が点灯しているかどうかを確認し、発進操作をしてください。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

»ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■ 霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■ 風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかりと握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

■ 走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションをNにしないでください。

エンジンブレーキや回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。

下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

»雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことといいます。

»その他の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどしてEPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過

デュアルクラッチトランスミッションについて

■ クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションが[P] [N]以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■ キックダウン

シフトポジションが[D] [L]で走行中にアクセルペダルを素早く踏み込むと低速ギヤにシフトダウンし、力強い加速を得ることができます。

■ クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■ キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。

アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

デュアルクラッチトランスミッションは極低温時では作動できません。極低温下での駐車後は、エンジンを始動し、メーターにREADY表示灯が点灯するまで暖機を行ってください。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



■パーキングスイッチ



パワーモードがONモードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが**P**になり、スイッチのインジケーターが点灯します。

■シフト操作

Rのポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが**R**の位置になっていることを知らせます。

車を後退させるときは、トランスミッション保護のため、車速が制限があります。

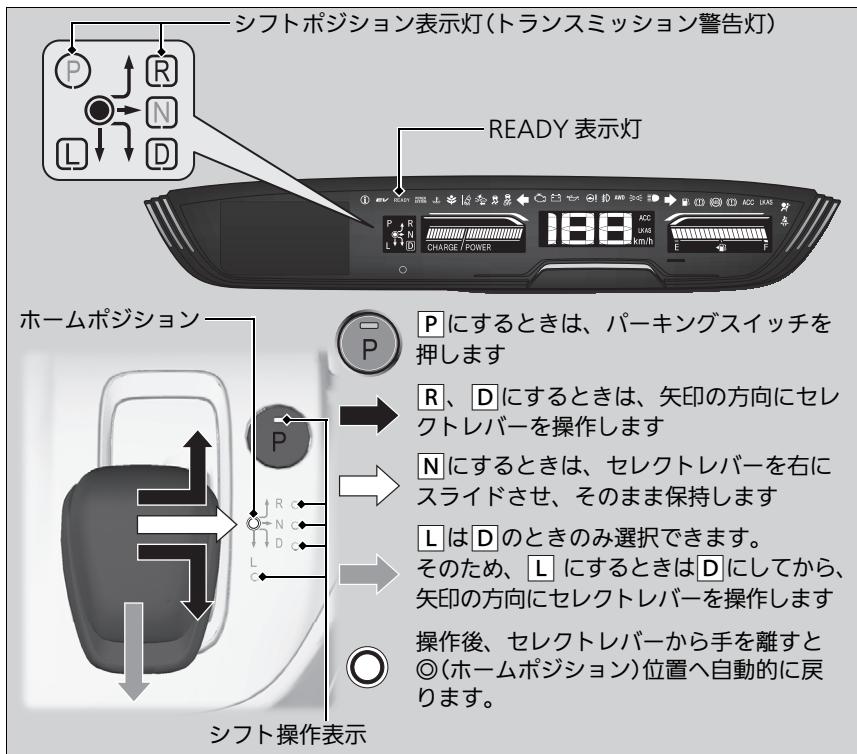
Nのポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.92

ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを**D**または**R**にしてください。

■セレクトレバーの操作

セレクトレバーの右にあるシフト操作表示は、メーター部にあるシフトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示します。



■セレクトレバーの操作

⚠ 警告

セレクトレバーにものをぶら下げたりしない。
レバーがホームポジションに戻らなくなるため、車が突然発進するなどの思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもシフトポジションの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示された場合は、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、シフトポジションの表示の切り換わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

■ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2 km/h 以下のときには、[P]以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で[P]になります。

▶ その後シフト操作を行い、他のシフトポジションを選択しても、ブレーキペダルを離すと再度自動で[P]になります。

■パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが[P]以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動で[P]になります。

» ドア Open 自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを[P]にし、適切な方法により行ってください。

駐停車操作 P.311

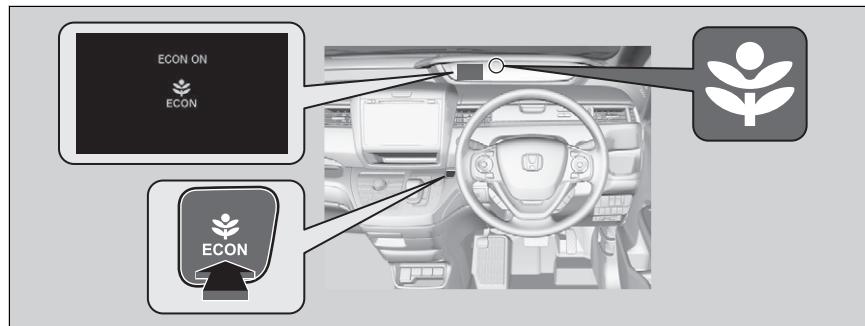
この制御により[P]になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフト ポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・ セレクトレバーの操作	3. 操作後のシフト ポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない アクセルペダルを踏んでいる	他のシフトポジションを選択する	P	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない 低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる		N	停車する
N D L	前進している	Rを選択する		Dを選択してからLを選択する
R N	後退している	Dを選択する		
R N D L	走行中	Pを選択する		
R	—	Lを選択する		
—	—			
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N以外を選択する	操作時のシフトポジションのまま	READY 表示灯の点灯を確認する

ECON スイッチ



パワーモードがONモードのときにECONスイッチを押して、ECONモードのONとOFFを切り換えてください。

▶ ECONモードがONの時は、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、モーター、エアコンの作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。

▶ ECONスイッチ

ECONモードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

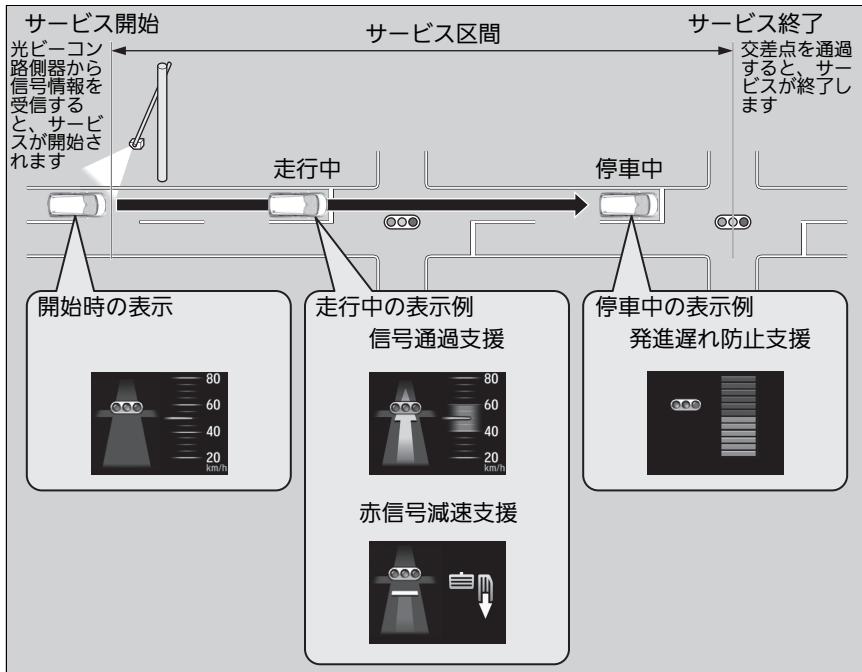
車両接近通報装置

約 20km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

信号情報活用運転支援システム

信号情報活用運転支援システムは走行時に受信した複数の交差点の信号予定情報を基に、信号通過支援、赤信号減速支援、発進遅れ防止支援をマルチインフォメーションディスプレイ内に表示し、運転者にお知らせする機能です。



信号情報活用運転支援システム



信号情報活用運転支援システムは補助機能として使用する。

信号情報活用運転支援システムは、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者に情報提供するための機能です。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

別売のVICS光ピーコンユニット装着時のみ表示されます。詳しくはHonda販売店にご相談ください。

サービス区間を走行することにより、車側からも光ピーコン路側器へ送信される情報があります。その情報は各都道府県の交通管制センターにて管理されますが、個人や車を特定できるものではありません。その情報は渋滞状況の把握や信号制御の改善等に使われます。

マルチインフォメーションディスプレイを使って信号情報活用運転支援 / 走行情報送信機能の ON/OFF 設定、割込表示や音のありなしの設定ができます。

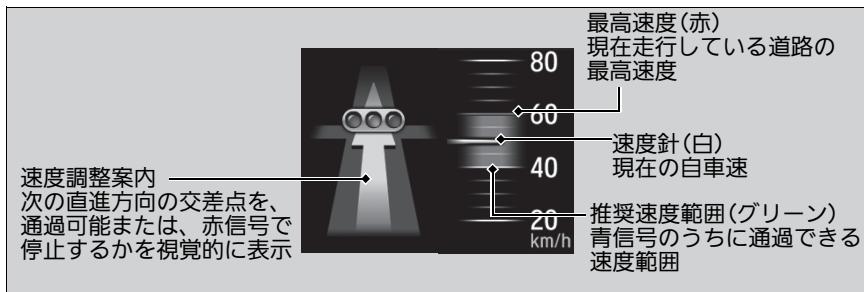
■ カスタマイズ機能 P.133

発進遅れ防止支援時にはポンという音が鳴ります。

サービス区間では、受信した最高速度情報を標識認識機能で使用します。

■システムの作動

表示名称と機能は以下のとおりです。



■システムの作動

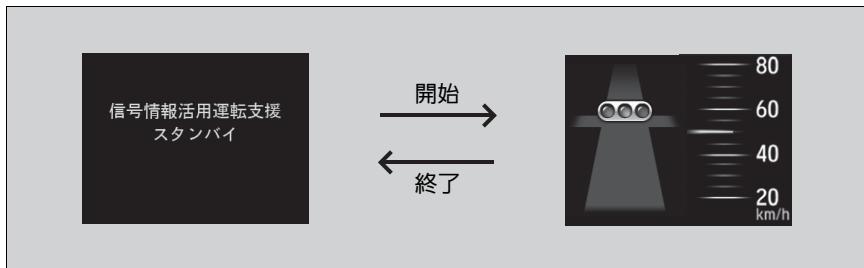
運転中に以下の表示が出た場合、システムの異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。



■サービス開始と終了

光ビーコンの下を通過し、信号制御情報を受信したときにサービスを開始します。



サービスを終了すると、スタンバイ状態になります。

カスタマイズ機能で“割り込み表示有り”にしておくと、自動で支援画面が表示されます。サービスが終了すると元の表示画面に戻ります。

サービス途中で右左折した場合スタンバイ状態になります。

自車の前方が渋滞時は作動タイミングが合わないことがあります。

マルチインフォメーションディスプレイの表示

各支援表示に合わせ周囲の状況を確認しながら適切に走行することで省燃費運転を手助けします。

・信号通過支援表示 / 赤信号減速支援表示(走行中)



① 普段通り運転してください



② 青信号で通過可



③ 今の速度では赤信号で停止します
速度調整をする



④ 赤信号で停止します



⑤ 目前の信号で停止します
アクセルペダルから足を離す



⑥ 2つ目の信号で停止します
アクセルペダルから足を離す

・発進遅れ防止支援表示(赤信号で停止中)



⑦ 赤信号の残時間を表示



⑧ まもなく青信号に変わります

マルチインフォメーションディスプレイの表示

通過支援表示が交差点直前では①の表示になります。

配信される信号情報には有効時間があります。

▶渋滞などで有効時間を過ぎると①の表示になります。

⑤⑥ 表示は走行中の道路環境(勾配など)によっては遅く感じたりすることがあります。

前方の信号が感応式信号機などの場合は発進遅れ防止支援や通過支援に対し、表示(推奨速度範囲も含む)が遅れたり早くなることがあります。

右折や左折の矢印表示がある信号機で右折待ちや左折待ちの場合、支援表示はあくまでも自車が直進する想定で表示します。

■信号情報活用運転支援システムの条件と制限

以下の条件によりサービスが制限されます。

- ・(通信機器の整備状況により)全ての路線でサービスされるわけではありません
- ・サービス路線であってもサービスされない区間があります
- ・同じ交差点を通っても支援が出る場合と出ない場合があります
- ・サービス区間であっても工事や管制センターメンテナンス等でサービスしていない時間帯があります
- ・押しボタン式交差点等、サービス対象外の交差点があります

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.308

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

■ 電子制御ブレーキアシスト P.309

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSAが正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

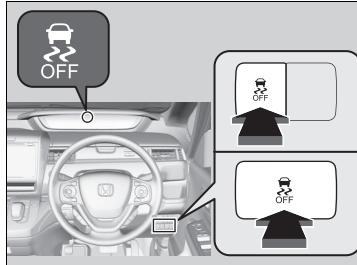
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、で VSA を OFF になると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON してください。

VSA を OFF にしたまでの走行は、お勧めしません。

VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

■ VSA(ピークルスタビリティアシスト)

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがあります、異常ではありません。

リアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム)*

AWD(オールホイールドライビング)システムは、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

■ リアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム)*

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、AWDが正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

AWDの状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上昇すると、システム保護のため AWD から 2WD に切り換わることがあります。

しばらくして油温が下がると、AWDに復帰します。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しづつ放電します。

バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3 か月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。

長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。

バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

フロントロアグリルの奥に設置されたレーダーセンサーと、フロントウィンドー内上部に設置されたフロントセンサーカメラと、リヤバンパーに設置されたソナーセンサーの、特性の異なる3種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- ・衝突軽減ブレーキ(CMBS) ▶ P.245
- ・誤発進抑制機能 ▶ P.252
- ・後方誤発進抑制機能 ▶ P.254
- ・歩行者事故低減ステアリング ▶ P.256
- ・路外逸脱抑制機能 ▶ P.285
- ・先行車発進お知らせ機能 ▶ P.292
- ・標識認識機能 ▶ P.296

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- ・ACC(アダプティブラーズコントロール) ▶ P.261
- ・LKAS(車線維持支援システム) ▶ P.274

■ホンダセンシング

⚠ 警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。

自動運転システムではありません。

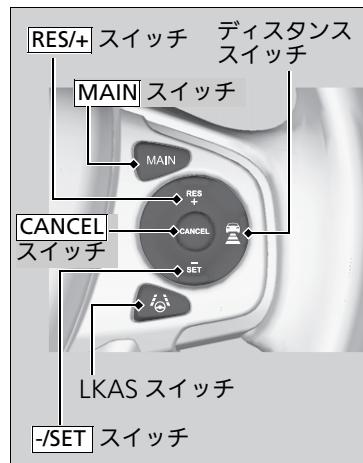
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



■MAIN スイッチ

ACC、LKAS の待機状態の設定を行います。

■LKAS スイッチ

LKAS の ON と OFF の設定を行います。

■RES/+ スイッチ / -/SET スイッチ

ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。

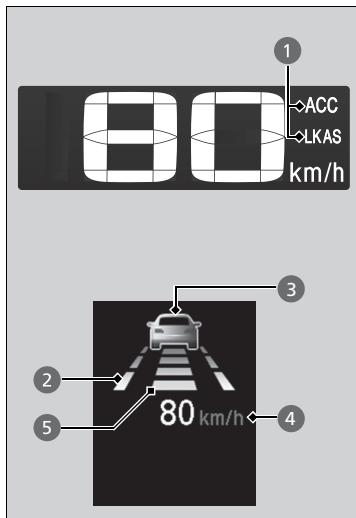
■ディスタンススイッチ

車間距離の設定を行います。

■CANCEL スイッチ

ACC の解除を行います。

■メーターの表示



ACC、LKAS の現在の状態を表示します。

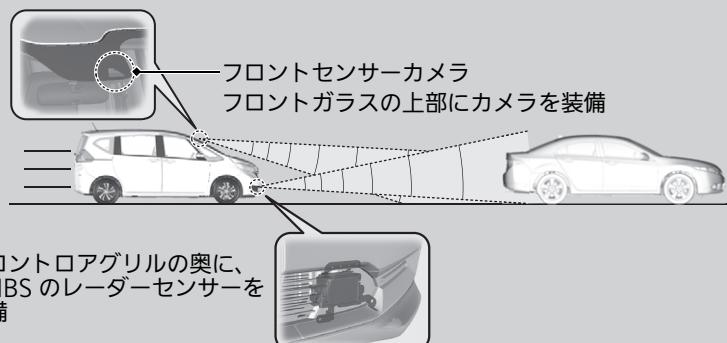
- ① ACC、LKAS の待機状態
- ② LKAS の ON と OFF の状態と制御状態
- ③ 前走車の検知状態
- ④ 設定車速
- ⑤ 設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

さらに、約 30 ~ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が検知する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

▶▶ 衝突軽減ブレーキ(CMBS)

⚠️ 警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ レーダーセンサー P.304

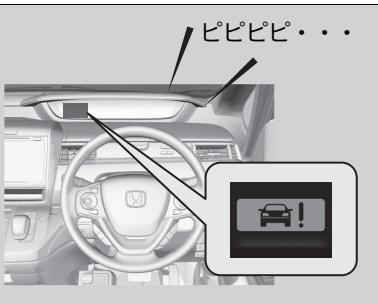
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ フロントセンサーカメラ P.302

■ CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

- ・マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーに加え、ステアリング振動による警告が発生します



CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。

⇒ カスタマイズ機能 P.133

遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

■ ステアリング振動による警告について

対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

■ 衝突軽減ブレーキ(CMBS)

EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。

⇒ 警告灯 P.77

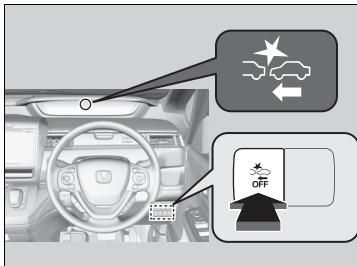
■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離	状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	ブレーキ
第1段階 	車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が2回点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ⇒ カスタマイズ機能 P.133	対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動が発生	—
第2段階 	衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	—	軽いブレーキ
第3段階 	回避が困難な状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	—	強いブレーキ

※：CMBSによるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り替えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります

■ 衝突軽減ブレーキ(CMBS)

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- ・山岳路や悪路を長時間走行したとき
- ・雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- ・パーキングブレーキをかけて走行したとき
- ・カメラの温度が高温になっているとき
- ・フロントロアグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- ・タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところ
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・逆光のとき
- ・強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- ・前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- ・カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- ・路面に水溜りや水膜があるとき
- ・雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- ・狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- ・フロントロアグリルが汚れているとき
- ・フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- ・カーゴスペースやセカンドシート、サードシート^{*}に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・適正なタイヤを使用していないとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

■衝突軽減ブレーキ(CMBS)

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

^{*}：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- ・ 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- ・ 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- ・ 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- ・ 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- ・ 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- ・ 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- ・ 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者が集団で前方にいるとき
- ・ 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■その他、作動できない事例

- ・ 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- ・ 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- ・ 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- ・ 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- ・ 前方の車両が急減速したとき
- ・ 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- ・ 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- ・ 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

■衝突軽減ブレーキ(CMBS)

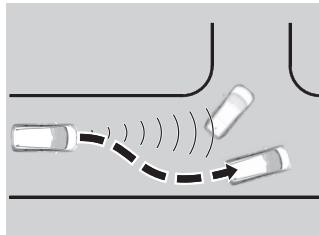
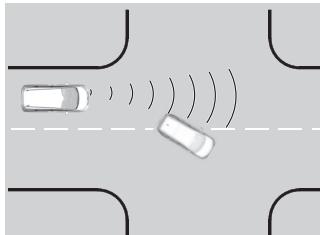
サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

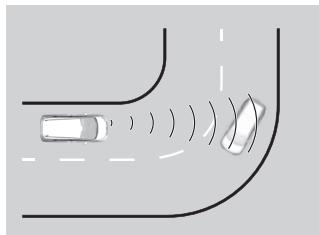
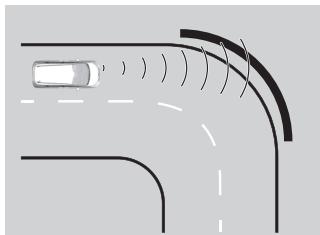
■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

- ・左折、または右折している前方車両
がいるとき、または右左折待ちの車
両がいるとき
- ・前走車を追い越すときに車両に接近
して走行する場合
- ・交差点などで車両に接近して走行す
る場合



- ・低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しよ
うとするとき
- ・段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- ・カーブ途中の道路脇に標識やガード
レールなどがあるとき
- ・カーブ走行などで自車の正面に対向
車がいるとき



- ・駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

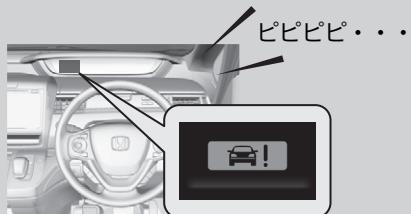
誤発進抑制機能

フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

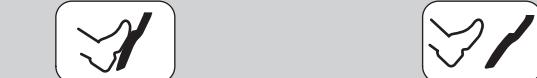
なお、急な坂道やシフトポジションが、**P**、**R**、**N**のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)がなり、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な発進を防止
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。



アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。



誤発進抑制機能

⚠ 警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心掛け走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ レーダーセンサー P.304

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ フロントセンサーカメラ P.302

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約4秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

▷誤発進抑制機能

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

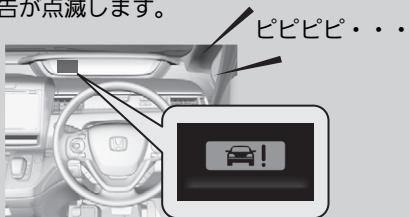
踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することができます。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

後方誤発進抑制機能

リヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、停車時や約10km/h以下で後退しているとき、自車のほぼ真後ろの近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な後退を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。なお、急な坂道やシフトポジションが[R]以外のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な後退を防止
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。



アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

後方誤発進抑制機能

⚠ 警告

後方誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

後方誤発進抑制機能は停止状態を保つことができるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

後方誤発進抑制機能はCMBSをOFFにしているときは作動しません。またCMBSに異常があるときも同様に作動しません。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することができます。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBSをOFFにして遮断機を押しのけてください。

後方誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合にはCMBSをOFFにしてください。

作動中は後退を知らせるチャイム音は鳴りません。

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約4秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBSをOFFにしたとき

次のような場合、ソナーセンサーが障害物を検知できず、後方誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシート^{*}に重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりソナーセンサーが正しく検知できない事例

- 悪天候のとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 近くに超音波を発するものがあるとき

■後方の障害物の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例

- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 障害物がバンパーのすぐ近くにあるとき
- 進路上に障害物が飛び出してきた場合など移動する物体のとき

▷後方誤発進抑制機能

ソナーセンサーの取扱いについては下記を参照してください。

⇒ ソナーセンサー P.305

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

^{*}：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。車両と歩行者の位置関係によってはCMBSの作動が優先される場合があります。

■歩行者事故低減ステアリング

⚠ 警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ レーダーセンサー P.304

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ フロントセンサーカメラ P.302

■システムの作動条件

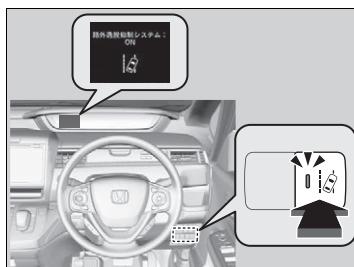
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- ・歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- ・実線の白線(黄線)が連続しているとき
- ・車速が約 10 ~ 40km/h で走行しているとき
- ・直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ・ワイパーを連続で作動させているとき
- ・方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り換えてください。

- ▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

▷システムの作動条件

運転者による操作が行われているときには支援を感じられないことがあります。

▷システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

▣ カスタマイズ機能 P.133

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。

運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサー やカメラが正しく検知できない事例

- ・白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ・夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- ・強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- ・トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- ・雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- ・白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- ・夜間やトンネル内などの暗いところ
- ・前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事

例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狹い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- ・フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- ・フロントガラス内側が曇っているとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- ・カーゴスペースや、セカンドシート、サードシート^{*}に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- ・フロントロアグリルが汚れているとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき
- ・先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- ・自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- ・歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- ・歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- ・歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- ・歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- ・急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- ・歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- ・自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ACC(アダプティブクルーズコントロール)

ACCは、フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。ACCによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

▶ACC(アダプティブクルーズコントロール)



ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

■使用できるシフトポジション

Dのとき

フロントガラス上部にカメラを装備



フロントロアグリルの奥に、レーダーセンサーを装備

ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、ACCは作動しません。

悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

⚠ 警告

ACCは、補助システムとして使用してください。ACCは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

☞ レーダーセンサー P.304

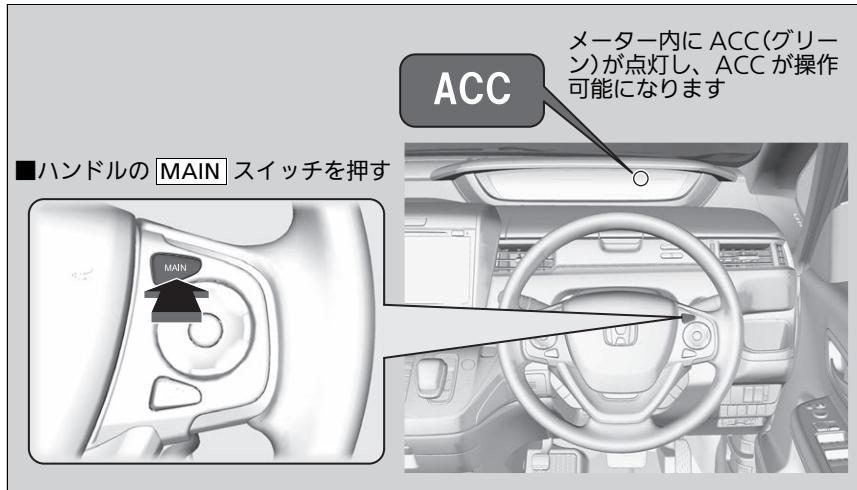
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

☞ フロントセンサーハウジング P.302

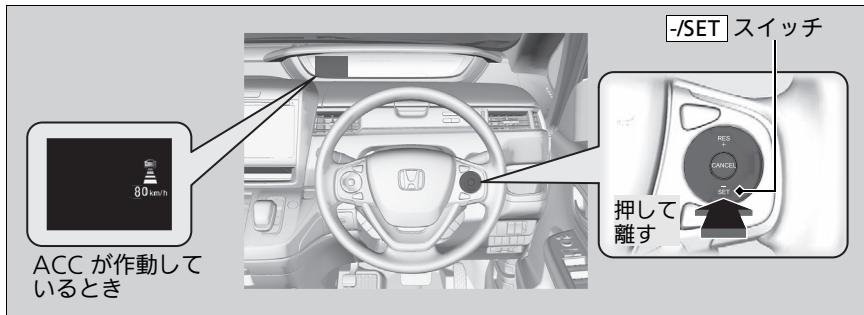
使用上の注意：

ACCは、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

■システムを作動させるには



■車速をセットするには



車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに **-/SET** スイッチを押して離すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。



■車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、ACC とLKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ ACC の作動

■先行車がいるとき

ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。

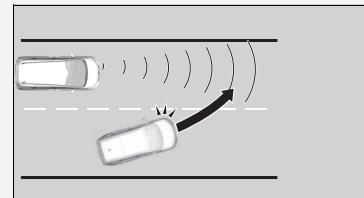


マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが表示されます

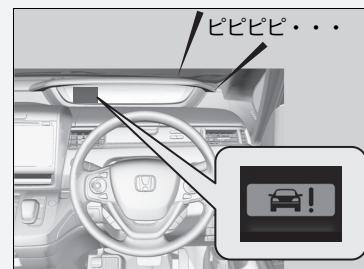
設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

▶ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することができます。

マルチインフォメーションディスプレイを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。
➡ カスタマイズ機能 P.133

■先行車がないとき



100 km/h

マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が点線で表示されます。

先行車がない場合、設定した車速で定速走行します。

先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

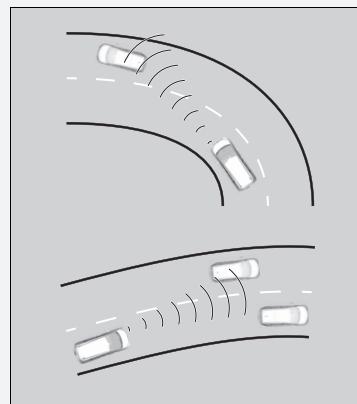
■ACC の作動

制限：

安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などによりACC が適切に作動しないことがあります。

- ⇒ ACC の条件と制限 P.267
- ⇒ 車間距離を設定するには P.271

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、ACC 警告灯が点灯する場合があります。
以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

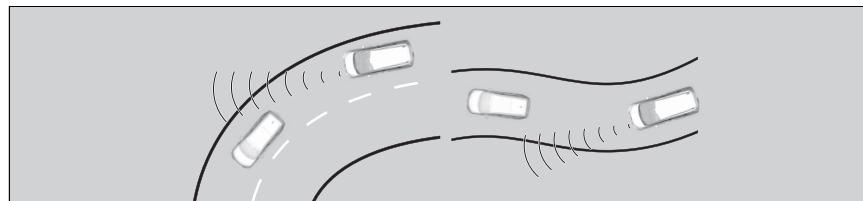
⇒ フロントセンサーハウジング P.302

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

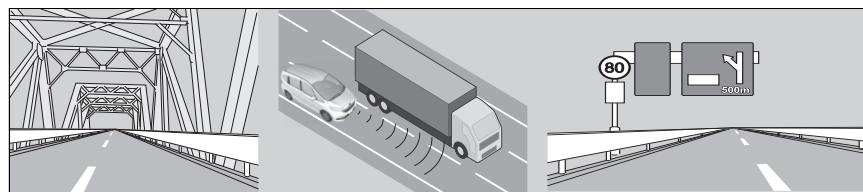
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- ・カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- ・雪道や未舗装路などわだちのある道路
- ・狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき



次ページに続く

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

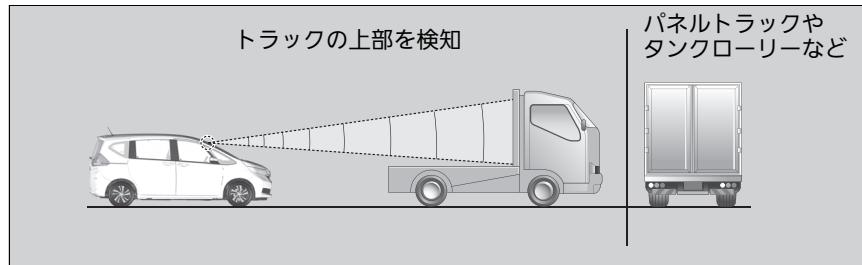
- ・フロントロアグリルが汚れているとき
- ・適正なタイヤを使用していないとき
- ・カーゴスペースやセカンドシート、サードシート^{*}に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

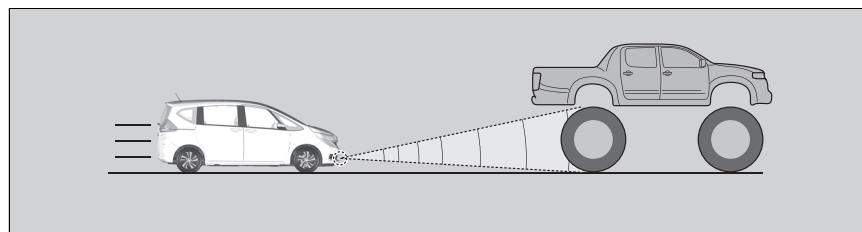
- ・自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- ・前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- ・前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- ・前方の車両が急減速したとき
- ・前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき

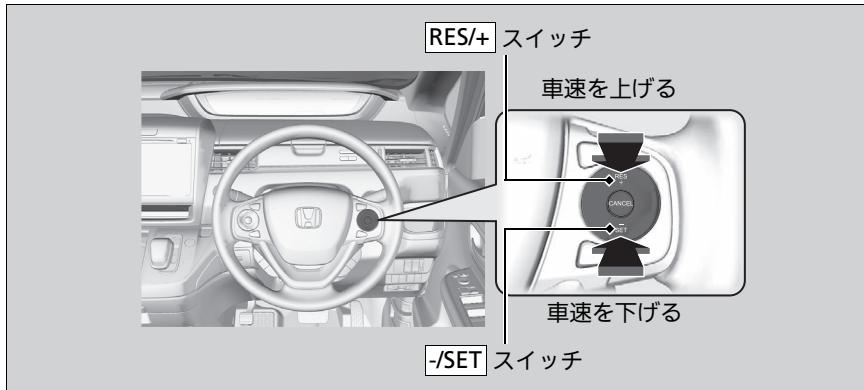


- ・自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- ・前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- ・前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



■設定車速を調整するには

手元の **[RES/+]** スイッチと **[-/SET]** スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



[RES/+] スイッチ

- 1回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

[-/SET] スイッチ

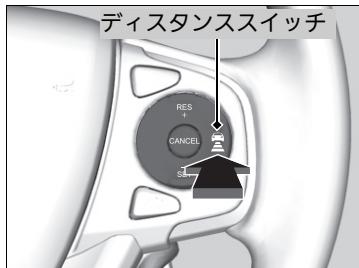
- 1回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

■設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。

これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。

先行車との車間距離設定は、4段階に切り換えることができます。

ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。

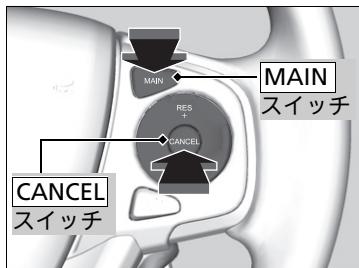
適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定	車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき	
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

解除するには



以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。

- **CANCEL** スイッチを押す
- **MAIN** スイッチを押す
 - ▶ メーター内のACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

ACC を解除したあとでも、**[RES/+]** スイッチを押すと解除前の設定で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- **MAIN** スイッチを押してACCをOFFした後
- 車速が 30km/h 未満のとき

設定速度の設定や復帰は、**MAIN** スイッチがオフの状態ではできません。

■ACC の自動解除

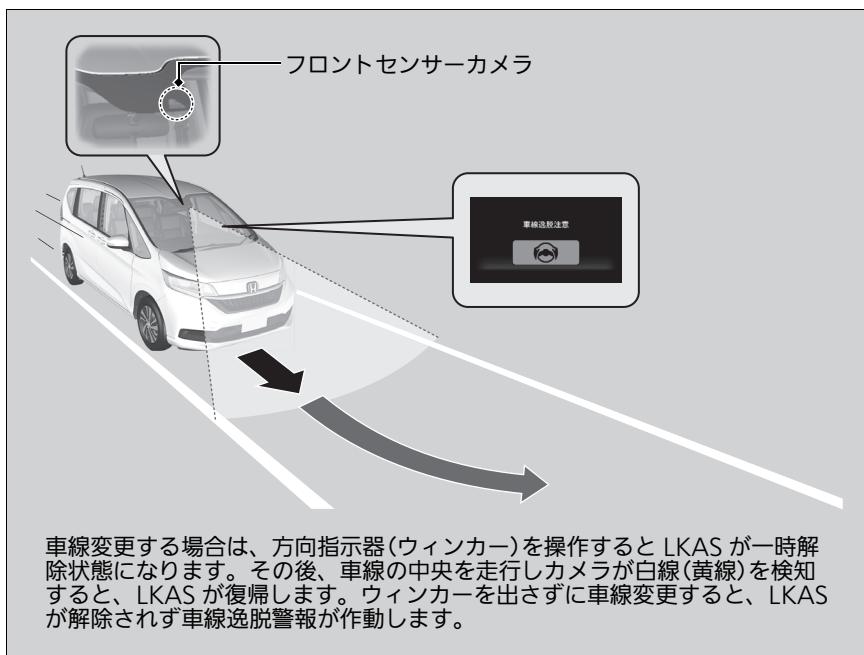
次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- フロントロアグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎたとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



▶LKAS(車線維持支援システム)

⚠️ 警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時の警告します。

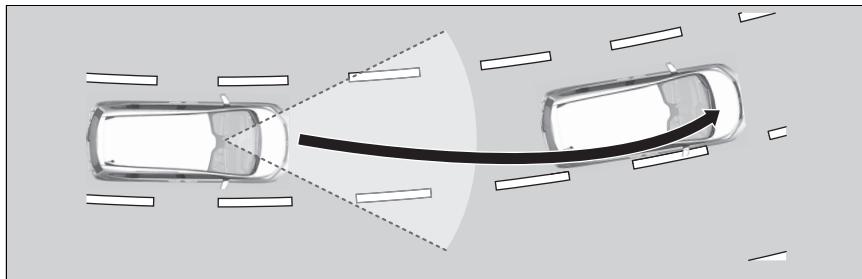
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。

運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

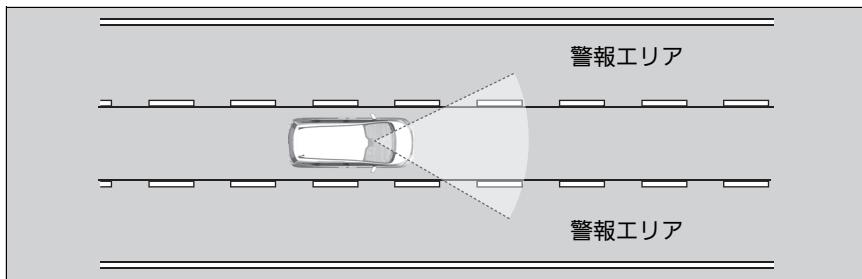
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



▶LKAS(車線維持支援システム)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▣ フロントセンサーレンズ P.302

LKASは条件により正常に作動しない場合があります。

▣ LKAS の条件と制限 P.281

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- ・ 車速が約 65 ~ 120km/h で走行しているとき
- ・ 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- ・ 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ・ ワイパーを連続で作動させていないとき
- ・ ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ・ 方向指示器(ウィンカー)を出していないとき

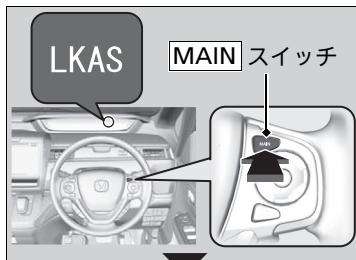
■ LKAS を作動させるには

システムが作動しているときに、左右の白線(黄線)に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

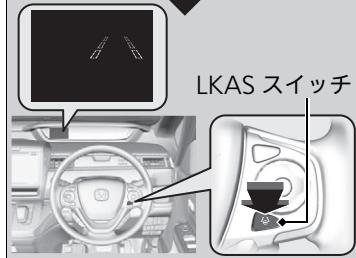
白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

▣ LKAS の条件と制限 P.281

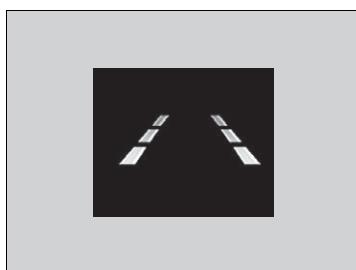
■システムの作動方法



1. **MAIN** スイッチを押す。
▶ LKAS システムが ON になり、メーター内に LKAS 表示灯(グリーン)が点灯します。



2. LKAS スイッチを押す。
▶ LKAS システムが待機状態になります。
マルチインフォメーションディスプレイに車線表示(点線)が点灯します。



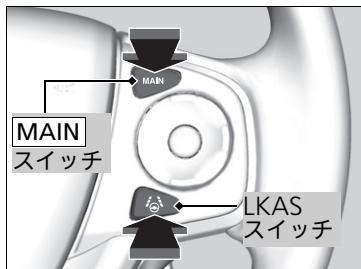
3. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、LKAS が制御を開始します。

▶LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

- **MAIN** スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、パワーモードを OFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

■解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に ACC も解除されます。



■LKASの一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKASが自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
 - ▶ ワイパースイッチをHIで連続作動しているときは、LKASは自動解除します。ワイパーをOFFになると、LKASは復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
 - ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むとLKASが解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知するとLKASが自動で復帰します。
- 車速が60km/h以下になったとき
 - ▶ 車速が60km/h以下になると、LKASは自動解除します。車速が65km/h以上になると、LKASは復帰します。

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

- ・白線(黄線)を検知できないとき
- ・急なハンドル操作をしたとき
- ・ハンドル操作をしていないとき
- ・急なカーブを走行したとき
- ・制限速度を超えた速度で走行したとき
- ・路外逸脱抑制機能が作動したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS の一時解除

マルチインフォメーションディスプレイを使って自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

⇒ カスタマイズ機能 P.133

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- ・カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- ・カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ・ABS、VSA が作動しているとき

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- ・白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ・夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- ・強い光が道路に反射しているとき
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- ・白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- ・道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき

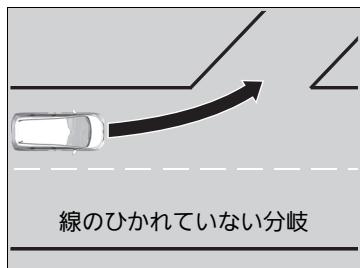


- ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- ・車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- ・車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- ・坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
- ・路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- ・道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ・車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ・雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- ・未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

- 分岐・合流路などを走行するとき



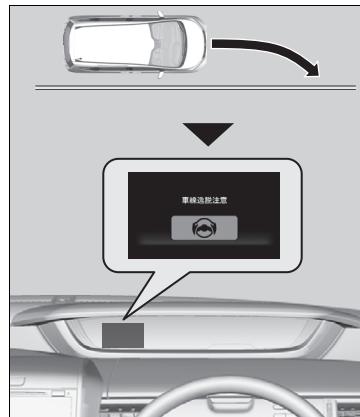
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- ・フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- ・フロントガラス内側が曇っているとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・カーゴスペースやセカンドシート、サードシート^{*}に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・先行車との車間距離が短いとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄線を検知し、方向指示器(ワインカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。

ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

▶▶ 路外逸脱抑制機能

⚠️ 警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ワインカー)を使用しない車線逸脱を検知したときに警告します。

車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ フロントセンサーハウジング P.302

運転

ハンドル操作アシスト
一時停止しました



繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し路外逸脱抑制機能を一時停止します。

ハンドル操作アシスト
復帰しました



一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに路外逸脱抑制機能は復帰します。

■路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

■路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.289

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS(車線維持支援システム)を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能 P.133

ハンドル操作アシスト中



■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- ・車速が約 60 ~ 120km/h で走行しているとき
- ・直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ・方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ・ワイヤーが連続で作動していないとき
- ・システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

»システムの作動条件

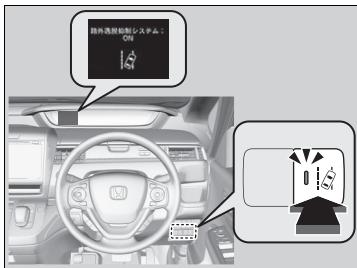
路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

⇒ 警告灯 P.77

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- ・車線内を走行していないとき
- ・カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- ・車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えてください。

- ▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。

▣ カスタマイズ機能 P.133

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ・夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- ・強い光が道路に反射しているとき
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- ・白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

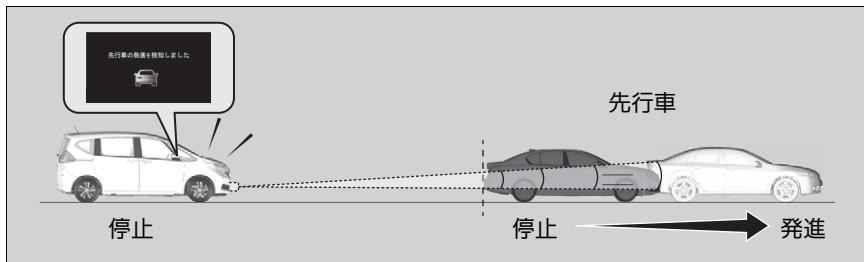
- ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- ・道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- ・車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- ・車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- ・坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
- ・路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- ・道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ・車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ・分岐・合流路などを走行するとき
- ・雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- ・未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- ・フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- ・フロントガラス内側が曇っているとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・カメラ温度が高温のとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・カーゴスペースやセカンドシート、サードシート^{*}に重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき
- ・先行車との車間距離が短いとき
- ・サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



運転

■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションが[D]の場合

ブレーキペダルを踏んでいる。

■先行車発進お知らせ機能

⚠ 警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

☞ レーダーセンサー P.304

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

☞ フロントセンサーカメラ P.302

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

■シフトポジションが[N]の場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

▣ カスタマイズ機能 P.133

標準は先行車が停止状態から約3m以上進んだときに作動します。

早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

▣先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。

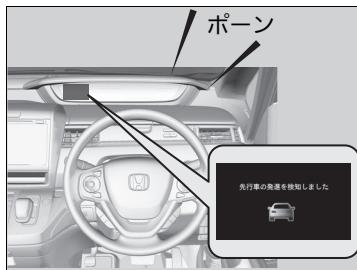
▣ カスタマイズ機能 P.133

ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

▣ ACC(アダプティブクルーズコントロール)

P.261

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ローン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

運転

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していないなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- ・カーゴスペースやセカンドシート、サードシート^{*}に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・フロントロアグリルが汚れているとき
- ・自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- ・カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- ・狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- ・先行車の停車している時間が短いとき
- ・先行車との距離が極端に短いとき
- ・先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- ・先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- ・歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- ・自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- ・先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

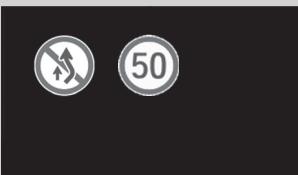
標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

表示される道路標識は以下の4つです。

- ・最高速度
- ・はみ出し通行禁止
- ・一時停止
- ・車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



▶▶ 標識認識機能

⚠ 警告

標識認識機能は補助機能として使用する。

標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

⇒ フロントセンサーカメラ P.302

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

信号情報活用運転支援システムサービス区间では、信号情報活用運転支援システムの最高速度情報が優先されます。

⇒ 信号情報活用運転支援システム P.235

標識認識機能は以下の条件で作動します。

- ・最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- ・一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

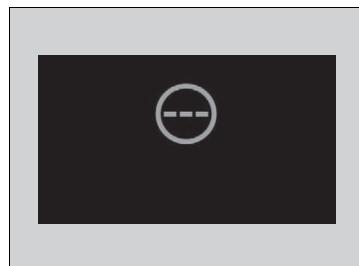
以下のときは、道路標識情報が別ものに切り換わります。

- ・表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- ・一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- ・最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百～千数百 m)を走行したとき
- ・一時停止は、標識を通過したとき
- ・車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- ・交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

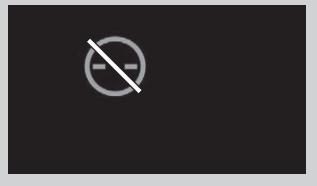
- ・ ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- ・ フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- ・ フロントガラス内側が曇っているとき
- ・ ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・ サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・ カーゴスペースやセカンドシート、サードシート^{*}に重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- ・ 強い光が道路に反射しているとき
- ・ トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・ 夜間やトンネル内などの暗いところ
- ・ 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・ 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに図が表示されます。図のメッセージが消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。



■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- ・ 自車から遠く離れた位置にある標識
- ・ 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- ・ 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- ・ 色あせた標識や折れ曲がった標識
- ・ 向きが変えられた標識や破損した標識
- ・ 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- ・ 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- ・ 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- ・ 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- ・ 小さいサイズの標識

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。

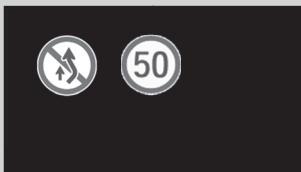
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかされた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例



常駐表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

マルチインフォメーションディスプレイの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。

約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

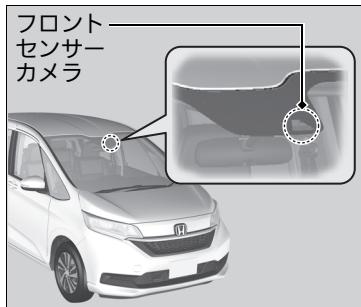
マルチインフォメーションディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。

➡ カスタマイズ機能 P.133

常駐表示モードの道路標識表示

常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。

フロントセンサーハウジング



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

■ フロントセンサーハウジング

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。

フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

■ 車内の清掃 P.347

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。

物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

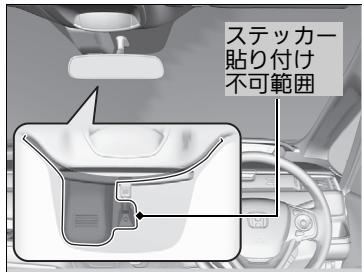
カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。

次の場合はHonda 販売店にご相談ください。

- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。

必要に応じてデフロスターを使用してください。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

» フロントセンサーハウジング

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

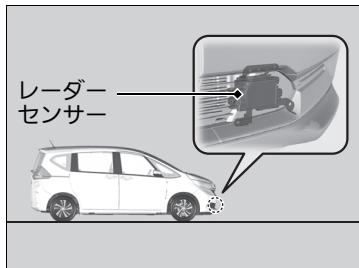
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサー周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません フロントウインドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントロアグリルの奥に設置されています。

■ レーダーセンサー

フロントロアグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントロアグリルは常にきれいにしておく
- フロントロアグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントロアグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントロアグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントロアグリル周辺の修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントロアグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

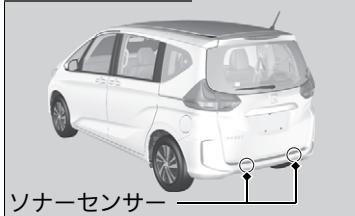
パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ソナーセンサー

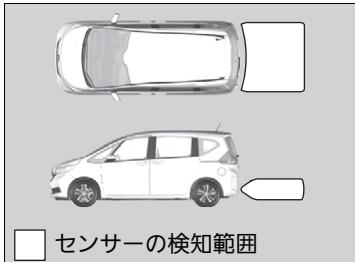
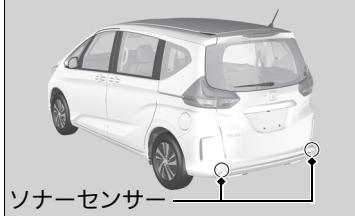
■センサーの取り付け位置と検知範囲

FREED

FREED+ AWD 車



FREED+ 2WD 車



ソナーセンサーはリヤバンパーに設置されています。

»ソナーセンサー

ソナーセンサーの取り扱いについて

- ・センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- ・センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- ・分解は行わない
- ・センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ・ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ・ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

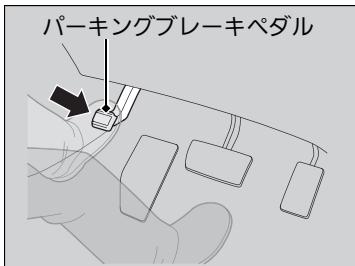
以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- ・リヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- ・車両後方が衝突、接触したとき
- ・深い水たまりに進入したとき

ブレーキシステム

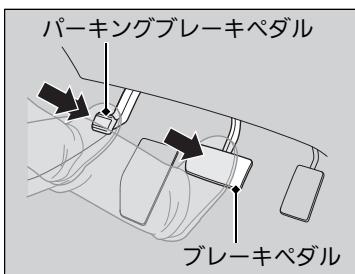
■パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっぽいに踏み込む。



■パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

■ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音などが聞こえることがあります、異常ではありません。

■パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除して下さい」と表示が出ます。

完全に解除すると、ブザーは止まります。停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

▣ 電子制御ブレーキアシスト P.309

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

▣ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.308

■ フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSの正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。なお、低速(車速約10km/h以下)ではABSは作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードをONモードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABSが正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABSが作動していない可能性があります。

ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABSは、制動距離を短くするためのものではありません。

ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABSの装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- ・砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- ・舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- ・タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがあります。異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

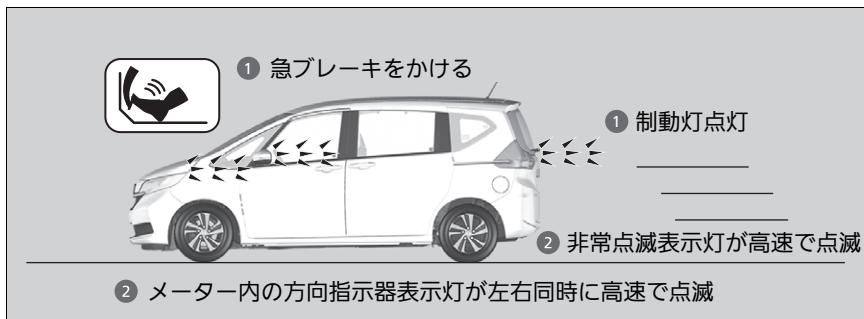
■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

■エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要的急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

- ブレーキペダルをしっかりと踏む。
- ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
- シフトポジションを[P]にする。
- パワーシステムを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

» 駐停車操作

△ 注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、シフトポジションが[P] [N]以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

シフトポジションを[N]にすると同時にPOWERスイッチを押さないでください。
[N]ポジションの状態になることがあります。
シフトポジションは[P]にしてください。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら、もしくはクリープ現象で車を停車せたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

▣ クリープ現象 P.228

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。

無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

▶駐車する

⚠ 注意

駐車時はパワーシステムをオフにする。

万一、シフトポジションが[P] [N]以外の場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。

輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアカメラシステム*

リアカメラの取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン

レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)

■タンク容量

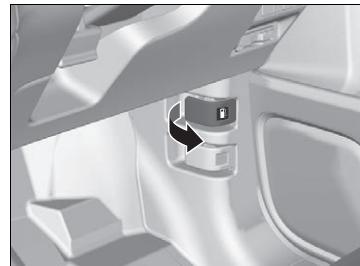
2WD 車

36 リットル

AWD 車

53 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

■指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはできません。

■給油のしかた

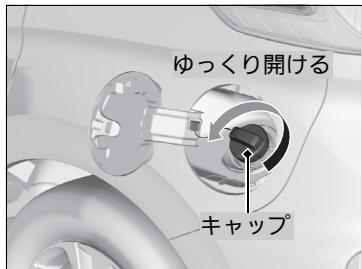
⚠ 警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- パワーシステムは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、 フューエルキャップを開ける。

▶給油のしかた

⚠️ 警告

燃料補給作業は、 フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、 やけどを負うおそれがあります。

⚠️ 注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、 火災になるおそれがあります。

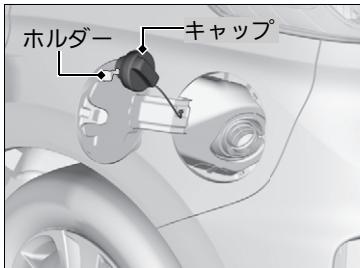
「シュー」という音がする場合は、 その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、 静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、 再び帯電することがあります。再度、 静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差しこみ、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

■ 給油のしかた

⚠ 注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に

点検整備について 318

メンテナンスを安全に行うために 319

メンテナンスに関する注意事項 320

エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内の

メンテナンス項目 321

ボンネットを開ける 322

推奨エンジンオイル 323

ウィンドウォッシャー液の補給 324

電球の交換 325

ワイパー・ブレード・ラバーの点検と整備 333

タイヤの点検と整備

タイヤの点検 337

タイヤとホイールの交換 341

タイヤのローテーション 342

冬期のタイヤ 343

Honda スマートキー

Honda スマートキーの取り扱いと

電池交換 344

エアコンのお手入れ

エアクリーンフィルター 345

清掃

車内の清掃 347

車外の清掃 349

アクセサリーと改造 353

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

■点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客様自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- ・火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- ・エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
 - ▶火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
 - ▶エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- ・エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
 - ▶エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- ・熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- ・可動部品によるけがに注意する。
 - ▶指示されたとき以外は、パワーモードをOFFモードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

»メンテナンスを安全に行うために



適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

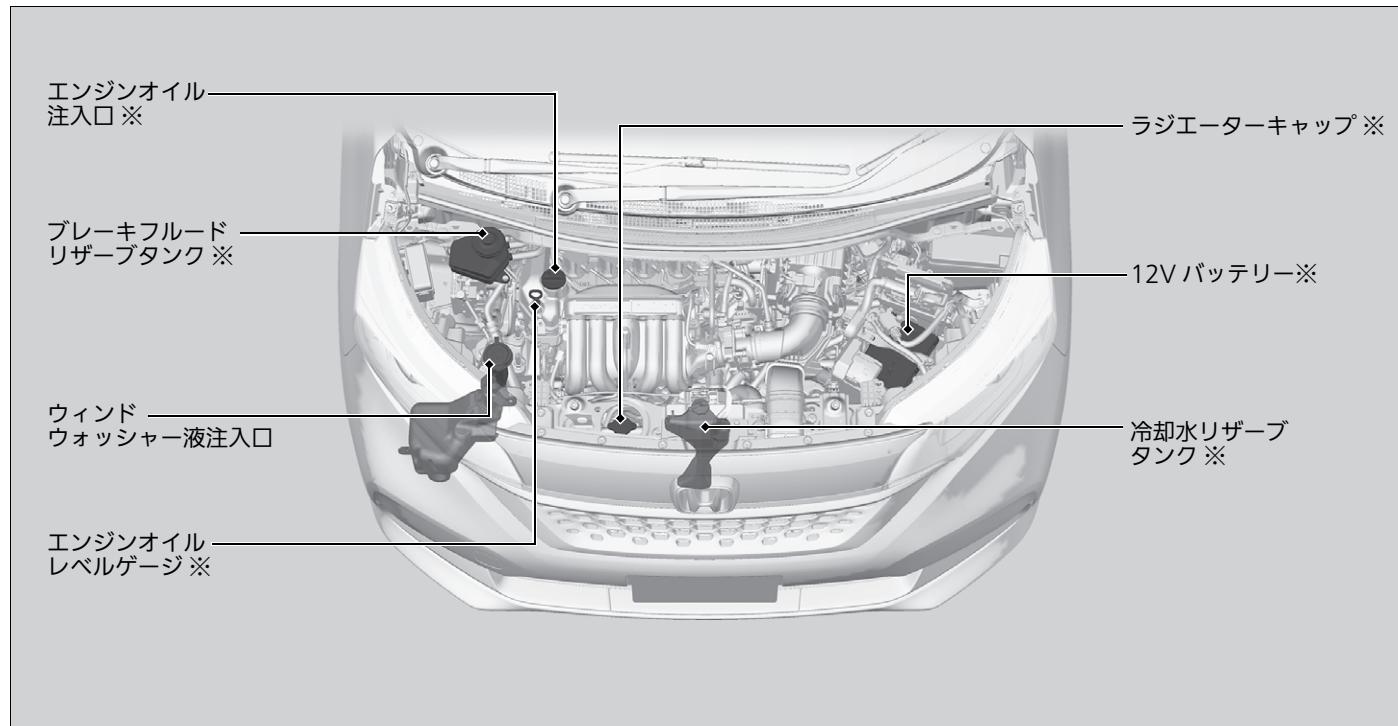
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

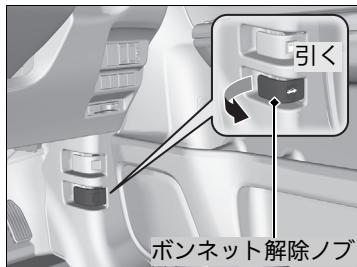
メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

エンジンルーム内のメンテナンス項目



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

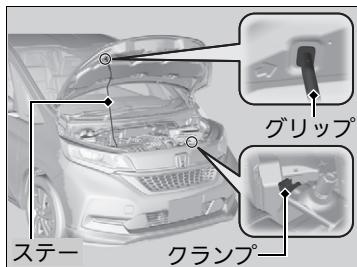
ボンネットを開ける



- 車を停め、パーキングブレーキをかける。
- 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



- ボンネット中央のレバーを左に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



- グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約 30cm の高さから手を離します。

▶ボンネットを開ける

△ 注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーを起動した状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

推奨エンジンオイル

推奨エンジンオイル :

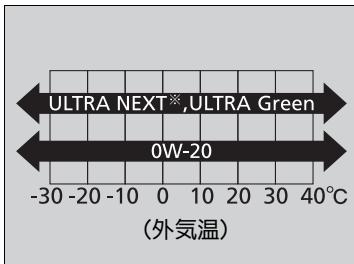
Honda 純正エンジンオイル

▣ Honda 純正エンジンオイル P.402、403

API SM もしくは SN 以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル



エンジンオイルは、量が少なかつたり劣化したものを使っていると、エンジンの不調や破損につながることがあります。



市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

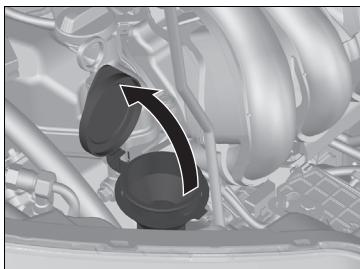
▷推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。

冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップ[°]を外し、ウォッシャータンクに補給します。

■ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れ
ないでください。

ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄
めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、
ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ロービームヘッドライト

: LED

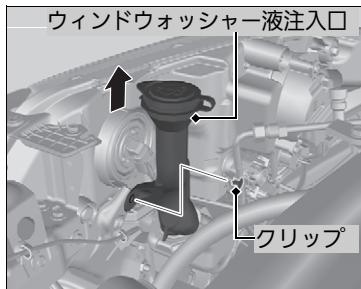
ハイビームヘッドライト

: 12V-60W

■ロービームヘッドライト

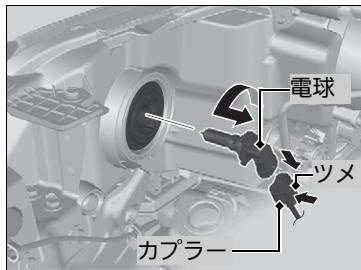
ロービームヘッドライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

■ハイビームヘッドライト



右側

1. クリップを外し、ウィンドウォッシャー液注入口を取り外す。



右側 / 左側

2. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
3. 古い電球を左に回して抜き取る。
4. 新しい電球を右に回して固定する。
5. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

■ハイビームヘッドライト

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

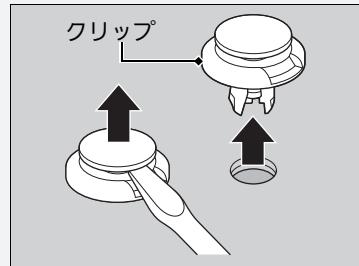
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

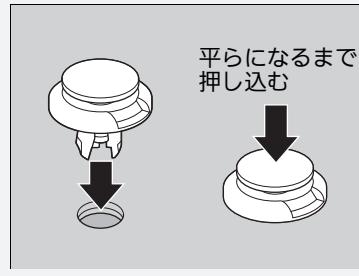
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

»ハイビームヘッドライト

クリップを外すときは、クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込んで、取り外します。

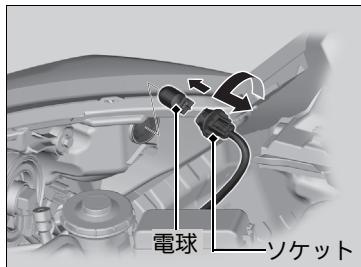


クリップを取り付けるときは、ピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。

**前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球**

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯 : 12V-21W(橙色)



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

フォグライト電球*

フォグライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

アクティブコーナーリングライト電球

アクティブコーナーリングライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

制動灯電球

制動灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

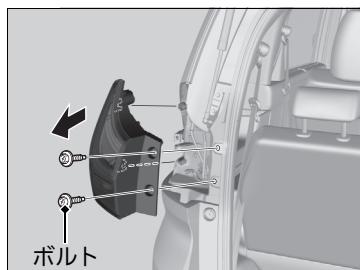
尾灯電球

尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

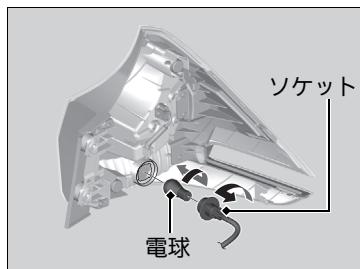
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 : 12V-21W(橙色)



1. ボルトを外し、ランプ本体を車両の後方に引き抜いて取り外す。

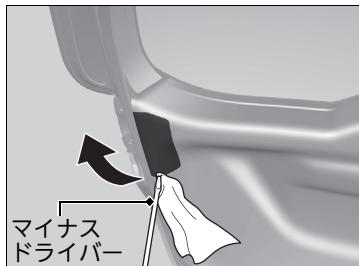


2. ソケットを左に回して外し、古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を差し込み、右に回して固定する。

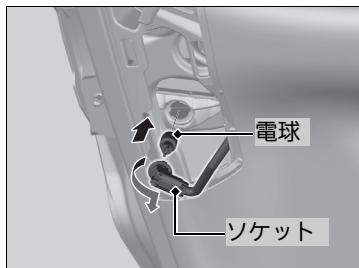
後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯 : 12V-16W



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
► カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

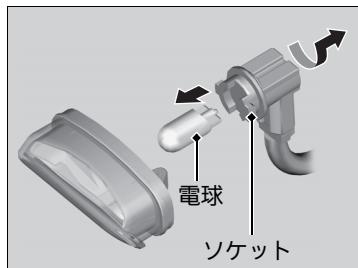
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯 : 12V-5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ソケットを右に回して外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

ハイマウントストップランプ電球

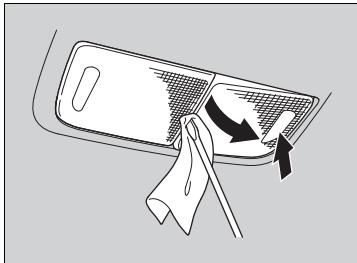
ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

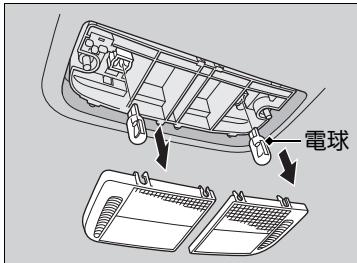
■マップランプ電球

下記の電球をご使用ください。

マップランプ : 12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
► ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

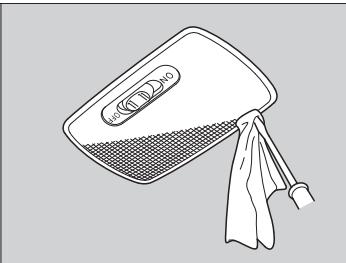


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

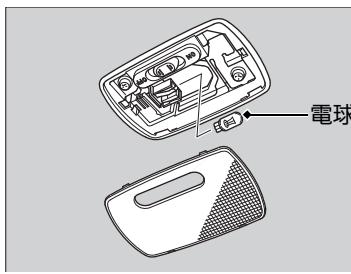
■室内灯 / テールゲート照明灯* 電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯 / テールゲート照明灯 : 12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
► ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

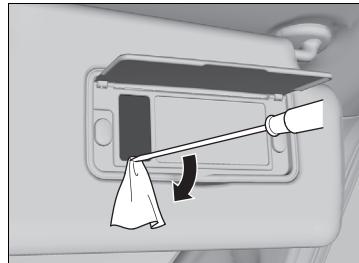


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

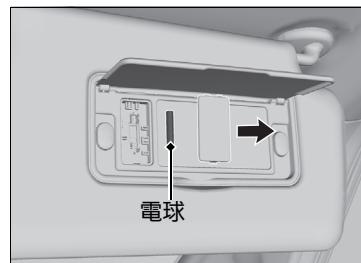
■バニティミラー照明灯電球*

下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯 : 12V-2W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
► ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

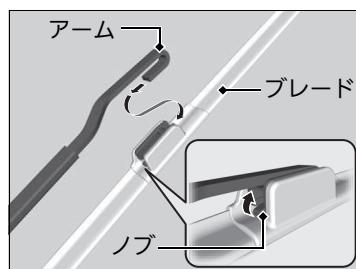
ワイパークリーナーの点検

ワイパークリーナーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドガラスを傷つけたりします。定期的にワイパークリーナーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパークリーナーの交換



- 運転席側、助手席側の順にワイパーームを起こす。



- ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

フロントワイパークリーナーの交換

アドバイス

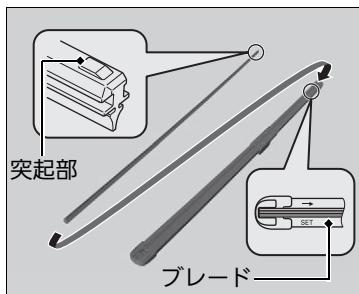
ワイパーームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

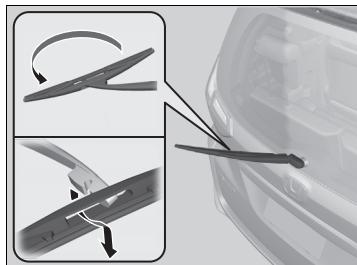


3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

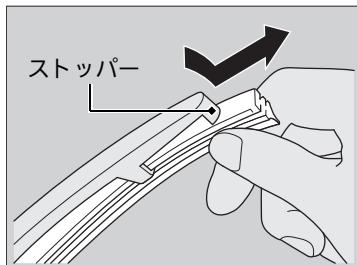


4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーの突起部がブレード先端のツメに挿入されるよう、確実に固定します。
5. ブレードをアームに取り付ける。
▶ 正しく固定されているか確認してください。
6. ワイパーarmを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

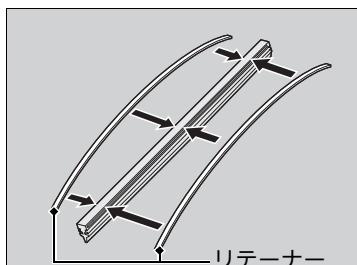
リヤワイパープレードラバーの交換



1. ワイパーアームを起こす。
2. ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを取り外す。



3. ラバーの先端部をブレードのストッパーから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

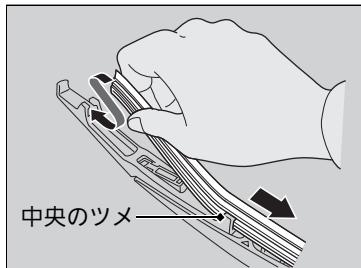


4. 引き抜いたラバーからリテナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
► リテナーには反りがあります。リテナーを図の向きでラバーに取り付けてください。

リヤワイパープレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



5. ブレード中央部のツメからラバーを挿入
し、ブレード両端のツメにラバーを通す。

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■ 日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか?
 - ▶ つぶれているように見えたなら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか?
 - ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■ タイヤの点検について

△ 警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

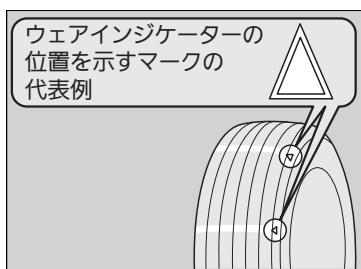
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

☞ 仕様 P.402、403

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 异常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターと同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

■タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

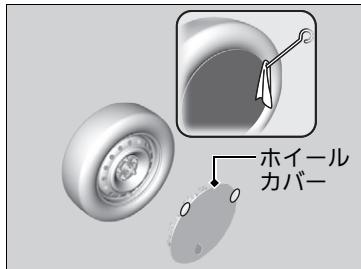
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

■ホイールカバー* の脱着方法



1. 車載工具からジャッキハンドルバーを取り出す。
➡ 工具の種類 P.356
2. ジャッキハンドルバーの先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。
 - ▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーに布などを巻き付けてください。
 - ▶ 場所を変えて2、3力所繰り返すと楽に外れます。

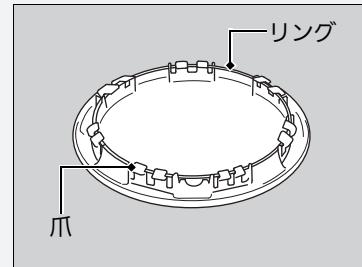
■ホイールカバー* の脱着方法

△注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

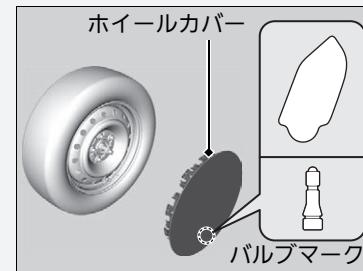
ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。

正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。



*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

» ホイールカバー^{*} の脱着方法



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右と一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

▶タイヤとホイールの交換



必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

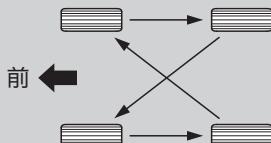
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

5,000km 走行したときタイヤのローテーションをしてください。

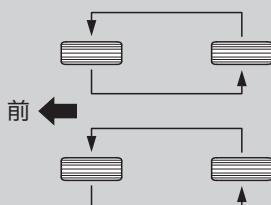
タイヤのローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合

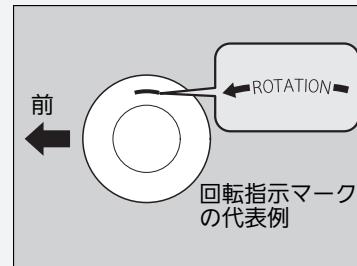


図のように、タイヤをローテーションさせます。

■タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。

図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク

108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

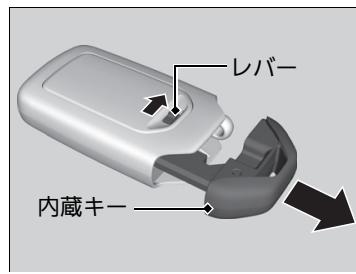
Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

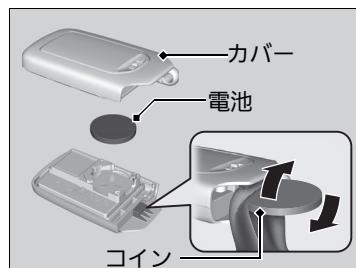
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



2. カバーを外す。

► カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. \oplus と \ominus を間違えないよう、電池を交換する。

■取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

■電池交換のしかた

⚠ 警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。

重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

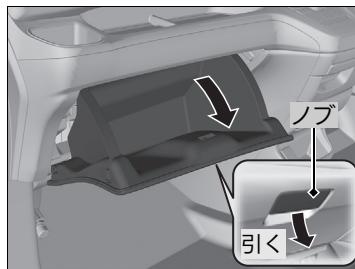
電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

エアクリーンフィルター

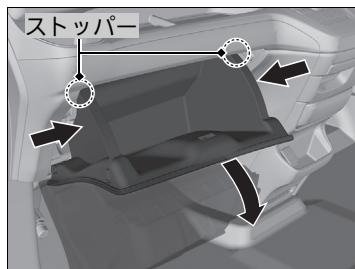
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常1年または15,000kmごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。



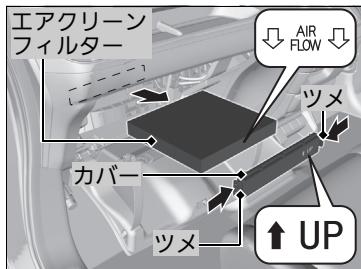
2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

■エアクリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集めし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターのカバーを外す。
4. エアクリーンフィルターを取り出す。
5. 新品と交換する。
►「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

▶車内の清掃

室内に水をかけないでください。

室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUVカット*/IRカット* ドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー(ドアガラス)の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

■本革のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。

ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

リヤガラスやリヤクオーターガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。

傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

■スーパーUVカット*/IRカットドアガラス装備車

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

フロントセンサーハーネスのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

⇒ **フロントセンサーハーネス P.302**

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は鏽の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ・海岸地帯を走行したとき
- ・コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

自動洗車機を使うとき

- ・自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ・ドアミラーを格納する
- ・ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- ・マイクロアンテナを取り外す

高圧洗浄機を使うとき

- ・洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ・ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
▶近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- ・エンジンルームには水をかけない

洗車について

故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。

故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラス^{*}について

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがあります、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ガラスのお手入れ

はっ水ガラス装備車

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- ・泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- ・みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- ・金属製のもので霜取りなどを行わない
- ・自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

■アルミホイール* のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■アルミホイール* のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

■親水ミラー* のお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
 2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
- ▶汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して
洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5~9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

■親水ミラー* のお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーを取り付けていないか?
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることができます。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか?
 - ▶ サイドカーテンエアバッグ* の作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。

それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

» アクセサリーと改造



不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。

適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。



高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

▣アクセサリーと改造

車の性能、品質を維持するために、Honda車に
最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。



お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご
相談ください。

万一の場合には

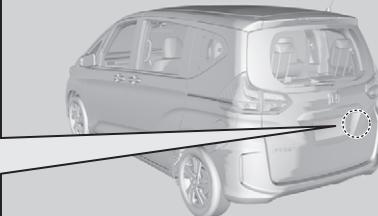
この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒	356
パンクしたとき	359
ジャッキの取り扱い	372
パワーシステムが起動しない	
パワーシステムの確認	375
Honda スマートキーの電池が切れたとき	377
緊急時のパワーシステム停止方法	378
ジャンプスタート	379
オーバーヒート	381
警告灯の点灯 / 点滅	383

ヒューズ	
ヒューズの設置場所	387
ヒューズの点検と交換	396
けん引	397
テールゲートが開かないとき	400

工具の種類

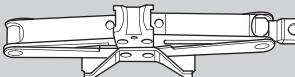
FREED



グリップ



ホイールナットレンチ
(兼ジャッキハンドル)



ジャッキ



マイナスドライバー



ジャッキハンドルバー

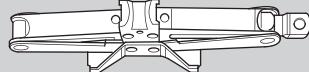
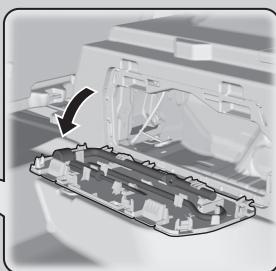
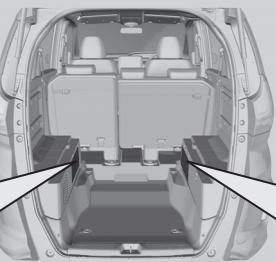
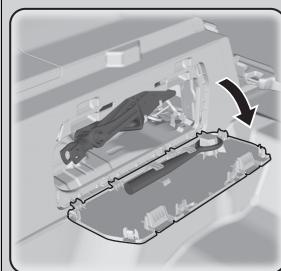


アイボルト
(けん引用)

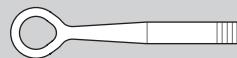
工具の種類

工具はカーゴスペース内に収納されています。

FREED+



ジャッキ



アイボルト
(けん引用)



グリップ



ホイールナットレンチ
(兼用ハンドル)



マイナスドライバー



ジャッキハンドルバー

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- ・使いかた
- ・使用上の注意
- ・発炎時間
- ・有効期限

⇒ 発炎筒 P.2

万の場合には

⇒発炎筒

⚠ 警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- ・お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思ぬ事故ややけどの原因になります。
- ・顔や身体に向けないでください。思ぬ事故ややけどの原因になります。
- ・トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。

単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

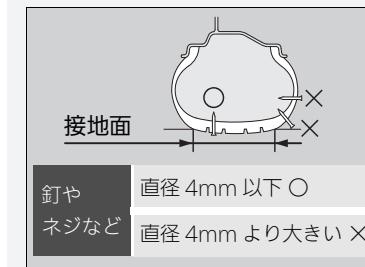
パンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

- 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
- シフトポジションを[P]にする。
- パーキングブレーキをかける。
- 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードをOFFモードにする。

▶パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

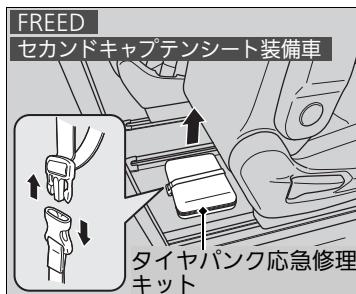
■タイヤ応急修理の準備



■タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

万の場合は



FREED

セカンドキャプテンシート装備車

- 運転席側のセカンドシートを前方いっぱいまで動かす。

⇒ セカンドキャプテンシート* P.190

FREED

セカンドベンチシート装備車

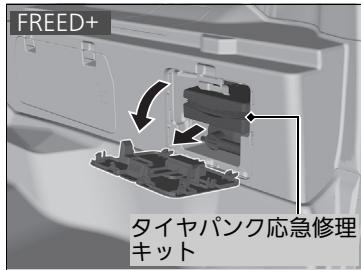
- 運転席側のセカンドシートをはね上げる。

⇒ セカンドベンチシート* P.185

FREED 共通

- タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
- 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

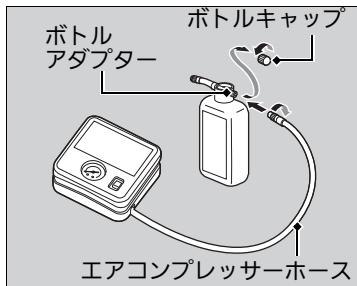
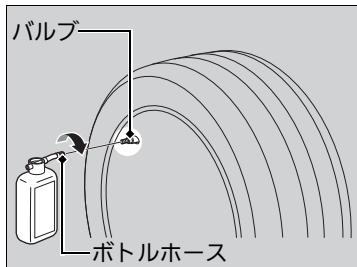
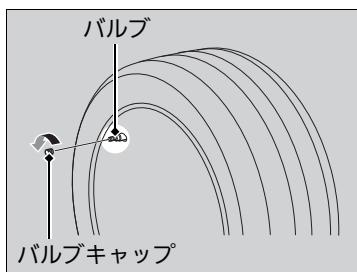
*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



FREED+

1. カーゴスペース右側のリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

■応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。

2. 応急修理剤のボトルをよく振る。

3. タイヤのバルブにボトルホースをきつく締め付ける。

▶応急修理剤がすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。

4. ボトルアダプターからボトルキャップを外す。

5. ボトルアダプターにエアコンプレッサーのエアホースをきつく締め付ける。

■応急修理剤とエアの注入

⚠ 警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- ・できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ・ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合

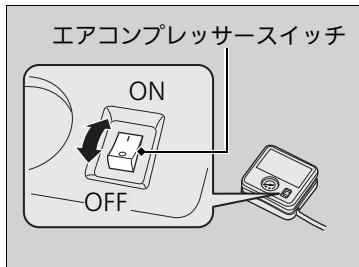
- ・水でよく洗い流してください。
- ・異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

ボトルキャップを外した後、ボトルを振らないでください。修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
7. パワーモードを ON モードにする。
▣ アクセサリーソケット P.207
▣ 一酸化炭素について P.74
8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
指定空気圧：
前輪：240 kPa(2.4 kgf/cm²)
後輪：230 kPa(2.3 kgf/cm²)
▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤と空気を注入し始めます。
9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。

応急修理剤とエアの注入

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15分以上コンプレッサーを使用しないでください。エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

- 10.** エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
- 11.** パワーモードを OFF モードにする。
- 12.** タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。

■応急修理剤とエアの注入

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

»応急修理剤とエアの注入

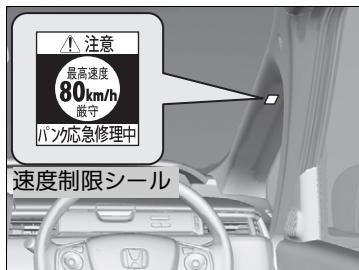
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源をOFFにしてください。

空ボトルは元の位置に収納してください。

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者によく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。

万の場合には

■点検走行

⚠ 警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

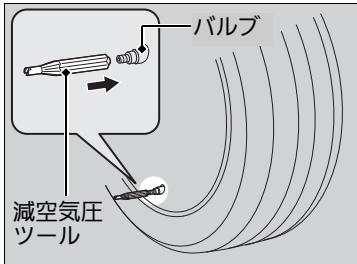
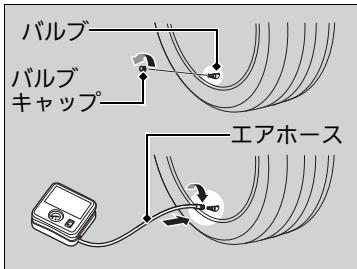
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠ 注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

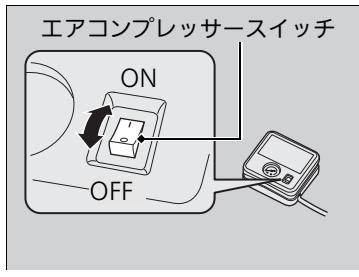
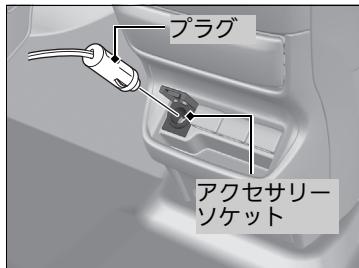
警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



4. タイヤのバルブにエアホースをきつく締め付ける。
5. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。
 - ▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。
 - 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：
応急修理剤では修理はできません。
運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
 - 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
指定空気圧：
前輪：240 kPa(2.4 kgf/cm²)
後輪：230 kPa(2.3 kgf/cm²)
- 空気圧が指定空気圧以上の場合：
減空気圧ツールを使用して数秒間空気を抜いてください。

■点検走行

走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れないか、しっかりと確認してください。



万の場合は

- 空気圧が130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、指定空気圧以下の場合はエアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。

指定空気圧 :

前輪 : 240 kPa(2.4 kgf/cm²)

後輪 : 230 kPa(2.3 kgf/cm²)

Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

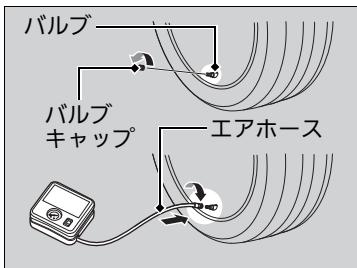
- ▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

6. タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

7. キットを車両に戻す。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. エアコンプレッサーのエアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

■タイヤ空気圧の補充

△警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

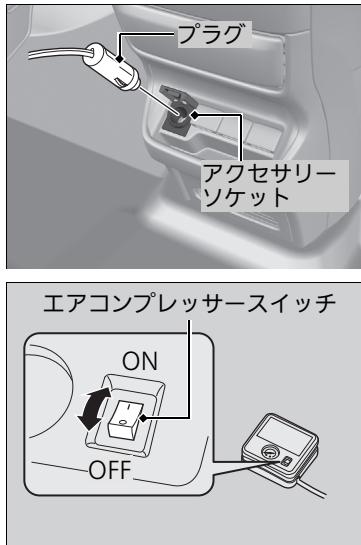
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

アドバイス

15分以上コンプレッサーを使用しないでください。エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

万の場合には



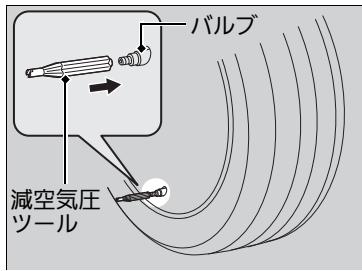
5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
▣ アクセサリーソケット P.207
6. パワーモードを ON モードにする。
▣ 一酸化炭素について P.74
7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定空気圧まで高める。
指定空気圧：
前輪：240 kPa(2.4 kgf/cm²)
後輪：230 kPa(2.3 kgf/cm²)
▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。

■タイヤ空気圧の補充

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

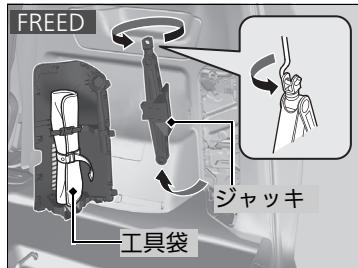
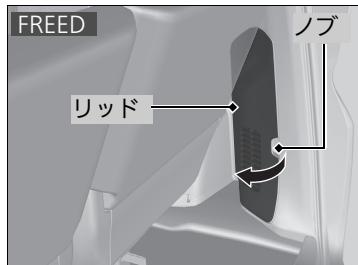
- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。



- 8. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。**
 - ▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
 - ▶ もし空気圧が高ければ、減空気圧ツールを使用して減圧します。
- 9. パワーモードを OFF モードにし、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。**
- 10. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。**
- 11. エアコンプレッサーを車両に戻す。**

ジャッキのかけかた



万の場合には

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを[P]にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードをOFFモードにする。
FREED
5. ノブを引きながらリッドを外す。
6. 工具袋を取り出す。
7. 工具袋からジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
8. ジャッキをゆるめて外す。
 - ▶ ジャッキがゆるみづらいときは、ジャッキハンドルバーを使用してゆるめてください。

■ジャッキのかけかた



車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

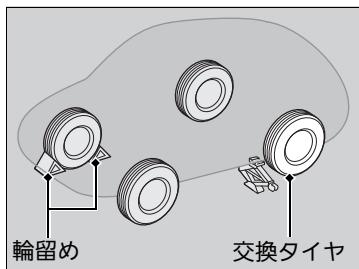
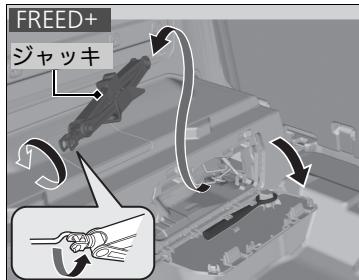
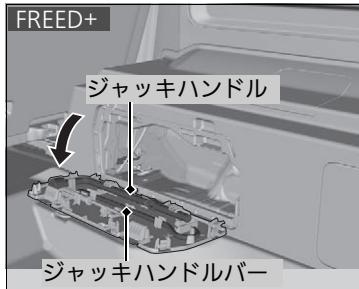


ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。



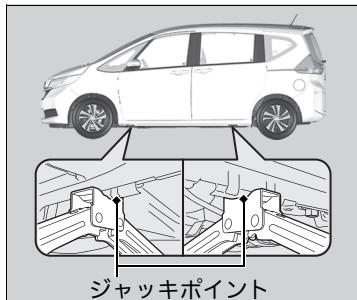
FREED+

5. カーゴスペース右側のリッドを、ノブを引いて開ける。
6. リッドの裏側からジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。

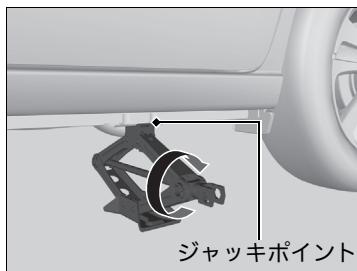
7. カーゴスペース左側のリッドを、ノブを引いて開ける。

8. ジャッキをゆるめて外す。
▶ ジャッキがゆるみづらいときは、ジャッキハンドルバーを使用してゆるめてください。

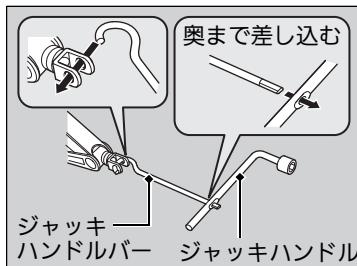
9. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。



ジャッキポイント



ジャッキポイント



ジャッキハンドルバー ジャッキハンドル

10. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

■ ジャッキのかけかた

△ 注意

後輪タイヤを交換するときは、パワースライドドアのメインスイッチをOFFにする。誤ってスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。

ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

11. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

- ▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

12. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「走行可能です」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

»パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

▣ **ジャンプスタートの方法** P.379

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯が警告メッセージ「キーが見つかりません」のメッセージが表示されるときを確認する	パワーシステム起動の作動範囲を確認します。 ■ POWERスイッチ P.167 ■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.92	パワーシステム起動の作動範囲を確認します。 ■ POWERスイッチ P.167 ■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.92
室内灯の明るさを確認する	Hondaスマートキーの電池が切れたとき Honda販売店で点検を受けてください。	Hondaスマートキーの電池が切れたとき P.377
シフトポジションを確認する	トランスマッision警告灯が点滅し、「トランスマッision点検：停車時はパーキングブレーキを確実にかけて下さい」もしくは、「停車時はパーキングブレーキをかけて下さい」とメッセージが表示されているとき 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 室内灯などの明るさに問題がない場合	トランスマッision警告灯が点滅しメッセージが表示した P.386 Honda販売店で12Vバッテリーの点検を受けてください。 全てのヒューズを確認するか、Honda販売店で点検を受けてください。 ■ ヒューズの点検と交換 P.396
P以外のシフトポジションが選択されている	パーキングスイッチを押してください。	

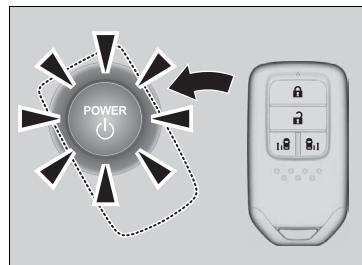
項目	状況	対処のしかた
パワーシステム起動の手順を 実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみて ください。	■パワーシステムの起動 P.223
イモビライザーシステム表示 灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているとき は、パワーシステムの起動ができません。	■イモビライザーシステム P.163 ■イモビライザーシステム表示灯 P.89

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

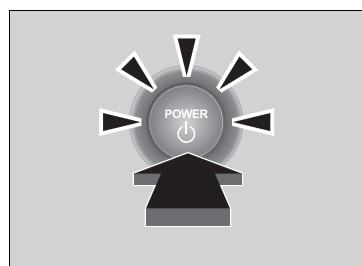
Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、**POWER**が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。

以下の手順でパワーシステムを起動してください。



- 1.** **POWER** を押す。
▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、**POWER** が約30秒間点滅します。
- 2.** **POWER** が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶「ピッ」とブザーが鳴り、**POWER** が約10秒間点灯します。
- 3.** **POWER** が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、**POWER** を押す。
▶READY 表示灯が点灯します。
▶ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。



緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するため
に使用することができます。

パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってく
ださい：

- **POWER** を約 2 秒間以上押す
- **POWER** を連続して 3 回押す

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。

車が停止すると、自動的にシフトポジションが **P** になり、パワーモードが OFF
モードになります。

万の場合には

緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に

POWER を押さないでください。

走行中に **POWER** を押すとブザーが鳴ります。

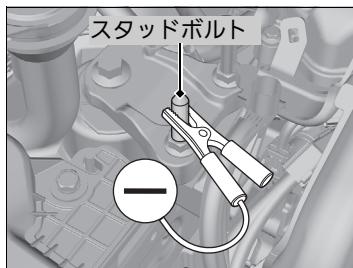
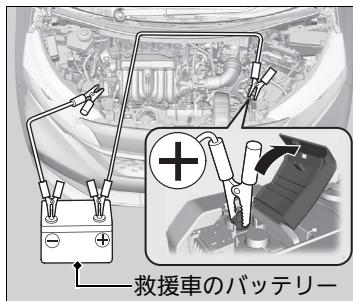
ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを **0** にする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの **+** 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの **+** 端子に接続する。
 - ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
 - ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの **-** 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

»ジャンプスタートの方法

⚠ 警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結した12Vバッテリーでジャンプスタートすると、12Vバッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。

パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの \ominus 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの \oplus 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの \oplus 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。

▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。

▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。

▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

■システム起動後の作業

⚠ 警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- ・ 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- ・ 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- ・高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- ・マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温：安全な場所に車両を停車してください」とメッセージが表示される
- ・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。

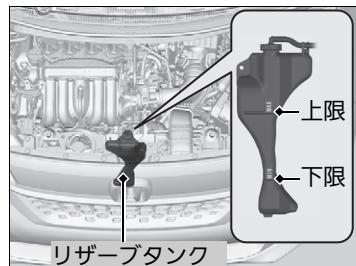
▶パーキングスイッチを押し、パーキングブレーキをかけます。

2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

▶蒸気が出でていない場合：パワーシステムを起動させたままボンネットを開ける。

▶蒸気が出でている場合：パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからパワーシステムを停止する。
▶冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

»オーバーヒートしたときの対処方法

⚠️ 警告

蒸気が出でている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda販売店に修理を依頼してください。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動し高水温警告灯を確認する。
警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、
Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. パワーシステムを停止し、3分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. パワーシステムを起動し、油圧警告灯を確認する。
▶消灯した：運転を再開してください。
▶10秒以内に消灯しない：パワーシステムを停止して、ただちにHonda販売店に修理を依頼してください。

12Vバッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

12Vバッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

安全な場所に停車して、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

»油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

»12Vバッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。

パワーシステムの起動は、12Vバッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

外気温-30℃以下でパワーシステムを起動すると警告灯が点灯することがあります。高電圧バッテリーの温度が上がると消灯します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

万の場合には

■PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

■ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

EPS(電動パワーステアリング) システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

トランスマッision警告灯が点滅しメッセージが表示した



■点滅の理由

トランスマッisionが故障すると表示します。

■点滅したらすること

- ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 - パワーシステムを起動したときは、シフトポジションを **[N]** にします。
 - ▶ 表示灯の **[N]** が点灯 / 点滅しているのを確認してください。
 - ▶ パーキングブレーキがかからっていないと起動しません。
- ▣ パワーシステムの起動 P.223

■トランスマッision警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

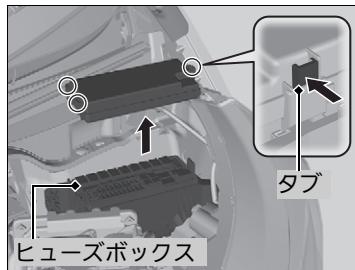
走行できないときは、専門業者に連絡してください。

⇒ 非常時のけん引 P.397

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、5つのヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

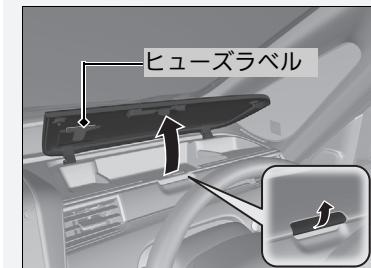


■ヒューズボックス A

エンジンルーム内の助手席側に付いている12Vバッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

運転席アッパーBOX内に収納されたラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。



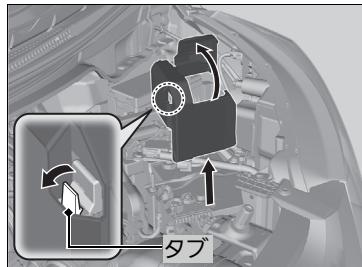
■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1	ヘッドライトロービーム (メイン)	20A
2	DCT	20A
3	△ 非常点滅表示灯	10A
4	書 i ドライブバイワイヤー	15A
5	扇 ワイパー	30A
6	◎ 制動灯	7.5A
7	書 i PGM-FI	15A
8	書 i イグニッションコイル	15A
9	DCT	20A
10	書 i ウォーターポンプ [°]	30A
11	DCT	30A
12	冷却ファン	30A
13	書 i スターターマグネチック スイッチ	30A
14	—	—
15	書 i バッテリーセンサー	7.5A
16	—	—
17	書 i ヒーテッドドアミラー [*]	(10A)
18	喇叭 ホーン	10A

万の場合は

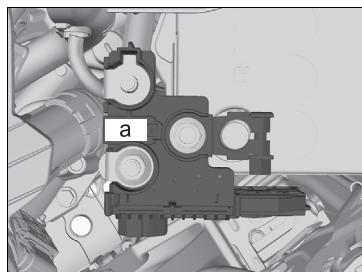
表示	装備	容量
19	フロントデフロスター [*]	(10A)
20	—	—
21	書 i バックアップ(メイン)	15A
22	祭 室内灯	7.5A
23	書 i サブファン	30A
24	—	—
25	書 i START DIAG	7.5A
26	—	—
27	—	—
28	—	—
29	書 i バックアップ [°]	10A
30	書 i LAF センサー	10A
31	書 i PGM-FI(サブ)	7.5A
32	左側ヘッドライト ロービーム	10A
33	右側ヘッドライト ロービーム	10A



■ヒューズボックスB

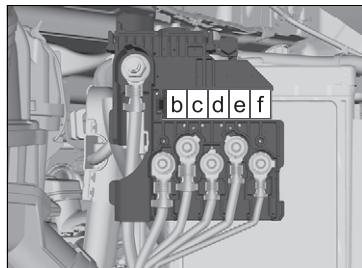
エンジンルーム内の助手席側に付いている、12V バッテリーの \oplus 端子の隣にあります。

1. \oplus 端子部分のフタを開ける。
2. タブを引いてカバーを取り外す。



■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
a	バッテリーメイン	170A
b	RB メイン 1	60A
c	RB メイン 2	80A
d	デュアルクラッチ ドライブ	60A
e	EPS	70A
f	電動サーボブレーキ	40A

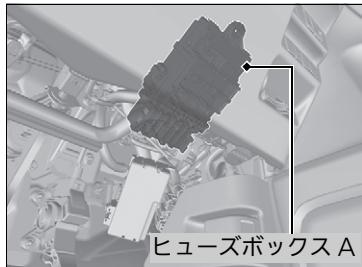


»エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスBの各ヒューズのカバーに、容量とアイコンが記載されています。

カバーの表示と図のアルファベットで、該当するヒューズの位置を確認してください。

■室内運転席側のヒューズボックス

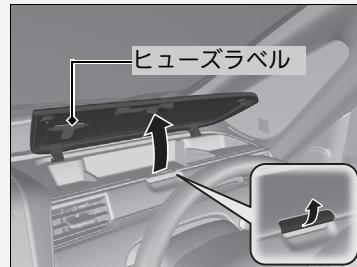


■ヒューズボックスA

アクセルペダルの上、室内運転席側のヒューズボックスBの上にあります。

■室内運転席側のヒューズボックス

運転席アッパーBOX内に収納されたラベルに、ヒューズの場所が表示しております。
ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

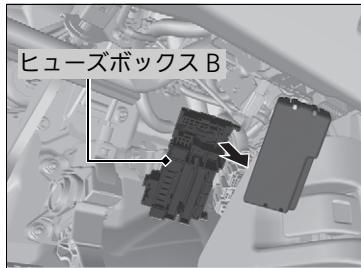
容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1	ドアロック	20A
2	—	—
3	Honda スマートキー システム	10A
4	左側ドアアンロック	10A
5	右側ドアアンロック	15A
6	—	—
7	—	—
8	運転席 パワーウィンドー	20A
9	助手席 パワーウィンドー	20A
10	後席左側 パワーウィンドー	15A
11	後席右側 パワーウィンドー	15A
12	左側ドアロック	10A
13	右側ドアロック	15A
14	フォグライト*	(10A)
15	右側ヘッドライト ハイビーム	10A

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示	装備	容量
16	—	—
17	アクティブ コーナリングライト	(10A)
18	フロントセンサーダブル	(7.5A)
19	オートリトラミラー	(7.5A)
20	運転席側イージードアクローザー	(20A)
21	助手席側イージードアクローザー	20A
22	ウォッシャー	15A
23	リヤワイパーメイン	10A
24	A/C	7.5A
25	—	—
26	オートスター	7.5A
27	VSA/ABS	7.5A
28	SRS エアバッグ システム	10A
29	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
30	ACG	10A
31	パワーウィンドー	10A
32	フューエルポンプ	15A
33	—	—
34	メーター	7.5A

表示	装備	容量
35	MISS SOL	7.5A
36	フロントアクセサリーソケット	20A
37	ACC	7.5A
38	—	—
39	オプション	7.5A
40	リヤワイパー	10A
41	—	—
42	—	—

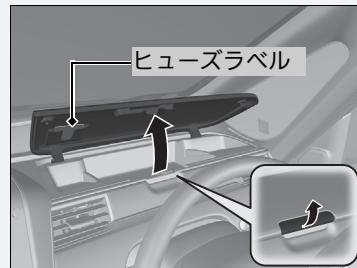


■ヒューズボックス B

アクセルペダルの上、室内運転席側のヒューズボックス A の下にあります。
カバーの上側を引いて、取り外してください。

■室内運転席側のヒューズボックス

運転席アッパーBOX内に収納されたラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

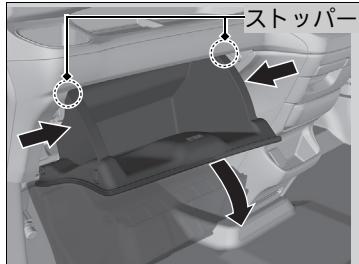
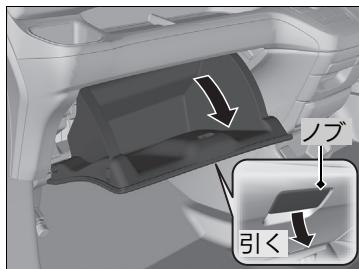
	表示	装備	容量
	—	—	70A
	—	—	30A
		ヒューズボックス メイン2	50A
1		ABS/VSA モーター	40A
		ヒューズボックス メイン	30A
		ヒューズボックス メイン3	40A
		右側パワースライド ドア	(30A)
		左側パワースライド ドア	(30A)
2		AWD	(30A) ^{※1}
	—	—	50A ^{※2}
		VMP1	(40A)
		VMP2	(30A)
		VMP2	(30A) ^{※1} (40A) ^{※2}
3		ヒーターモーター	30A
4	—	—	—

表示	装備	容量
5	ABS/VSA FSR	30A
6	シートヒーター*	(20A)
7	スマールライト	10A
8	—	(10A)
9	—	(7.5A)
10	ACC SOCKET (CONSOLE)	(20A)
11	リヤデフロスター	30A
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

※1 : AWD 車

※2 : 2WD 車

■室内助手席側のヒューズボックス



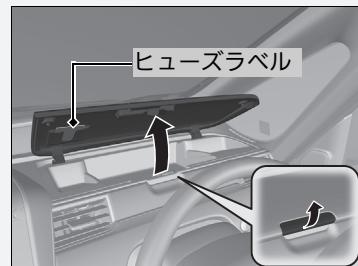
1. グローブボックスを開ける。

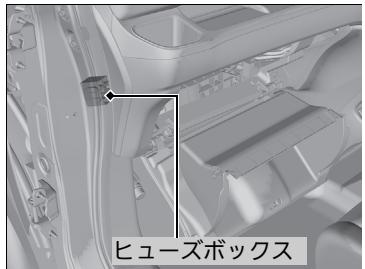
2. グローブボックスの両端に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。
► エアコンフィルターの左側にあります。

■室内助手席側のヒューズボックス

運転席アッパーBOX内に収納されたラベルに、ヒューズの場所が表示しております。

ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

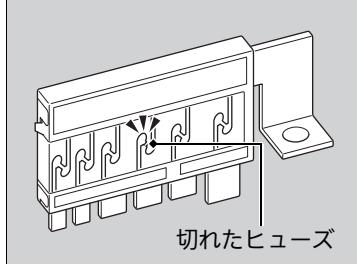
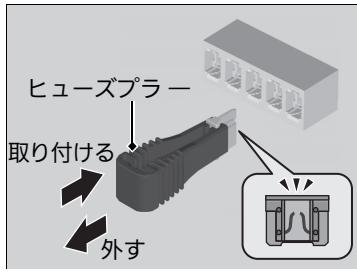
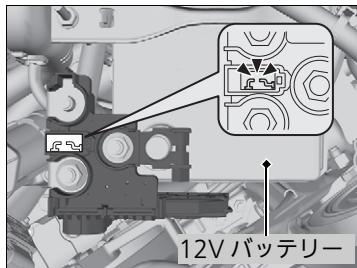




■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
1	イグニッション メイン	30A
2	SBW	10A
3	Honda スマート キーシステム	10A
4	IMA1	10A
5	—	—
6	イグニッション メイン2	30A
7	IMA2	15A
8	—	—

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードをOFFモードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーをOFFにする。
2. 12Vバッテリーの \oplus 端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、Honda販売店に修理を依頼してください。
4. エンジンルーム内のヒューズボックスAのフタを取り外す。
5. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズラーで引き抜き、新しいものと交換してください。
6. 室内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
7. 室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

万一の場合には

■ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。

交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

▣ 各ヒューズの装備と容量 P.388, 389, 391, 393, 395

エンジンルーム内のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズラーがついています。

ヒューズラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。

けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、AWD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

» 非常時のけん引

アドバイス

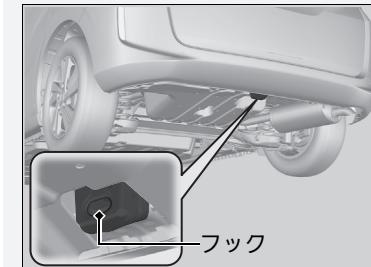
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできません。

車両後方に付いているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。

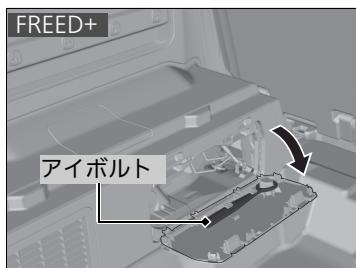
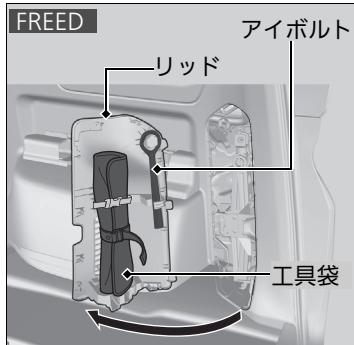
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、アイボルトを使用してください。

☞ やむをえず他車をけん引する場合 P.398



やむをえず他車をけん引する場合

やむをえず他車のけん引を行う場合、次の方で行ってください。



FREED

1. リッドを開け、工具袋、アイボルトを取り出す。
► ジャッキハンドルバーを工具袋から取り出します。

⇒ ジャッキのかけかた P.372

FREED+

1. カーゴスペース左右のリッドを開け、工具、アイボルトを取り出す。
► ジャッキハンドルバーを右側のリッドから取り出します。

⇒ ジャッキのかけかた P.372

やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

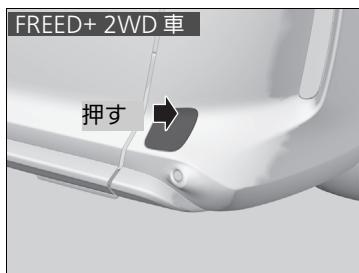
自車より重い車のけん引は避けてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「トランスマッision高温：安全な場所に車両を停車して下さい」の警告メッセージが出た場合は、安全な場所に停止してアイドリングで冷やしてください。

⇒ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.92

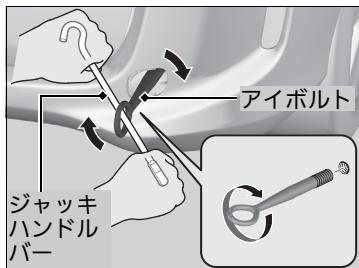


FREED



FREED+ 2WD 車

2. リッドの右側を押して、リッドを開ける。

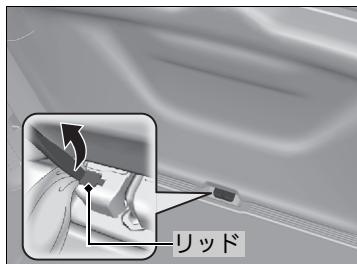


共通

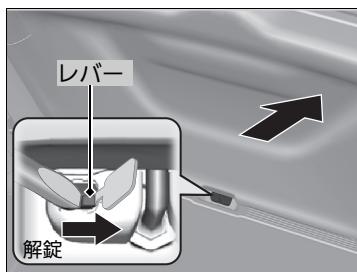
3. アイボルトがガタつかない程度まで手で締め付けてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

■開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。
▶ リッドが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。



2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

■開かないときの対処方法

△注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わずけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



仕様： FREED	402
仕様： FREED+	403

仕様：FREED

■仕様

名称	FREED
排気量	1,496 cm ³
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	6名 ^{※1} 7名 ^{※2}

※1：セカンドキャプテンシート装備車

※2：セカンドベンチシート装備車

■点火プラグ

NGK	DILZKAR7C11S
DENSO	DXE22HCR11S

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。

交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキ	遊び	9.0-17.3mm
ペダル	床板とのすき間	105mm以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
	カーペットとの すき間(参考値)	89mm以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
パーキング ブレーキ	踏みしろ	6～8 ノッチ { 約 294N(30kgf) の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ ETBE22)
燃料タンク容量	36L ^{※1} 53L ^{※2}

※1：2WD車

※2：AWD車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■12Vバッテリー

容量 / タイプ	28AH(5), 35AH(20)/38B19L-MF
----------	-----------------------------

■ウォッシャー液

タンク容量	2.0L
-------	------

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	12V-60W
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
車幅灯	LED
フォグライト*	LED
アクティブコーナリングライト	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
後退灯	12V-16W
番号灯	12V-5W
ハイマウントストップランプ	LED
マップランプ	12V-8W
室内灯	12V-8W
バニティミラー照明灯*	12V-2W

■エンジンオイル

推奨	ULTRA NEXT ^{※1} ULTRA Green ULTRA LEO	API SN SAE 0W-20
規定量	オイル交換時 オイル、オイルフィルター同時交換時	3.1L 3.3L

※1：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.65L(交換時: リザーブタンク 0.41L 含む)

■タイヤ

サイズ	185/65R15 88S
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪 240[2.4] 後輪 230[2.3]
リムサイズ	15×5 1/2J

■ディファレンシャルオイル AWD車

指定液	Honda 純正ディファレンシャルオイル DPSF-II
規定量	1.247L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF DW-1	1.3L(交換時) ^{※1} 1.6L(交換時) ^{※2}
-----	---------------------------	--

※1：2WD車

※2：AWD車

仕様：FREED+

■仕様

名称	FREED+
排気量	1,496 cm ³
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	5名

■点火プラグ

NGK	DILZKAR7C11S
DENSO	DXE22HCR11S

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキ ペダル	遊び	9.0-17.3mm
	床板とのすき間	105mm以上 { 約196N(20kgf)の力 }
	カーペットとの すき間(参考値)	89mm以上 { 約196N(20kgf)の力 }
パーキング ブレーキ	踏みしろ	6~8ノッチ { 約294N(30kgf)の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーパイオ混合ガソリン(E10/ ETBE22)
燃料タンク容量	36L ^{※1} 53L ^{※2}

※1 : 2WD 車

※2 : AWD 車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■12V バッテリー

容量 / タイプ	28AH(5), 35AH(20)/38B19L-MF
----------	-----------------------------

■ウォッシャー液

タンク容量	2.0L
-------	------

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	12V-60W
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
車幅灯	LED
フォグライト*	LED
アクティブコーナリングライト	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
後退灯	12V-16W
番号灯	12V-5W
ハイマウントストップランプ	LED
マップランプ	12V-8W
室内灯	12V-8W
テールゲート照明灯	12V-8W
パニティミラー照明灯*	12V-2W

■エンジンオイル

推薦	ULTRA NEXT ^{※1}
	ULTRA Green
	ULTRA LEO
	API SN
	SAE 0W-20
規定量	オイル交換時 3.1L
	オイル、オイルフィルター同時交換時 3.3L

※1 : 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.65L(交換時: リザーブタンク 0.41L 含む)

■タイヤ

サイズ	185/65R15 88S
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪 240[2.4] 後輪 230[2.3]
リムサイズ	15×5 1/2J

■ディファレンシャルオイル AWD 車

指定液	Honda 純正ディファレンシャルオイル DPSF-II
規定量	1.247L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF DW-1
	1.3L(交換時) ^{※1} 1.6L(交換時) ^{※2}

※1 : 2WD 車

※2 : AWD 車

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

数字

12Vバッテリー充電警告灯 79, 383

A

A/C(エアコン) 213

ABS(アンチロックブレーキシステム)

 ABS警告灯 81, 308

ACC

(アダプティブクルーズコントロール) 261

 ACC警告灯 85

 ACC表示灯 91

C

CHARGE(チャージメーター表示) 108

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 245

 CMBS警告灯 85, 86

E

ECONスイッチ 233

ECON表示灯 91

ECOスコア 10, 114

ECOドライブディスプレイ 113

EPS(電動パワーステアリング)システム

 警告灯 82

ETC車載器 2

EV表示灯 90

H

Hondaインターナビシステム 別冊

Hondaスマートキー 141, 142, 143

 Hondaスマートキー持ち去り警告 169

 電池交換のしかた 344

 パワーシステム停止操作の方法 224

I

IRカットドアガラス 348

L

LKAS(車線維持支援システム) 274

 LKAS警告灯 85

 LKAS表示灯 91

M

MAIN スイッチ 263

MIST 174

P

PGM-FI警告灯 79

POWER(パワー表示) 108

POWERスイッチ 167

R

READY表示灯 90

REAL TIME AWD

(オールホイールドライビング)システム

 AWDシステム警告灯 84

S

SRSエアバッグ 43

 エアバッグシステム警告灯 50, 81

T

TRIPスイッチ 111

U

USB/HDMIジャック 2

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

 VSA OFF警告灯 82, 240

 VSA警告灯 82, 239

W

W(ワット)数 402, 403

ア

アームレスト	197
セカンドキャプテンシート	198
セカンドベンチシート	198
フロントシート	197
アイボルト	356, 357
アクセサリー	353
アクセサリーソケット	207, 363, 370
アクティブコーナリングライト	173
電球の交換	328
アダプティブルーズコントロール (ACC)	261
ACC警告灯	85
ACC表示灯	91
安全なドライブのために	29
安全に関する表示	25
安全のための確認事項	29
アンチロックブレーキシステム(ABS) ABS警告灯	81, 308
アンテナ マイクロアンテナ	219
アンビエントメーター	11

イ

イージードアクローザー	162
一酸化炭素の危険性	74

イモビライザーシステム	163
-------------	-----

セキュリティアラームシステム作動 表示灯	89
-------------------------	----

イルミネーションコントロール	178
----------------	-----

インフォメーション表示灯	90
--------------	----

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)

方向指示器表示灯	88
----------	----

ウインドウォッシャー

ウインドウォッシャースイッチ	174
----------------	-----

ウインドウォッシャー液の補給	324
----------------	-----

ウィンドーの開閉	165
----------	-----

ウェアインジケーター	338
------------	-----

運転

シフト操作	229
-------	-----

パワーシステムの起動	223
------------	-----

ブレーキ操作	306
--------	-----

運転席アップーボックス	201
-------------	-----

エ

エアクリーナーエレメント	402, 403
--------------	----------

エアコン

エアクリーンフィルター	345
-------------	-----

オートエアコンの使いかた	214
--------------	-----

窓の曇りや霜の取りかた	215
-------------	-----

モード切り替えスイッチ	214
-------------	-----

エアバッグ

SRSエアバッグ	43
----------	----

エアバッグシステム警告灯	50, 81
--------------	--------

エアバッグシステム故障診断記録装置	25
-------------------	----

エアバッグのお手入れ	51
------------	----

サイドエアバッグ	46
----------	----

サイドカーテンエアバッグ	48
--------------	----

エコアシストシステム	10
------------	----

エマージェンシーストップシグナル	310
------------------	-----

エンジンオイル

推奨エンジンオイル	323, 402, 403
-----------	---------------

油圧警告灯	79
-------	----

エンジン作動表示	118
----------	-----

エンジンルーム内のメンテナンス	321
-----------------	-----

ウインドウォッシャー液の補給	324
----------------	-----

エンジンルーム内のメンテナンス項目	321
-------------------	-----

推奨エンジンオイル	323
-----------	-----

ポンネットを開ける	322
-----------	-----

エンジン冷却水	402, 403
---------	----------

オ

応急修理剤(タイヤパンク)	359
---------------	-----

オーディオ装置	219
---------	-----

オーディオリモートコントロールスイッチ	1
---------------------	---

オートエアコン	214
---------	-----

オートドアロック/

オートドアアンロック	153
------------	-----

オートリトラミラー	182
-----------	-----

オーバーヒート	381
オールホイールドライビング(AWD)システム AWDシステム警告灯	84
オドメーター	112
温度センサー	112

力

カーゴフック	205
外気温表示	112
鍵(かぎ)	141
カスタマイズ機能	133
ガソリン	314, 402, 403
下部取付金具	65

キ

キー	
Hondaスマートキー	141, 142, 143
Hondaスマートキーの電池が 切れたとき	377
キー閉じ込み防止装置	149
キーナンバータグ	142
キーの種類と機能	141
キーレスエントリー	147
キーレスエントリーでドアが開かない	23
後席ドアが開かない	23
電池交換のしかた	344
内蔵キー	142
キー閉じ込み防止装置	149

キーナンバータグ	142
キーレスエントリー	147
電池交換のしかた	344
キックダウン	228
給油	314
指定燃料	314
燃料計	107
燃料残量警告灯	84
給油のしかた	314

ク

空気圧	402, 403
空気圧測定器による点検	338
グラブレール	3
クリーブ現象	228
グリップ	356, 357
車の改造	353
グローブボックス	201

ケ

経過時間表示	117
計器	75
警告灯	77
12Vバッテリー充電警告灯	79
ABS(アンチロックブレーキシステム) 警告灯	81, 308
ACC(アダプティブクルーズコントロール) 警告灯(オレンジ)	85

AWD(オールホイールドライブ)システム 警告灯	84
CMBs(衝突軽減ブレーキ)警告灯	85, 86
EPS(電動パワーステアリング)システム 警告灯	82
LKAS(車線維持支援システム)警告灯 (オレンジ)	85
PGM-FI警告灯	79
VSA OFF警告灯	82, 240
VSA(ピークルスタビリティアシスト) 警告灯	82, 239
エアバッグシステム警告灯	50, 81
高水温警告灯(レッド)	83
シートベルト非着用警告灯	81
トランスマッision警告灯	80, 386
燃料残量警告灯	84
パワーシステム警告灯	83
ブレーキ警告灯(レッド)	77
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	78
油圧警告灯	79
路外逸脱抑制機能警告灯	87
警告灯の点灯/点滅	383
けん引	397

コ**交換**

アクティブコーナリングライト電球	328
エアクリーンフィルター	345
後退灯電球	330

後面方向指示器/	
後面非常点滅表示灯電球	329
室内灯電球	332
車幅灯電球	328
制動灯電球	329
前面方向指示器/	
前面非常点滅表示灯電球	327
側面方向指示器/	
側面非常点滅表示灯電球	328
テールゲート照明灯電球	332
ハイマウントストップランプ電球	331
パニティミラー照明灯電球	332
番号灯電球	331
尾灯電球	329
ヒューズ	396
ヘッドライト電球	325
マップランプ電球	332
ワイパークリーナーブラシ	333
工具	356
交差点案内表示	119
高水温警告灯(レッド)	83
航続可能距離表示	116
後退灯	330
高電圧バッテリー残量	118
高電圧バッテリーの特性	241
後方誤発進抑制機能	254
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	329
誤発進抑制機能	252
コンパス表示	119

コンビニフック 204

サ

サードシート	191
シートをはね上げて固定するとき	192
ヘッドレスト	196
サービス診断記録装置	25
データの開示について	25
サイドエアバッグ	46
サイドカーテンエアバッグ	48
サンバイザー	3

シ

シートの調節	
アームレスト	197
サードシート	191
シートをはね上げて固定するとき	192
セカンドキャプテンシート	190
セカンドベンチシート	185
フロントシート	183
ヘッドレスト	195
リフレッシュモード	194
シートヒーター	209
シートベルト	31
アンカーポイント	41
シートベルトの着用	34
シートベルトの点検	40
シートベルト非着用警告灯	32, 81

シートベルトプリテンショナー	33
シートベルトリマインダー	32
妊娠中ののかたのシートベルト着用の しかた	39
分離収納式シートベルト	37
時刻の設定	138
室内確認用ミラー	208
室内装備品	199
室内灯	
電球の交換	332
指定燃料	314
シフト操作	229
シフトポジション	229
シフトポジション表示灯	91, 230
車外の清掃	349
車線維持支援システム(LKAS)	274
LKAS警告灯	85
LKAS表示灯	91
ジャッキ	356, 357
ジャッキハンドル (ホイールナットレンチ)	356, 357
ジャッキハンドルバー	356, 357
車内の清掃	347
車幅灯	328
車両接近通報装置	234
ジャンプスタート	379
瞬間燃費表示	116
仕様	402, 403
衝撃感知ドアロック解除システム	153

衝突軽減ブレーキ(CMBS).....	245
CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯	85, 86
ショルダーアンカー	36
資料	401
信号情報活用運転支援システム	235
親水ミラー	352

ス

スイッチ操作

ECONスイッチ	233
POWERスイッチ	167
アクティブコーナリングライト	173
イルミネーションコントロール	178
ステアリング	179
フロントガラス熱線スイッチ	177
リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラー スイッチ	176
ワイパー/ウォッシャー	174
スイッチと表示	243
ステアリング	179
ステアリングスイッチ	243
スノータイヤ	343
スパークプラグ	402, 403
スピードメーター	107
スポーツハイブリッドi-DCD(インテリジェントデュアルクラッチ ドライブ)	6
スライドドアウィンドウサンシェード	208
スライドドアの開閉	156

セ

清掃	347
制動灯電球	329
セカンドキャブテンシート	190
アームレスト	198
ヘッドレスト	195
セカンドベンチシート	185
アームレスト	198
シートをはね上げるとき	186
背もたれを倒すとき	188
ヘッドレスト	196
セキュリティシステム	163
イモビライザーシステム	163
セキュリティアラームシステム	163
セレクトレバー	230
先行車発進お知らせ機能	292
センターテーブル	209
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	327

ソ

側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯	328
ソナーセンサー	305

タ

タイヤ	338
ウェアインジケーター	338
指定空気圧	402, 403
タイヤの点検	337
タイヤのローテーション	342
タイヤパンク応急修理キット	359
冬期のタイヤ	343
パンク	359
タイヤ角度モニター	120
タイヤチェーン	343
タコメーター	117

チ

チーン	343
チャージメーター表示(CHARGE)	108
チャイルドシート	73
ジュニアシート	73
乳児のチャイルドシート	53
幼児のチャイルドシート	54
チャイルドブルーフ	152
駐停車操作	311

テ

停止表示板入れ	206
停止表示板固定ベルト	206
低水温表示灯(ブルー)	88

データの開示について	25
テールゲート照明灯	200
電球の交換	332
テールゲートの開閉	154
テールゲートが開かないとき	400
デフロスター	215
リヤデフロスタースイッチ	176
点火プラグ	402, 403
電子制御ブレーキアシスト	309
電池交換	344

ト

ドアの施錠と解錠	141
Hondaスマートキー	141, 142, 143, 144
キー閉じ込み防止装置	149
キーナンバータグ	142
キーの種類と機能	141
キーレスエントリー	147
キーレスエントリーでドアが開かない	23
後席ドアが開かない	23
車外でのドアの施錠と解錠	144
車内での施錠と解錠	150
チャイルドプルーフ	152
ドア/テールゲート開閉警告	29, 94
マスタードアロックスイッチでの施錠/解錠	151
ドアミラー	181

冬期のタイヤ	343
スノータイヤ	343
タイヤチェーン	343
時計	138
トップテザーストラップ	67, 68, 69
トップテザー取付金具	67, 68, 69
ドライバー	356, 357
トラブルシューティング	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	23
キーレスエントリーでドアが開かない	23
警告灯が点灯/点滅した	383
けん引してもらいたい	397
後席ドアが開かない	23
ジャンプスタートしたい	379
走行するとブザーが鳴る	23
ハイオクガソリンは使える？	24
パワーシステムが起動しない	375
パンクした	359
ヒューズが切れた	396
ブレーキを踏むと音がする	24
ブレーキを踏むと振動する	23
トランスマッision警告灯	80, 386
トランスマッisionフルード	402, 403
トリップメーター	112
ドリンクホルダー	202

ナ

内蔵キー	142
ナビゲーションシステム	別冊

ネ

燃料	314, 402, 403
燃料計	107
燃料残量警告灯	84

ハ

パーキングブレーキ	306
排気ガスの危険性	74
ハイビーム	
電球の交換	326
ハイビーム表示灯	88
ハイマウントストップランプ	331
ハザードスイッチ	表紙ウラ
発炎筒	358
バッテリー	
12Vバッテリー充電警告灯	79
ジャンプスタート	379
容量/タイプ	402, 403
発話スイッチ	1
バニティミラー	3
パワーウィンドーの開閉	165
パワーシステム警告灯	83

パワーシステムの起動	223
ジャンプスタート	379
パワーシステムが起動しない	375
パワースライドドアの開閉	157
キーレスエントリーで開閉する	160
自動開閉と手動開閉の切り換え	159
自動で開閉するときの条件	158
ドアハンドルで開閉する	161
パワースライドドアスイッチで 開閉する	159
パワー表示(POWER)	108
パワーフロー	118
パワーモード	
パワーモードオートオフ機能	168
パワーモード警告ブザー	168
パワーモードの切り換へかた	167
パンク	359
番号灯	331
ハンドル位置調節レバー	179

ヒ

ヒーテッドドアミラー	176
非常点滅表示灯スイッチ	表紙ウラ
尾灯	329
ヒューズ	
各ヒューズの装備と	
容量	388, 389, 391, 393, 395
ヒューズの設置場所	387
ヒューズの点検と交換	396

標識認識機能	296
表示灯	88
ACC(アダプティブルーズコントロール) 表示灯(グリーン)	91
ECON表示灯	91
EV表示灯	90
LKAS(車線維持支援システム)表示灯 (グリーン)	91
READY表示灯	90
インフォメーション表示灯	90
シフトポジション表示灯	91, 230
セキュリティアラームシステム 作動表示灯	89
低水温表示灯(ブルー)	88
ハイビーム表示灯	88
フォグライト点灯表示灯	88
方向指示器/非常点滅表示灯	88
ライト点灯表示灯	88

フ

ブースターケーブル	379
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	23
走行するとブザーが鳴る	23
フューエルリッドの開けかた	314
プラズマクラスター	216
ブレーキ警告灯(レッド)	77, 384

ブレーキシステム	
ABS(アンチロックブレーキシステム)	308
エマージェンシーストップシグナル	310
電子制御ブレーキアシスト	309
パーキングブレーキ	306
フットブレーキ	307
ブレーキ警告灯(レッド)	77, 384
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	78
ブレーキを踏むと音がする	24
ブレーキを踏むと振動する	23
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	78
ブレーキフルード	402, 403
ブレーキ警告灯(レッド)	77, 384
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	78
フロアボード	210
フロントガラス熱線スイッチ	177
フロントシート	
フロントシートアームレスト	197
ヘッドレスト	195
フロントセンサーダブル	302

ヘ

平均車速表示	117
平均燃費表示	116
平均燃費履歴表示	116
ヘッドライト	
電球の交換(ハイビーム)	326
電球の交換(ロービーム)	325

ハイビーム表示灯	88
ライト点灯表示灯	88
ヘッドライト	195
サードシート	196
セカンドキャプテンシート	195
セカンドベンチシート	196
フロントシート	195

ホ

ホイールカバー	339
ホイールサイズ	402, 403
ホイールナットレンチ (ジャッキハンドル)	356, 357
方向指示器(ワインカースイッチ) 方向指示器表示灯	88
ホーンスイッチ	表紙ウラ
歩行者事故低減ステアリング	256
ホンダセンシング	242

マ

マイクロアンテナ	219
マイナスドライバー	356, 357
マスターードアロックスイッチ	151
マップランプ	199
電球の交換	332
マルチインフォメーションディスプレイ	109
メッセージ	92

ミ

ミラー	180
室内確認用ミラー	208
ドアミラー	181
バニティミラー	3
ルームミラー	180

メ

メーター	107
スピードメーター	107
タコメーター	117
チャージメーター表示(CHARGE)	108
パワー表示(POWER)	108
マルチインフォメーション ディスプレイ	109
メンテナンス	317
Hondaスマートキー	344
エアコンのお手入れ	345
エンジンルーム内のメンテナンス	321
清掃	347
タイヤの点検と整備	337
電球の交換	325
メンテナンスに関する注意事項	320
メンテナンスを安全に行うために	319
ワイパー/ブレードラバーの点検と整備	333

モ

モード切り換え(エアコン)	214
---------------	-----

ユ

油圧警告灯	79
ユーティリティーナット	211
ユーティリティーフック	205

ラ

ライトスイッチ	
ハイビーム表示灯	88
フォグライト点灯表示灯	88
ライト点灯表示灯	88

ライト類の点検と整備

アクティブコーナリングライト電球	328
後退灯電球	330
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球	329
室内灯電球	332
車幅灯電球	328
制動灯電球	329
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球	327
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球	328
テールゲート照明灯電球	332
ハイマウントストップランプ電球	331
バニティミラー照明灯電球	332

番号灯電球.....	331
尾灯電球	329
ヘッドライト電球.....	325
マップランプ電球.....	332
ラジエーター	381

リ

リアカメラシステム.....	313
リザーブタンク	381
リフレッシュモード.....	194
リムサイズ	402, 403
リヤデフロスタースイッチ.....	176

ル

ルームミラー	180
--------------	-----

レ

レーダーセンサー	304
冷却水	381, 402, 403
オーバーヒート	381
高水温警告灯(レッド)	83
低水温表示灯(ブルー)	88
補給	381

□

ロービーム

電球の交換.....	325
路外逸脱抑制機能	285
路外逸脱抑制機能警告灯	87

ワ

ワイパー/ウォッシャー	174
ワイパープレードラバー	333

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ <https://www.honda.co.jp>
(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは(株)デンソーウエーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センター
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル

0120-112010
イイフレアイオ

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関するお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離 ③ ご購入年月日 ④ 販売店名